DP83TG720S-Q1 SGMII および RGMII 対応 1000BASE-T1 車載用イーサネット PHY

1 特長

- IEEE802.3bp 1000BASE-T1 準拠
- Open Alliance TC12 の相互運用性と EMC に適合
  - OA/IEEE 準拠 PHY との相互運用性テスト済み
  - EMC 耐性、クラス IV 準拠 (UTP:シールドなしツイストペア)
- MDI ピンに LPF を内蔵
- MAC インターフェイス:RGMII、SGMII
- 対応する I/O 電圧:3.3V、2.5V、1.8V
- テキサス・インスツルメンツの 100BASE-T1 PHY とピン互換
  - 必要な BOM を変更することで、100BASE-T1 と 1000BASE-T1 に対応するシングル ボード設計
- パワー セービング機能:
  - スタンバイ、スリープ
  - ローカルおよびリモート ウェークアップ
- 診断ツール キット
  - 高精度の温度モニタ
  - 電圧モニタ
  - ESD イベント モニタ
  - データ スループット カリキュレータ:内蔵 MAC パケット ジェネレータ、カウンタ、エラー チェッカ
  - リンク品質監視
  - ケーブル開放および短絡フォルト検出
  - ループバック モード
- 25MHz クロック出力源
- VQFN、ウェッタブル フランク パッケージ
- AEC-Q100 認定済み
  - 内蔵 ESD 保護:IEC61000-4-2 ESD:±8kV 接触放電
  - デバイス温度グレード 1:–40°C ～ +125°C の動作時周囲温度

2 アプリケーション

- テレマティクス制御ユニット (TCU、TBOX)
- ゲートウェイとボディ コントロール モジュール (BCM)
- ADAS:LIDAR、レーダー、フロント カメラ

3 概要

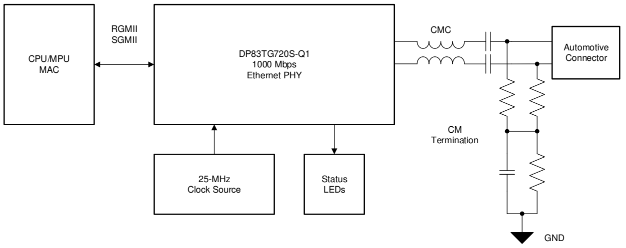
DP83TG720S-Q1 デバイスは、IEEE 802.3bp と Open Alliance に準拠した車載用イーサネット物理層トランシーバです。このデバイスには、シールドなしとシールド付きのシングル ツイストペア ケーブル上でデータを送受信するために必要な、すべての物理層機能が搭載されています。このデバイスは xMII の柔軟性があり、RGMII および SGMII MAC インターフェイスをサポートします。

DP83TG720 は Open Alliance EMC および相互運用性仕様 (シールドなしツイスト ケーブル) に準拠しています。DP83TG720 は テキサス・インスツルメンツの 100BASE-T1 PHY とフットプリント互換であるため、1 枚のボードで両方の速度に対応する、拡張性に優れた設計を実現できます。このデバイスでは、リアルタイム監視ツール、デバッグ ツール、テスト モードを豊富に備えた診断ツール キットを提供しています。ツール キットには、初めて内蔵された静電放電 (ESD) 監視ツールが含まれています。このデバイスは xMII と MDI の両方で ESD イベントをカウントでき、プログラム可能な割り込みを使用してリアルタイム監視も行えます。また、DP83TG720S-Q1 は、カスタマイズ可能な MAC パケットの生成と受信パケットのエラー チェックを行うため、データ ジェネレータおよびチェッカ ツールを内蔵しています。これにより、MAC に頼らずに、データパスをシステム レベルでテスト / 最適化できます。

製品情報

部品番号	パッケージ (1)	本体サイズ (公称)(2)
DP83TG720S-Q1	VQFN (36)	6.00mm × 6.00mm

(1) 利用可能なすべてのパッケージについては、データシートの末尾にある注文情報を参照してください。
(2) パッケージ サイズ (長さ×幅) は公称値であり、該当する場合はピンも含まれます。



概略回路図

このリソースの元の言語は英語です。翻訳は概要を便宜的に提供するもので、自動化ツール (機械翻訳) を使用していることがあり、TI では翻訳の正確性および妥当性につきましては一切保証いたしません。実際の設計などの前には、ti.com で必ず最新の英語版をご参照くださいますようお願いいたします。

目次

1 特長 1
2 アプリケーション 1
3 概要 1
4 ピン構成および機能 3
ピンの機能 4
4.1 ピンの状態 6
4.2 ピンの電源ドメイン 9
5 仕様 10
5.1 絶対最大定格 10
5.2 ESD 定格 10
5.3 推奨動作条件 10
5.4 熱に関する情報 11
5.5 電気的特性 11
5.6 タイミング要件 15
5.7 タイミング図 19
5.8 LED の駆動特性 23
6 詳細説明 24
6.1 概要 24
6.2 機能ブロック図 25
6.3 機能説明 26
6.4 デバイスの機能モード 40
6.5 プログラミング 56
6.6 レジスタマップ 60
7 アプリケーションと実装 172
7.1 アプリケーション情報 172
7.2 代表的なアプリケーション 172
7.3 電源に関する推奨事項 172
7.4 テキサス・インスツルメンツの 100BT1 PHY との互換性 175
7.5 レイアウト 176
8 デバイスおよびドキュメントのサポート 179
8.1 ドキュメントの更新通知を受け取る方法 179
8.2 サポート・リソース 179
8.3 商標 179
8.4 静電気放電に関する注意事項 179
8.5 用語集 179
9 改訂履歴 179
10 メカニカル、パッケージ、および注文情報 181
10.1 付録：パッケージ・オプション 181

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

4 ピン構成および機能

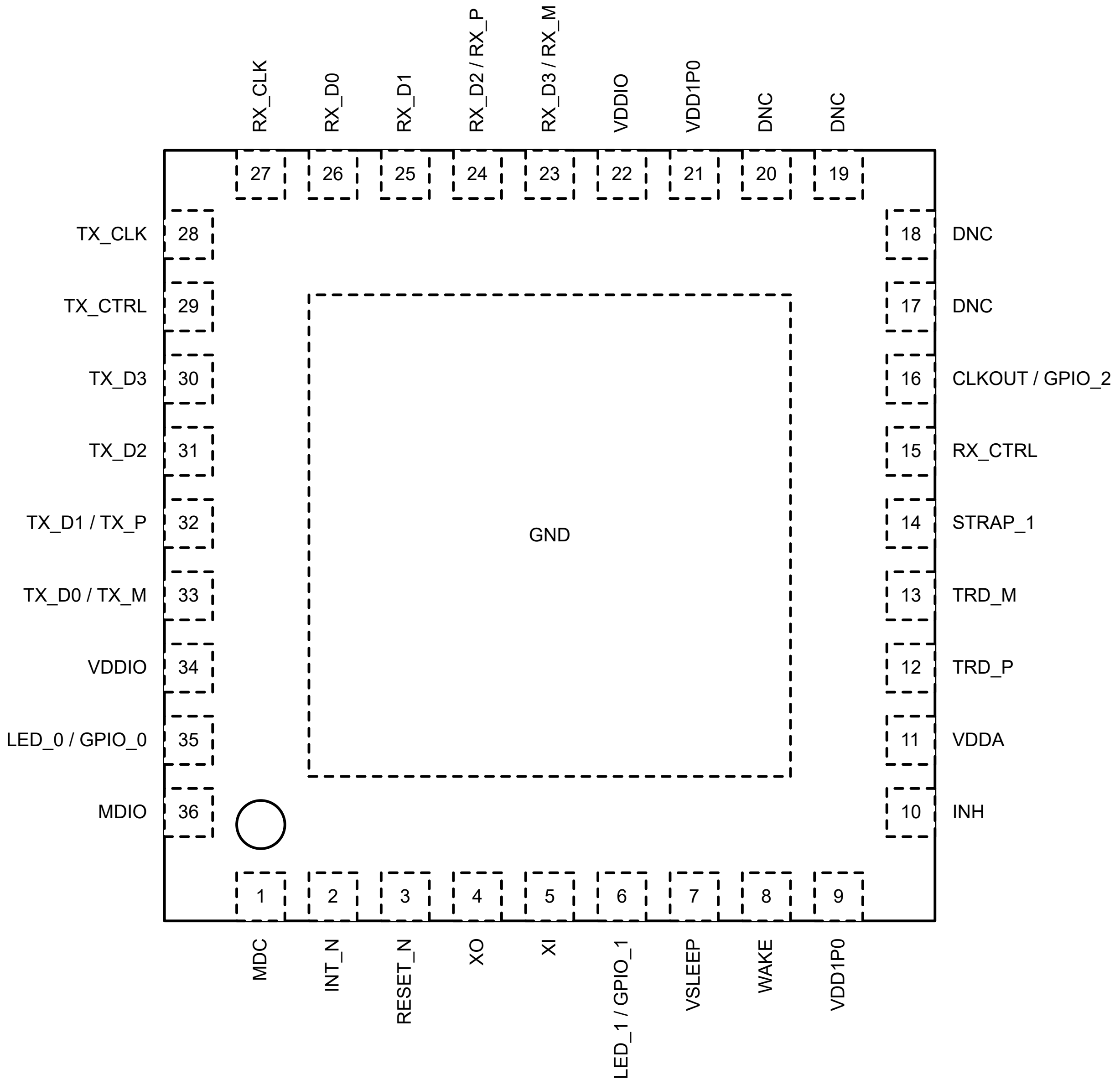


図 4-1. RHA パッケージ
36 ピン VQFN 上面図

ピンの機能

表 4-1. ピンの機能

ピン 名称	ピン 番号	状態 [1]	説明 [2]
MAC インターフェイス			
RX_D3 RX_M	23	S、PD、O	**受信データ:**ケーブルで受信されたシンボルはデコードされ、RX_CLK の立ち上がりエッジに同期してこれらのピンから送信されます。RX_DV (RX_CTL からデコード) がアサートされている場合、これらには有効なデータが含まれます。RGMII モードではニブル (RX_D[3:0]) が送信されます。 **RX_M/RX_P:**差動 SGMII データ出力。これらのピンは PHY から MAC にデータを送信します。
RX_D2 RX_P	24		
RX_D1	25		
RX_D0	26		
RX_CLK	27	O	**受信クロック:**RGMII モードでは、PHY はこの 125MHz クロックを MAC に供給します。 **SGMII モードでは未使用**
RX_CTRL	15	S、PD、O	**RGMII 受信制御:**受信制御は、受信データ有効表示と受信エラー表示を 1 つの信号に統合したものです。RX_DV は RX_CLK の立ち上がりエッジに示され、RX_ER は RX_CLK の立ち下がりエッジに示されます。 **SGMII モードではストラップとしてのみ使用**
TX_CLK	28	I	**送信クロック:**RGMII モードでは、MAC はこの 125MHz クロックを PHY に供給します。 **SGMII モードでは未使用**
TX_CTRL	29	I	**RGMII 送信制御:**送信制御は、送信イネーブルと送信エラー表示を 1 つの信号に統合したものです。TX_EN は TX_CLK の立ち上がりエッジの前に示され、TX_ER は TX_CLK の立ち下がりエッジに示されます。 **SGMII モードでは未使用**
TX_D3	30	I	**送信データ:**RGMII モードでは、送信データ ニブル (TX_D[3:0]) が MAC から受信されます。 **TX_M/TX_P:**差動 SGMII データ入力。これらのピンは、MAC から PHY に送信されたデータを受信します。
TX_D2	31		
TX_D1 TX_P	32		
TX_D0 TX_M	33		
シリアル マネージメント インターフェイス			
MDC	1	I	**管理データ クロック:**MDIO シリアル マネージメント入力および出力データに同期したクロック。
MDIO	36	OD、IO	**管理データ入出力 (Management Data Input/Output):**管理ステーションまたは PHY のいずれかから出力される双方向管理データ信号。このピンには外付けプルアップ抵抗 (推奨値 = 2.2kΩ) が必要です。
制御インターフェイス			
$\overline{\text{INT}}$	2	PU、OD、O	**割り込み:**アクティブ Low 出力。割り込み条件が発生すると、Low にアサートされます。このピンは弱いプルアップを内蔵しています。各種割り込みトリガを有効化するには、レジスタ アクセスが必要です。割り込みイベント フラグが一度セットされると、このピンの割り込みイベントをクリアするには、レジスタ アクセスが必要です。 レジスタ [0x0011] を使うことで、このピンをアクティブ High 出力として構成できます。 割り込みソースを確実にキャプチャするため、int_n ピンで割り込みがアサートされた後に、割り込みレジスタ x12、x13、x18 からステータスを読み出すことを推奨します。
$\overline{\text{RESET}}$	3	PU、I	**RESET:**DP83TG720S-Q1 を初期化または再初期化するアクティブ Low 入力。このピンを 10μs 以上 Low にアサートすると、リセット プロセスが強制的に開始されます。すべての内部レジスタは、「レジスタ マップ」セクションで各ビットに対して指定されたデフォルト状態に再初期化されます。リセットのデアサート時に、すべてのブートストラップ ピンが再サンプリングされます。
INH	10	PMOS OD	**INH:**アクティブ High の PMOS オープン ドレイン出力。PHY がスリープ状態に移行すると、外付けプルダウン抵抗 (推奨値 = 10kΩ) がラインをグランドにプルダウンできるように、PHY は INH ピンを解放します。その他の状態では、INH ピンは VSLEEP レールに High 状態を駆動します。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 4-1. ピンの機能 (続き)

ピン		状態 (1)	説明 (2)
名称	番号		
WAKE	8	PD、I	**WAKE:**ウェークアップ ピンのアクティブ High (このピンは VSLEEP ドメインで動作します) パルスにより、PHY はスリープ状態から復帰します。パルス幅については、タイミングのセクションを参照してください。スリープ状態を使わない場合、このピンを VSLEEP レールに直接接続できます。または浮動にできます。
STRP_1	14	I	**ストラップ 1:**このピンは、PHY_AD ビットをストラップするためのものです。
クロック インターフェイス			
XI	5	I	**基準クロック入力:**基準クロックの 25MHz ±100ppm 許容誤差の水晶振動子または発振器入力。本デバイスは、外付け水晶振動子 (ピン XI とピン XO の間に接続) と外付け CMOS レベル発振器 (ピン XI のみに接続、XO は浮動) のどちらにも対応しています。
XO	4	O	**基準クロック出力:**XO ピンは水晶振動子の場合にのみ使用されます。CMOS レベル発振器を XI に接続する場合、このピンは浮動したままになります。
LED/GPIO インターフェイス			
LED_0 / GPIO_0	35	S、PD、IO	**LED_0:**リンク ステータス
LED_1 / GPIO_1	6	S、PD、IO	**LED_1:**TX/RX 動作のリンク ステータスと点滅
CLKOUT/ GPIO_2	16	IO	**クロック出力:**デフォルトでは 25MHz の基準クロック (XI のバッファリング済みレプリカ)。使用しない場合、レジスタ 0x0453 = 0x0006 を書き込むことで、クロック出力を無効化できます。
メディア依存インターフェイス			
TRD_M	13	IO	**差動送信および受信:**1000BASE-T1 動作用に構成された双方向差動信号。IEEE 802.3bp 準拠。
TRD_P	12		
電源およびグランド接続			
VDDA3P3	11	電源	**コア電源:**3.3V デカップリング ネットワークについては、「電源に関する推奨事項」を参照してください。
VDDIO	22、34	電源	**IO 電源:**1.8V、2.5V、または 3.3V。デカップリング ネットワークについては、「電源に関する推奨事項」を参照してください。
VDD1P0	9、21	電源	**コア電源:**1.0V デカップリング ネットワークについては、「電源に関する推奨事項」を参照してください。
VSLEEP	7	電源	**スリープ電源:**3.3V デカップリング ネットワークについては、「電源に関する推奨事項」を参照してください。 スリープ機能を使用しない場合、このピンを VDDA3P3 に接続する必要があります。
グランド	DAP	グランド	**グランド**
接続禁止			
DNC	17、18、19、20	DNC	**DNC:**接続しないでください (テスト構造がこれらのピンに接続されており、PHY の損傷または誤モードへの移行を防止するために浮動状態に保つ必要があります)。

(1) 種類:I = 入力
O = 出力
IO = 入出力
OD = オープン ドレイン
PD = 内部プルダウン
PU = 内部プルアップ
S = ストラップ:構成ピン (すべての構成ピンは、弱い内部プルアップまたはプルダウンを備えています)。
(2) ピンを使用しない場合は、上記の表に示す推奨接続要件に従ってください。終端処理が必要ないピンは浮動させておくことができます。

4.1 ピンの状態

表 4-2. ピンの状態 - RGMII

ピン名	起動 / リセット			通常動作 - RGMII		
	ピンの状態 (1)	プル・タイプ	プル値 (kΩ)	ピンの状態 (1)	プル・タイプ	プル値 (kΩ)
MDC	I	なし	-	I	なし	-
INT_N	I	PU	9	OD	PU	9
RESET_N	I	PU	9	I	PU	9
XO	O	なし	-	O	なし	-
XI	I	なし	-	I	なし	-
LED_1	I	PD	9	O	なし	-
WAKE	I	PD	50	I	PD	50
STRP_1	I	PD	6.3	I	なし	-
INH	PMOS、OD、O	なし	-	PMOS、OD、O	なし	-
RX_CTRL	I	PD	6.3	O	なし	-
CLKOUT/GPIO_2	O	なし	-	O	なし	-
RX_D3	I	PD	9	O	なし	-
RX_D2	I	PD	9	O	なし	-
RX_D1	I	PD	9	O	なし	-
RX_D0	I	PD	9	O	なし	-
RX_CLK	I	PD	9	O	なし	-
TX_CLK	I	なし	-	I	なし	-
TX_CTRL	I	なし	-	I	なし	-
TX_D3	I	なし	-	I	なし	-
TX_D2	I	なし	-	I	なし	-
TX_D1	I	なし	-	I	なし	-
TX_D0	I	なし	-	I	なし	-
LED_0	I	PD	9	O	なし	-
MDIO	I	なし	-	IO	なし	-

(1) 種類:I = 入力
O = 出力
IO = 入出力
OD = オープン・ドレイン
PD = 内部プルダウン
PU = 内部プルアップ

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 4-3. ピンの状態 - SGMII

ピン名	起動 / リセット			通常動作 - SGMII		
	ピンの状態 (1)	プル・タイプ	プル値 (kΩ)	ピンの状態 (1)	プル・タイプ	プル値 (kΩ)
MDC	I	なし	-	I	なし	-
INT_N	I	PU	9	OD	PU	9
RESET_N	I	PU	9	I	PU	9
XO	O	なし	-	O	なし	-
XI	I	なし	-	I	なし	-
LED_1	I	PD	9	O	なし	-
WAKE	I	PD	50	I	PD	50
STRP_1	I	PD	6.3	I	なし	-
INH	PMOS、OD、O	なし	-	PMOS、OD、O	なし	-
RX_CTRL	I	PD	6.3	I	PD	6.3
CLKOUT/GPIO_2	O	なし	-	O	なし	-
RX_D3	I	PD	9	O	なし	-
RX_D2	I	PD	9	O	なし	-
RX_D1	I	PD	9	Hi-Z	PD	9
RX_D0	I	PD	9	Hi-Z	PD	9
RX_CLK	I	PD	9	Hi-Z	PD	9
TX_CLK	I	なし	-	Hi-Z	なし	-
TX_CTRL	I	なし	-	Hi-Z	なし	-
TX_D3	I	なし	-	Hi-Z	なし	-
TX_D2	I	なし	-	Hi-Z	なし	-
TX_D1	I	なし	-	I	なし	-
TX_D0	I	なし	-	I	なし	-
LED_0	I	PD	9	O	なし	-
MDIO	I	なし	-	IO	なし	-

(1) 種類:I = 入力
O = 出力
IO = 入出力
OD = オープン・ドレイン
PD = 内部プルダウン
PU = 内部プルアップ
Hi-Z = 高インピーダンス

表 4-4. ピンの状態 - スリープおよび分離

ピン名	MAC 分離			スリープ		
	ピンの状態 (1)	プル・タイプ	プル値 (kΩ)	ピンの状態 (1)	プル・タイプ	プル値 (kΩ)
MDC	I	なし	-	浮動	なし	-
INT_N	O	PU	9	浮動	なし	-
RESET_N	I	PU	9	浮動	なし	-
XO	O	なし	-	浮動	なし	-
XI	I	なし	-	浮動	なし	-
LED_1	O	なし	-	浮動	なし	-
WAKE	I	PD	50	I	なし	50
STRP_1	I	なし	-	浮動	なし	-
INH	PMOS、OD、O	なし	-	PMOS、OD、O	なし	-
RX_CTRL	I	PD	6.3	浮動	なし	-
CLKOUT/GPIO_2	O	なし	-	浮動	なし	-
RX_D3	I	PD / なし (2)	9	浮動	なし	-
RX_D2	I	PD / なし (2)	9	浮動	なし	-
RX_D1	I	PD	9	浮動	なし	-
RX_D0	I	PD	9	浮動	なし	-
RX_CLK	I	PD	9	浮動	なし	-
TX_CLK	I	なし	-	浮動	なし	-
TX_CTRL	I	なし	-	浮動	なし	-
TX_D3	I	なし	-	浮動	なし	-
TX_D2	I	なし	-	浮動	なし	-
TX_D1	I	なし	-	浮動	なし	-
TX_D0	I	なし	-	浮動	なし	-
LED_0	O	なし	-	浮動	なし	-
MDIO	IO	なし	-	浮動	なし	-

(1) 種類:I = 入力
O = 出力
IO =入出力
OD = オープン・ドレイン
PD = 内部プルダウン
PU = 内部プルアップ
Hi-Z = 高インピーダンス
浮動 = IO に電力が供給されていないため、ピンは PHY によってバイアス印加されていません。

(2) PD は、RGMII の分離モード専用です。

注

スリープ・モードに入る場合、VDDA、VDDIO、VDD1P0 はパワーダウンするものとします。詳細については、「スリープ・モードに必要な実装」の図を参照してください。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

4.2 ピンの電源ドメイン

表 4-5. ピン電源ドメイン表

ピン	RGMII モード	SGMII モード
MDC	VDDIO	VDDIO
INT_N	VDDIO	VDDIO
RESET_N	VDDIO	VDDIO
XI	VDDIO	VDDIO
XO	VDDIO	VDDIO
LED_1	VDDIO	VDDIO
WAKE	VSLEEP	VSLEEP
STRP_1	VDDIO	VDDIO
INH	VSLEEP	VSLEEP
RX_CTRL	VDDIO	VDDIO
CLKOUT/GPIO_2	VDDIO	VDDIO
RX_D3	VDDIO	VDDA
RX_D2	VDDIO	VDDA
RX_D1	VDDIO	VDDIO
RX_D0	VDDIO	VDDIO
RX_CLK	VDDIO	VDDIO
TX_CLK	VDDIO	VDDIO
TX_CTRL	VDDIO	VDDIO
TX_D3	VDDIO	VDDIO
TX_D2	VDDIO	VDDIO
TX_D1	VDDIO	VDDA
TX_D0	VDDIO	VDDA
LED_0	VDDIO	VDDIO
MDIO	VDDIO	VDDIO
TRD_P	VDDA	VDDA
TRD_M	VDDA	VDDA

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5 仕様

5.1 絶対最大定格

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り) (1)

		最小値	標準値	最大値	単位
電源電圧	VDDA3P3	-0.5		4	V
電源電圧	VDD1P0	-0.5		1.4	V
電源電圧	VDDIO (3.3V)	-0.5		4	V
電源電圧	VDDIO (2.5V)	-0.5		2.9	V
電源電圧	VDDIO (1.8V)	-0.5		2.2	V
電源電圧	V_{SLEEP}	-0.5		4	V
MDI ピン	TRD_M、TRD_P	-0.5		4	V
LVCMOS/ LVTTL 入力電圧	MDC、$\overline{\text{RESET}}$、XI、LED_1、STRP_1、RX_CTRL、CLKOUT、RX_D[3:0]、TX_CLK、TX_CTRL、TX_D[3:0]、LED_0、MDIO	-0.5		VDDIO + 0.3	V
LVCMOS/ LVTTL 入力電圧	WAKE	-0.5		V_{SLEEP} + 0.3	V
LVCMOS/ LVTTL 出力電圧	$\overline{\text{INT}}$、LED_1、RX_CTRL、CLKOUT、RX_D[3:0]、RX_CLK、LED_0、MDIO	-0.5		VDDIO + 0.3	V
LVCMOS/ LVTTL 出力電圧	INH	-0.5		VSLEEP + 0.3	V
T_J	接合部温度			150	℃
T_{stg}	保存温度	-65		150	℃

(1) 絶対最大定格を上回るストレスが加わった場合、デバイスに永続的な損傷が発生する可能性があります。これはストレスの定格のみについての話で、絶対最大定格において、またはこのデータシートの「推奨動作条件」に示された値を超える他のいかなる条件でも、本製品が正しく動作することを暗に示すものではありません。絶対最大定格の状態に長時間置くと、デバイスの信頼性に影響を及ぼす場合があります。

5.2 ESD 定格

				値	単位
$V_{(ESD)}$	静電放電	人体モデル (HBM)、AEC Q100-002 に準拠(1)	すべてのピン	±2000	V
$V_{(ESD)}$	静電放電	人体モデル (HBM)、AEC Q100-002 に準拠(1)	TRD_M、TRD_P	±8000	V
$V_{(ESD)}$	静電放電	荷電デバイス モデル (CDM)、AEC Q100-011 準拠	すべてのピン	±500	V
$V_{(ESD)}$	静電放電	IEC 61000-4-2 接触放電	TRD_M、TRD_P	±8000	V

(1) AEC Q100-002 は、HBM ストレス試験を ANSI / ESDA / JEDEC JS-001 仕様に従って実施しなければならないと規定しています。

5.3 推奨動作条件

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り)

		最小値	公称値	最大値	単位
VDDIO	IO 電源電圧、1.8V 動作	1.62	1.8	1.98	V
	IO 電源電圧、2.5V 動作	2.25	2.5	2.75	
	IO 電源電圧、3.3V 動作	2.97	3.3	3.63	
VDDA3P3	コア電源電圧、3.3V	2.97	3.3	3.63	V

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5.3 推奨動作条件 (続き)

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り)

		最小値	公称値	最大値	単位
VDD1P0	コア電源電圧、1.0V	0.95	1	1.1	V
V_{SLEEP}	スリープ電源電圧、3.3V	2.97	3.3	3.63	V
T_A	周囲温度	-40		125	℃

5.4 熱に関する情報

熱評価基準(1)		DP83TG720 RHA (VQFN) 36 ピン	単位
$R_{\theta JA}$	接合部から周囲への熱抵抗	32.5	℃/W
$R_{\theta JC(top)}$	接合部からケース (上面) への熱抵抗	22.2	℃/W
$R_{\theta JB}$	接合部から基板への熱抵抗	13.3	℃/W
Ψ_{JT}	接合部から上面への特性パラメータ	0.3	℃/W
Ψ_{JB}	接合部から基板への特性パラメータ	13.3	℃/W
$R_{\theta JC(bot)}$	接合部からケース (底面) への熱抵抗	3.2	℃/W

(1) 従来および最新の熱評価基準の詳細については、『半導体および IC パッケージの熱評価基準』アプリケーション レポートを参照してください。

5.5 電気的特性

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り) (1)

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
DC 特性						
XI						
V_{IH}	High レベル入力電圧		1.3			V
V_{IL}	Low レベル入力電圧				0.5	V
WAKE ピン	WAKE ピン	WAKE ピン	WAKE ピン	WAKE ピン	WAKE ピン	WAKE ピン
V_{IH}	High レベル入力電圧	V_{SLEEP} = 3.3V ± 10%	2			V
V_{IL}	Low レベル入力電圧	V_{SLEEP} = 3.3V ± 10%			0.8	V
INH ピン	INH ピン	INH ピン	INH ピン	INH ピン	INH ピン	INH ピン
V_{OH}	High レベル出力電圧	I_{OH} = -2mA、V_{SLEEP} = 3.3V ± 10%	2.4			V
3.3V VDDIO (2)						
V_{OH}	High レベル出力電圧	I_{OH} = -2mA、VDDIO = 3.3V ± 10%	2.4			V
V_{OL}	Low レベル出力電圧	I_{OL} = 2mA、VDDIO = 3.3V ± 10%			0.4	V
V_{IH}	High レベル入力電圧	VDDIO = 3.3V ± 10%	2			V
V_{IL}	Low レベル入力電圧	VDDIO = 3.3V ± 10%			0.8	V
2.5V VDDIO (2)						
V_{OH}	High レベル出力電圧	I_{OH} = -2mA、VDDIO = 2.5V ± 10%	2			V
V_{OL}	Low レベル出力電圧	I_{OL} = 2mA、VDDIO = 2.5V ± 10%			0.4	V
V_{IH}	High レベル入力電圧	VDDIO = 2.5V ± 10%	1.7			V
V_{IL}	Low レベル入力電圧	VDDIO = 2.5V ± 10%			0.7	V
1.8V VDDIO (2)						

5.5 電気的特性 (続き)

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り) (1)

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
V_{OH}	High レベル出力電圧	I_{OH} = -2mA、VDDIO = 1.8V ± 10%	VDDIO - 0.45			V
V_{OL}	Low レベル出力電圧	I_{OL} = 2mA、VDDIO = 1.8V ± 10%			0.45	V
V_{IH}	High レベル入力電圧	VDDIO = 1.8V ± 10%	0.7 * VDDIO			V
V_{IL}	Low レベル入力電圧	VDDIO = 1.8V ± 10%			0.3 * VDDIO	V
I_{IH}	入力 High 電流 (MDIO)	VIN = VCC、-40℃～125℃	-5		5	μA
I_{IH}	入力 High 電流 (RGMII 入力ピン、MDC)	VIN = VCC、-40℃～125℃	-20		20	μA
I_{OZ}	入力 High 電流 (MDIO)	VIN の掃引範囲は 0V～VCC、-40℃～125℃	-40		40	μA
I_{IL}	入力 Low 電流 (RGMII 入力ピン、MDC、MDIO)	VIN = GND、-40℃～125℃	-40		5	μA
I_{OZL}		INH			6	μA
I_{OZ}	トライステート出力電流 (5)	VIN の掃引範囲は 0V～VCC、-40℃～125℃	-40		10	μA
I_{OZ}	トライステート出力電流 (6)	VIN の掃引範囲は 0V～VCC、-40℃～125℃	-60		60	μA
C_{IN}	入力容量	LVCMOS/LVTTL ピン (3)			2	pF
C_{IN}	入力容量	LVCMOS/LVTTL ピン (4)			4	pF
		XI			1	pF
C_{OUT}	出力容量	LVCMOS/LVTTL ピン (3)			2	pF
C_{OUT}	出力容量	LVCMOS/LVTTL ピン (4)			4	pF
		XO			1	pF
$R_{pull-up}$	内蔵プルアップ抵抗値	$\overline{\text{INT}}$、$\overline{\text{RESET}}$	6.5	9	12.5	kΩ
$R_{pull-down}$	内蔵プルダウン抵抗値	STRP_1、RX_CTRL	4.725	6.3	7.875	kΩ
$R_{pull-down}$	内蔵プルダウン抵抗値	LED_1、RX_D[3:0]、RX_CLK、LED_0	7.3	9	13	kΩ
		WAKE	35	50	62.5	kΩ
$R_{pull-down}$	内蔵プルアップ抵抗値 (アクティブ時)	INH		106		Ω
R_{series}	内蔵 MAC 直列終端抵抗値 (デフォルト)	RX_D[3:0]、RX_CTRL、RX_CLK	24	42	52	Ω
Rseries	内蔵 MAC 直列終端抵抗値 (レジスタ <0x0456> = 0x0148)	RX_D[3:0]、RX_CTRL、RX_CLK	30	52	65	Ω
Rseries	内蔵 MAC 直列終端抵抗値 (レジスタ <0x0456> = 0x0168)	RX_D[3:0]、RX_CTRL、RX_CLK	40	70	84	Ω
消費電流、スリープ モード						
I_{SLEEP}	スリープ時の消費電流	V_{SLEEP}		485	840	μA
消費電流、リセットのアサート時						
I_{DDIO}	IO 電源電流、VDDIO = 1.8V	VDDIO		4	9	mA
I_{DDIO}	IO 電源電流、VDDIO = 2.5V	VDDIO		5	12	mA
I_{DDIO}	IO 電源電流、VDDIO = 3.3V	VDDIO		6.5	15	mA
I_{DDA3P3}	コア消費電流、3.3V	VDDA3P3		5	8	mA
I_{DD1P0}	コア消費電流、1.0V	VDD1P0		30	110	mA
消費電流、スタンバイ						
I_{DDIO}	IO 電源電流、VDDIO = 1.8V	VDDIO		4	11	mA
I_{DDIO}	IO 電源電流、VDDIO = 2.5V	VDDIO		6	13	mA

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5.5 電気的特性 (続き)

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り) (1)

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
I_{DDIO}	IO 電源電流、VDDIO = 3.3V	VDDIO		8	15	mA
I_{DDA3P3}	コア消費電流、3.3V	VDDA3P3		16	18	mA
I_{DD1P0}	コア消費電流、1.0V	VDD1P0		33	112	mA
消費電流、アクティブ モード、電圧:±10%、トラフィック:100%、パケット サイズ:1518、コンテンツ:ランダム						
I_{DDIO}	IO 電源電流、VDDIO = 1.8V	RGMII		20	25	mA
I_{DDIO}	IO 電源電流、VDDIO = 2.5V	RGMII		26	30	mA
I_{DDIO}	IO 電源電流、VDDIO = 3.3V	RGMII		33	40	mA
I_{DDIO}	IO 電源電流、VDDIO = 1.8V	SGMII		3.5	5	mA
I_{DDIO}	IO 電源電流、VDDIO = 2.5V	SGMII		5	7	mA
I_{DDIO}	IO 電源電流、VDDIO = 3.3V	SGMII		6.5	8	mA
I_{DDA3P3}	コア消費電流、3.3V	RGMII		85	89	mA
I_{DD1P0}	コア消費電流、1.0V	RGMII		177	250	mA
I_{DDA3P3}	コア消費電流、3.3V	SGMII		95	100	mA
I_{DD1P0}	コア消費電流、1.0V	SGMII		200	260	mA
I_{SLEEP}	スリープ時の消費電流	V_{SLEEP} = 3.3V ±10%		1000	1500	μA
MDI の特性						
V_{OD-MDI}	出力差動電圧	$R_{L(diff)}$ = 100Ω			1.3	V
$R_{MDI-DIFF}$	内蔵差動 MDI 終端 (アクティブ状態)	TRD_P、TRD_M		100		Ω
$R_{MDI-DIFF}$	内蔵差動 MDI 終端 (スリープ状態)	TRD_P、TRD_M		100		Ω
SGMII ドライバの DC 仕様						
$V_{OD-SGMII}$	出力差動電圧	$R_{L(diff)}$ = 100Ω	150		400	mV
$R_{OUT-DIFF}$	内蔵差動出力終端	RX_P、RX_M	78	100	130	Ω
SGMII レシーバの DC 仕様						
V_{IDTH}	入力差動スレッショルド		100			mV
$R_{IN-DIFF}$	内蔵差動入力終端	TX_P、TX_M	82	100	121	Ω
ブートストラップの DC 特性						
2 レベルのストラップ						
Vbsl_1v8	ブートストラップのスレッショルド	モード 1、VDDIO = 1.8V ± 10%、2 レベル	0		0.35*VDDIO	V
Vbsh_1v8	ブートストラップのスレッショルド	モード 2、VDDIO = 1.8V ± 10%、2 レベル	1.175		VDDIO	V
Vbsl_2v5	ブートストラップのスレッショルド	モード 1、VDDIO = 2.5V ± 10%、2 レベル	0		0.7	V
Vbsh_2v5	ブートストラップのスレッショルド	モード 2、VDDIO = 2.5V ± 10%、2 レベル	1.175		VDDIO	V
Vbsl_3v3	ブートストラップのスレッショルド	モード 1、VDDIO = 3.3V ± 10%、2 レベル	0		0.7	V
Vbsh_3v3	ブートストラップのスレッショルド	モード 2、VDDIO = 3.3V ± 10%、2 レベル	1.175		VDDIO	V
3 レベルのストラップ						
V_{bs1_1V8}	ブートストラップのスレッショルド	モード 1、VDDIO = 1.8V ± 10%、3 レベル	0		0.35 * VDDIO	V

5.5 電気的特性 (続き)

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り) (1)

パラメータ		テスト条件	最小値	標準値	最大値	単位
V_{bs2_1V8}	ブートストラップのスレッショルド	モード 2、VDDIO = 1.8V ± 10%、3 レベル	0.40 * VDDIO		0.75 * VDDIO	V
V_{bs3_1V8}	ブートストラップのスレッショルド	モード 3、VDDIO = 1.8V ± 10%、3 レベル	0.84 * VDDIO		VDDIO	V
V_{bs1_2V5}	ブートストラップのスレッショルド	モード 1、VDDIO = 2.5V ± 10%、3 レベル	0		0.19 * VDDIO	V
V_{bs2_2V5}	ブートストラップのスレッショルド	モード 2、VDDIO = 2.5V ± 10%、3 レベル	0.27 * VDDIO		0.41 * VDDIO	V
V_{bs3_2V5}	ブートストラップのスレッショルド	モード 3、VDDIO = 2.5V ± 10%、3 レベル	0.58 * VDDIO		VDDIO	V
V_{bs1_3V3}	ブートストラップのスレッショルド	モード 1、VDDIO = 3.3V ± 10%、3 レベル	0		0.18 * VDDIO	V
V_{bs2_3V3}	ブートストラップのスレッショルド	モード 2、VDDIO = 3.3V ± 10%、3 レベル	0.22 * VDDIO		0.42 * VDDIO	V
V_{bs3_3V3}	ブートストラップのスレッショルド	モード 3、VDDIO = 3.3V ± 10%、3 レベル	0.46 * VDDIO		VDDIO	V
温度センサ						
	温度センサの分解能 (LSB)	-40℃ ～ 125℃		1.5		℃
	温度センサの精度 (1 つの部品での電圧と温度による変動)	-40℃ ～ 125℃	-7.5		7.5	℃
	温度センサの精度 (電圧と温度による変動、部品間のばらつきを含む)	-40℃ ～ 125℃	-21.5		20	℃
	温度センサの範囲		-40		140	℃
電圧センサ						
	VDDA3P3 センサの範囲		2.66	3.3	3.96	V
	VDDA3P3 センサの分解能 (LSB)	-40℃ ～ 125℃		8.6		mV
	VDDA3P3 センサの精度 (電圧と温度による変動)	-40℃ ～ 125℃		8.6		mV
	VDDA3P3 センサの精度 (部品間のばらつきを含む)	-40℃ ～ 125℃	-68.8		68.8	mV
	VDD1P0 センサの範囲		0.8		1.2	V
	VDD1P0 センサの分解能 (LSB)	-40℃ ～ 125℃		2.8		mV
	VDD1P0 センサの精度 (電圧と温度による変動)	-40℃ ～ 125℃		2.8		mV
	VDD1P0 センサの精度 (部品間のばらつきを含む)	-40℃ ～ 125℃	-22.4		22.4	mV
	VDDIO センサの範囲		1.44		3.8	V
	VDDIO センサの分解能 (LSB)	-40℃ ～ 125℃		15.4		mV
	VDDIO センサの精度 (電圧と温度による変動)	-40℃ ～ 125℃		15.4		mV
	VDDIO センサの精度 (部品間のばらつきを含む)	-40℃ ～ 125℃	-78		78	mV

(1) 製造試験、特性評価、設計によって検証済み
(2) 対象ピン： LED_1、STRP_1、RX_CTRL、CLKOUT、RX_D[3:0]、RX_CLK、LED_0
(3) 対象ピン：MDC、INT、RESET、LED_1、STRP_1、RX_CTRL、CLKOUT、RX_D0、RX_D1、RX_CLK、TX_CLK、TX_CTRL、TX_D2、TX_D3、LED_0、MDIO
(4) 対象ピン：TX_D0、TX_D1、RX_D2、RX_D3
(5) 対象ピン：LED_1、RX_D[3:0]、RX_CLK、LED_0

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

(6) 対象ピン:STRP_1、RX_CTRL

5.6 タイミング要件

(1)

パラメータ		テスト条件	最小値	公称値	最大値	単位
電源投入のタイミング						
T5.1	VDDA3P3 期間 (2)	0% ～ 100% (+/-10% VDDA3P3)	0.5		40	ms
T5.2	VDD1P0 期間 (2)	0% ～ 100% (+/-10% VDD1P0)	0.1		40	ms
T5.2	VDDIO 期間 (2)	VDDIO = 1.8 V	0.1		40	ms
T5.2	VDDIO 期間 (2)	VDDIO = 2.5 V	0.1		40	ms
T5.2	VDDIO 期間 (2)	VDDIO = 3.3 V	0.1		40	ms
T5.2	V_{SLEEP} 期間 (2)	0% ～ 100% (+/-10% V_{SLEEP})	0.1		40	ms
T5.3	電源投入後の水晶振動子の安定化時間 (最後の電源レールが 100% まで立ち上がってから)			1500		µs
T5.4	電源投入後の発振器の安定化時間 (最後の電源レールが 100% まで立ち上がってから)(3)				20	ms
T5.5	レジスタ アクセスの MDC プリアンブルまでの、電源投入後安定化時間		65			ms
T5.6	ハードウェア構成:電源投入からストラップ ラッチインまでの時間				60	ms
T5.7	ハードウェア構成:ストラップ ラッチイン完了からピンが機能モードに移行するまでの時間				110	ns
T5.8	電源投入からの PAM3 アイドル ストリーム (マスタ モード)				60	ms
リセット タイミング (RESET_N)						
T6.1	リセット パルス幅		5			µs
T6.2	レジスタ アクセスの MDC プリアンブルまでの、リセット後安定化時間		1			ms
T6.3	ハードウェア構成:リセットからラッチインまでの時間				2	µs
T6.4	ハードウェア構成:ストラップ ラッチイン完了からピンが機能モードに移行するまでの時間				1.5	µs
T6.5	リセットからの PAM3 アイドル ストリーム (マスタ モード)				1500	µs
SMI タイミング						
T4.1	MDC - MDIO (出力) 遅延時間 (25pF 負荷)		0	6	10	ns
T4.2	MDC に対する MDIO (入力) のセットアップ時間		10			ns
T4.3	MDC に対する MDIO (入力) のホールド時間		10			ns
	MDC 周波数 (25pF 負荷)			2.5	20	MHz
受信レイテンシ タイミング						
	MDI の SSD シンボルから RGMII の RX_CLK の立ち上がりエッジ (RX_CTRL アサート時) まで				8	µs
	MDI の SSD シンボルから RGMII の RX_CLK の立ち上がりエッジ (RX_CTRL アサート時) まで (RS-FEC バイパス モード)				400	ns
	MDI の SSD シンボルから SGMII の最初のシンボルまで				9	µs
	MDI の SSD シンボルから SGMII の最初のシンボルまで (RS-FEC バイパス モード)				450	ns
送信レイテンシ タイミング						

5.6 タイミング要件 (続き)

(1)

	パラメータ	テスト条件	最小値	公称値	最大値	単位
	RGMII の TX_CLK の立ち上がりエッジ (TX_CTRL アサート時) から MDI の SSD シンボルまで				0.8	µs
	RGMII の TX_CLK の立ち上がりエッジ (TX_CTRL アサート時) から MDI の SSD シンボルまで (RS-FEC バイパス モード)				600	ns
	SGMII の最初のシンボルから MDI の SSD シンボルまで				0.9	µs
	SGMII の最初のシンボルから MDI の SSD シンボルまで (RS-FEC バイパス モード)				700	ns
25MHz 発振器の要件						
	周波数 (XI)			25		MHz
	温度と経時変化に対する周波数の許容誤差と安定性		-100		100	ppm
	立ち上がり / 立ち下がり時間 (10% - 90%) (6)				8	ns
	ジッタ (RMS)	5MHz まで積分			1	ps
	デューティ サイクル		40	50	60	%
RGMII タイミング						
T_{setupR}	TX_D[3:0]、TX_CLK までの TX_CTRL のセットアップ時間	PHY ピン上	1	2		ns
T_{holdR}	TX_D[3:0]、TX_CLK からの TX_CTRL のホールド時間 (5)	PHY ピン上	1	2		ns
T_{skewT}	RX_D[3:0]、RX_CLK からの RX_CTRL の遅延時間 (整列モード有効)	PHY ピン上	-500	0	500	ps
T_{skewT} (Shift)	RX_D[3:0]、RX_CLK からの RX_CTRL の遅延時間 (シフト モード有効、デフォルト) (4)	PHY ピン上	2.190	2.650	2.970	ns
T_{cyc}	クロック周期	RX_CLK	7.2	8	8.8	ns
T_{cyc}	クロック周期	TX_CLK	7.2	8	8.8	ns
Duty_G	デューティ サイクル	RX_CLK	45	50	55	%
Duty_G	デューティ サイクル	TX_CLK	45	50	55	%
Tr	立ち上がり時間 (20% ～ 80%)	CL=Ctrace=5pF			0.75	ns
Tf	立ち下がり時間 (20%～80%)	C_L = Ctrace = 5pF			0.75	ns
RGMII RX のシフト モード遅延	DLL DLL_RX_DELAY_CTRL_SL = 0 (4)		0.330	0.650	0.970	ns
	DLL DLL_RX_DELAY_CTRL_SL = 1 (4)		0.580	0.900	1.220	ns
	DLL DLL_RX_DELAY_CTRL_SL = 2 (4)		0.830	1.150	1470	ns
	DLL DLL_RX_DELAY_CTRL_SL = 3 (4)		1.000	1.400	1.720	ns
	DLL DLL_RX_DELAY_CTRL_SL = 4 (4)		1.230	1.650	1.970	ns
	DLL DLL_RX_DELAY_CTRL_SL = 5 (4)		1.490	1.990	2.220	ns
	DLL DLL_RX_DELAY_CTRL_SL = 6 (4)		1.690	2.150	2.470	ns
	DLL DLL_RX_DELAY_CTRL_SL = 7 (4)		1.960	2.400	2.730	ns
	DLL DLL_RX_DELAY_CTRL_SL = 8 (4)		2.180	2.650	2.970	ns
	DLL DLL_RX_DELAY_CTRL_SL = 9 (4)		2.490	2.900	3.220	ns
RGMII シフト TX モード遅延						
	DLL DLL_TX_DELAY_CTRL_SL = 1 (4) (8)		0.08	0.25	0.38	ns
	DLL DLL_TX_DELAY_CTRL_SL = 2 (4) (8)		0.27	0.49	0.67	ns
	DLL DLL_TX_DELAY_CTRL_SL = 3 (4) (8)		0.51	0.73	0.91	ns

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5.6 タイミング要件 (続き)

(1)

パラメータ		テスト条件	最小値	公称値	最大値	単位
	DLL DLL_TX_DELAY_CTRL_SL = 4 (4) (8)		0.75	0.97	1.15	ns
	DLL DLL_TX_DELAY_CTRL_SL = 5 (4) (8)		0.94	1.21	1.44	ns
	DLL DLL_TX_DELAY_CTRL_SL = 6 (4) (8)		1.18	1.45	1.68	ns
	DLL DLL_TX_DELAY_CTRL_SL = 7 (4) (8)		1.37	1.69	1.98	ns
	DLL DLL_TX_DELAY_CTRL_SL = 8 (4) (8)		1.61	1.93	2.22	ns
	DLL DLL_TX_DELAY_CTRL_SL = 9 (4) (8)		1.85	2.17	2.46	ns
	DLL DLL_TX_DELAY_CTRL_SL = 10 (4) (8)		2.04	2.42	2.75	ns
	DLL DLL_TX_DELAY_CTRL_SL = 11 (4) (8)		2.28	2.65	2.99	ns
	DLL DLL_TX_DELAY_CTRL_SL = 12 (4) (8)		2.52	2.9	3.23	ns
SGMII トランスミッタの AC タイミング						
	625MHz でのクロック信号のデューティ サイクル		48		52	%
T_{rise}	Vod 立ち上がり時間		100		200	ps
T_{fall}	Vod 立ち下がり時間		100		200	ps
ジッタ	出力ジッタ			200	320 (7)	ps
25MHz 水晶振動子の要件						
	周波数			25		MHz
	温度と経時変化に対する周波数の許容誤差と安定性		-100		100	ppm
	等価直列抵抗				100	Ω
出力クロック タイミング **(CLKOUT)**						
	周波数			25		MHz
	デューティ サイクル (水晶振動子を接続した場合)		45		55	%
	立ち上がり / 立ち下がり時間 (10% - 90%)				2.5	ns
	ジッタ (RMS) (スレーブ モード、MAC インターフェイス:SGMII)				5	ps
	ジッタ (RMS) (マスタ モード、MAC インターフェイス:SGMII)				2.4	ps
	ジッタ (RMS) (スレーブ モード、MAC インターフェイス:RGMII)				11	ps
	ジッタ (RMS) (マスタ モード、MAC インターフェイス:RGMII)				15	ps
スリープへの移行とウェークアップ						
	WAKE Low からスリープに入るまで、INH が Low に遷移	通常モード、MDI_Energy = FALSE sleep_en = TRUE		64	85	us
	sleep_en = True からスリープに入るまで、INH が Low に遷移 (マスタ モード)	通常モード、WAKE = Low、MDI_Energy = FALSE		5	85	us
	sleep_en = TRUE からスリープに入るまで、INH が Low に遷移 (スレーブ モード)	通常モード、WAKE = Low、MDI_Energy = FALSE			5000	us
	MDI のエネルギー喪失からスリープに入るまで、INH が Low に遷移	通常モード、WAKE = Low、sleep_en = TRUE			5	ms
	ローカル ウェークアップ パルス幅 (WAKE ピン)	スリープ モード、WAKE ピン	80			µs
	MDI からのウェークアップのための Send-S/Send-T パターンの継続時間	スリープ モード、スレーブ	1.25			ms

5.6 タイミング要件 (続き)

(1)

	パラメータ	テスト条件	最小値	公称値	最大値	単位
	ローカル ウェークアップ、INH が High に遷移	スリープ モード、WAKE ピンの立ち上がりエッジから INH の立ち上がりエッジまで			85	us
	PHY がスリープ モードにとどまる上で MDI で許容される差動ノイズ レベル	スリープ モード			200	mV pk-pk
	有効なウェークアップのためのリンク パートナーの VOD (5m ケーブルの場合)	スリープ モード	840			mV pk-pk

(1) 製造試験、特性評価、設計によって保証されています。
(2) 電源レール間の電源シーケンスの制約はありません。
(3) OSC クロックが遅れた場合、OSC クロックの安定化後に追加のリセットが必要です。
(4) RX および TX 遅延コードのプログラマビリティについては、レジスタ [0x0430] を参照してください。
(5) PHY は、最大 2ns のスキューを追加するため、TX_CLK から TX_D[3:0] を内部的に遅延させます。プログラマビリティについては、レジスタ [0x0430] を参照してください。
(6) 40%～55% のデューティ サイクルの場合、最大 8ns の立ち上がり / 立ち下がり時間をサポートしています。40%～60% のデューティ サイクルの場合、最大 6ns の立ち上がり / 立ち下がり時間をサポートしています
(7) この最大値を 300ps に低減するため (必要な場合)、追加のレジスタ設定が利用できます。
(8) 1.8V VDDIO のデータです。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5.7 タイミング図

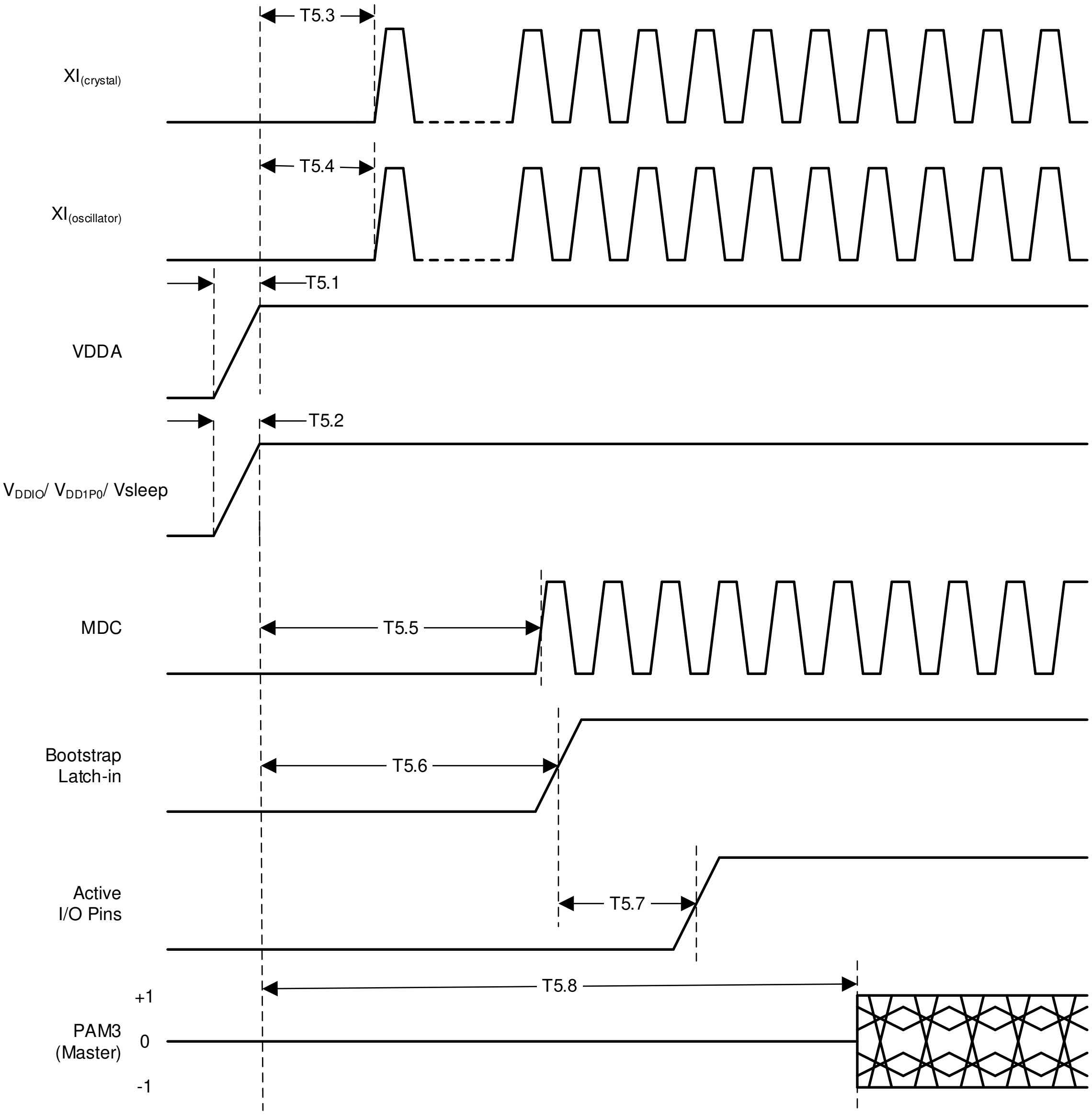


図 5-1. 起動タイミング

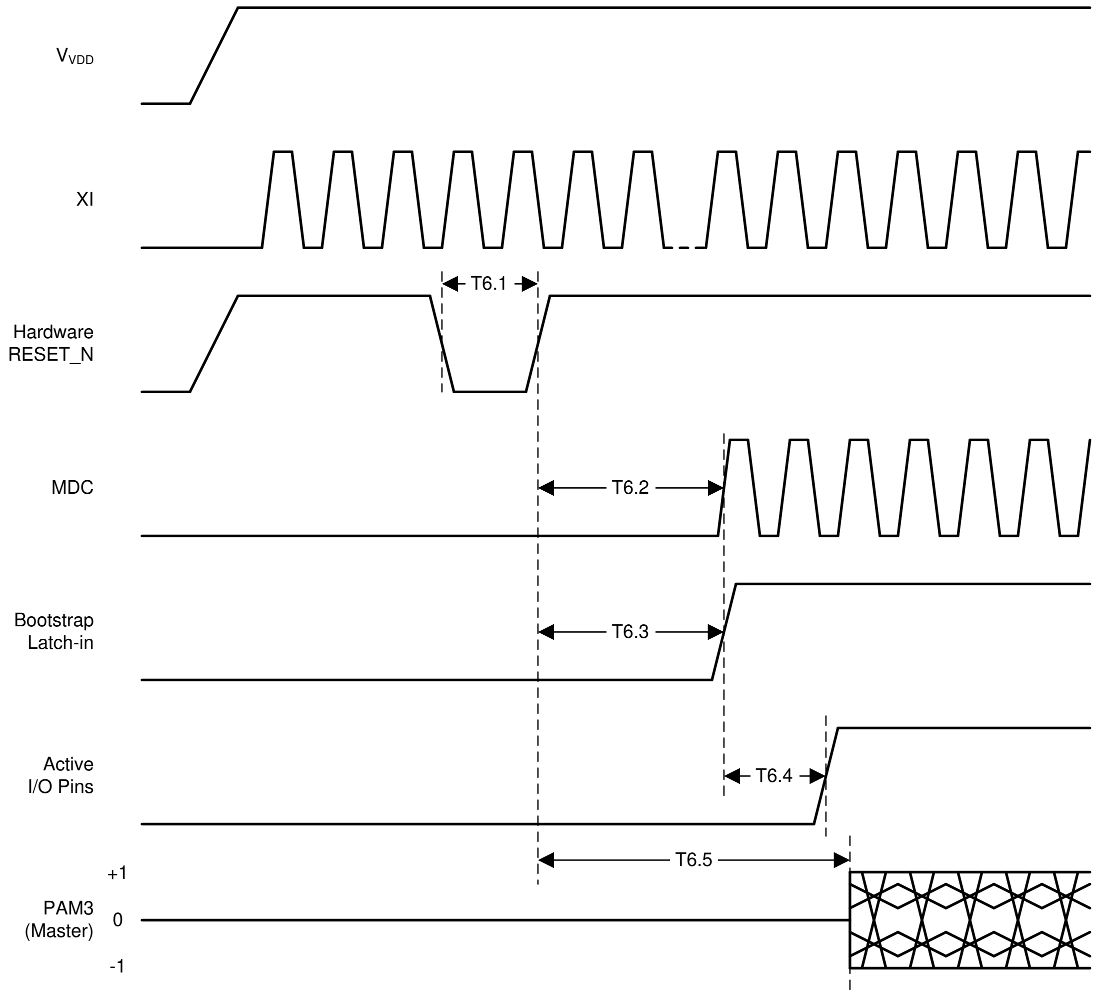


図 5-2. リセット タイミング

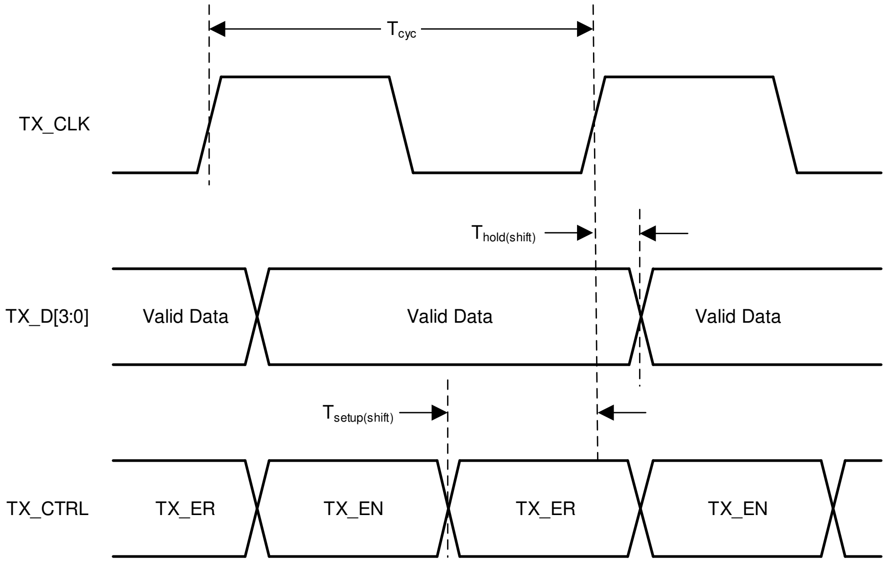


図 5-3. RGMII の送信タイミング (内部遅延有効化)

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

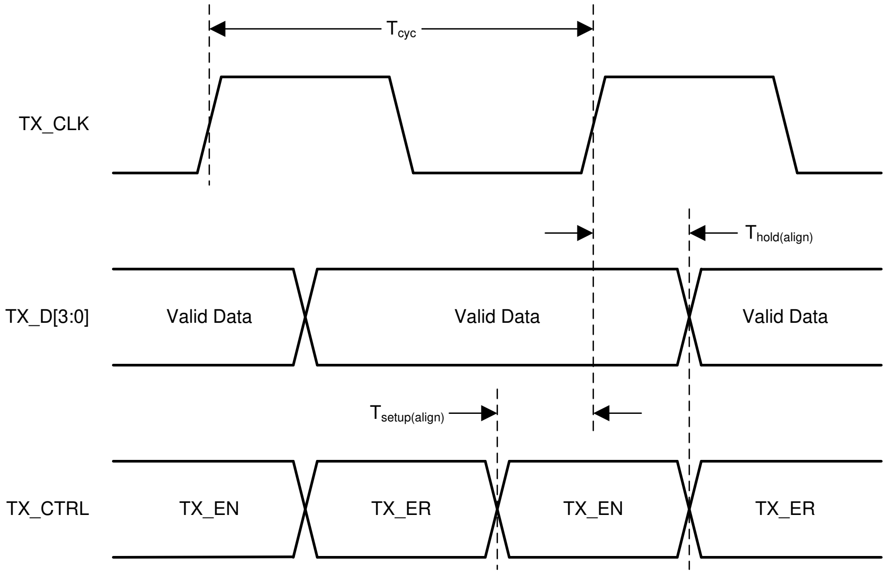


図 5-4. RGMII の送信タイミング (内部遅延無効化)

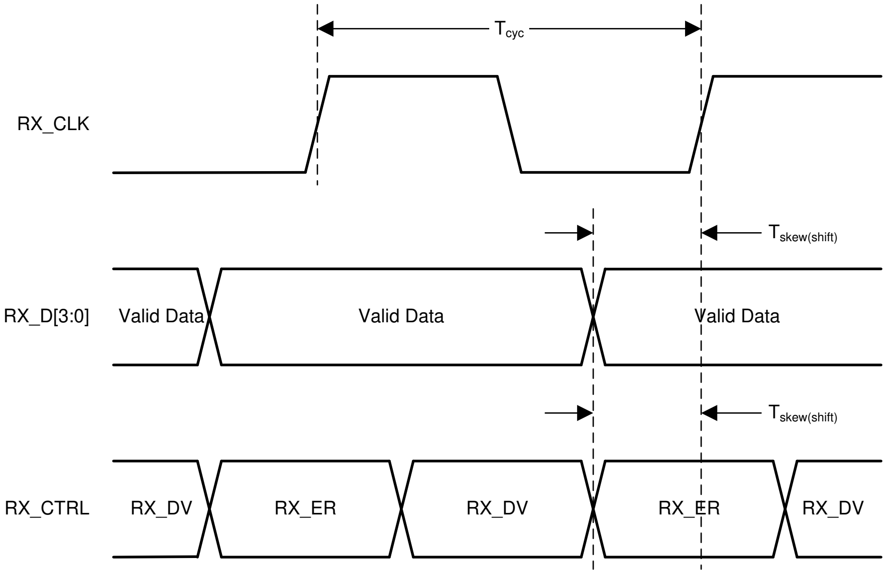


図 5-5. RGMII の受信タイミング (内部遅延有効化)

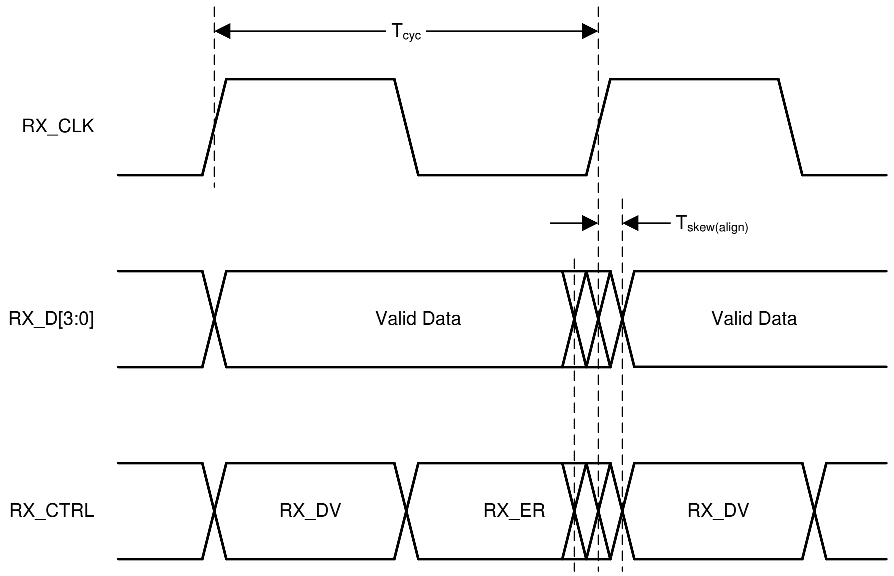


図 5-6. RGMII の受信タイミング (内部遅延無効化)

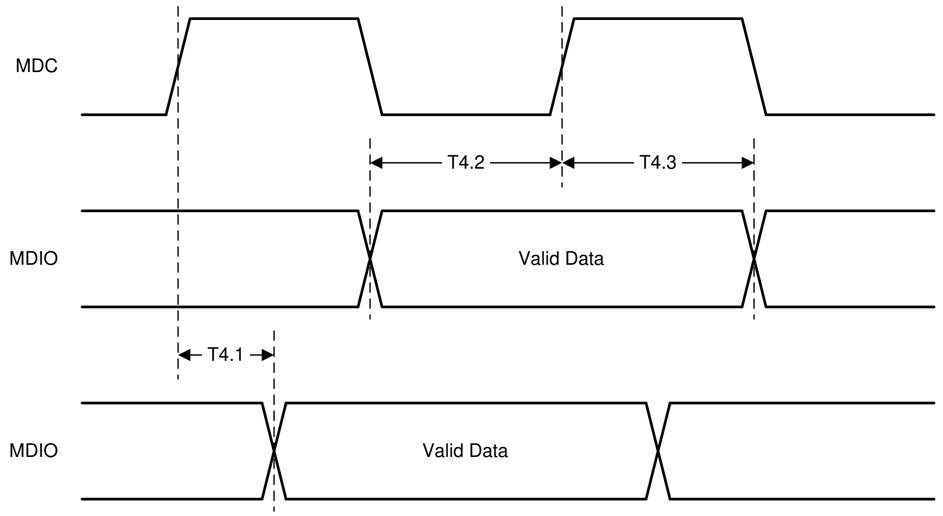


図 5-7. シリアル マネージメントのタイミング

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

5.8 LED の駆動特性

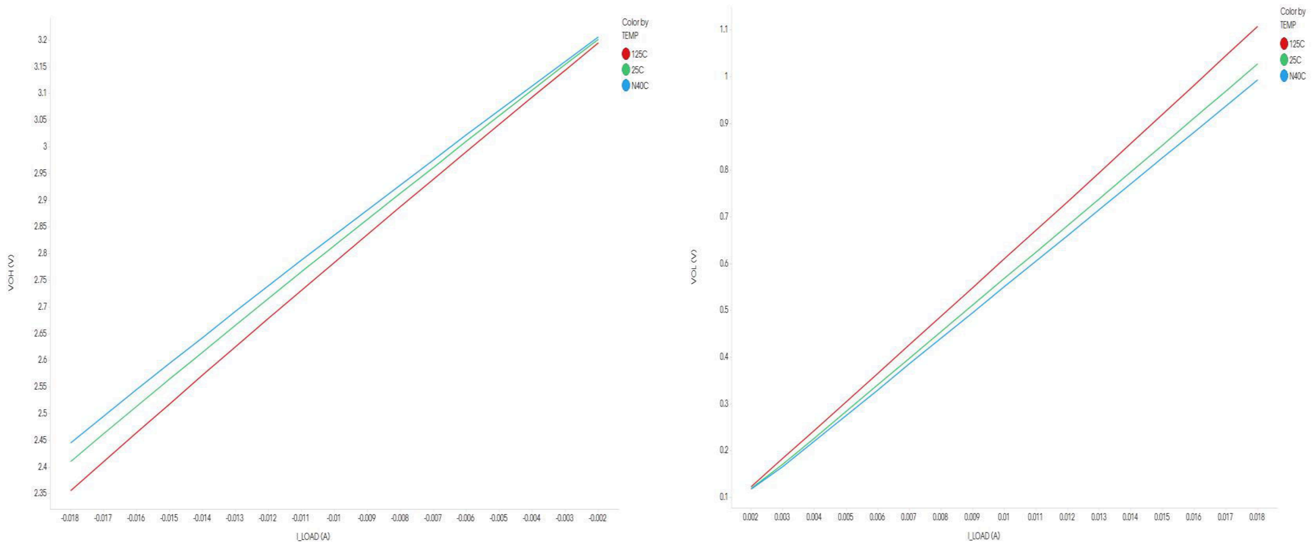


図 5-8. LED の V と I との関係 (VDDIO = 3.3V)

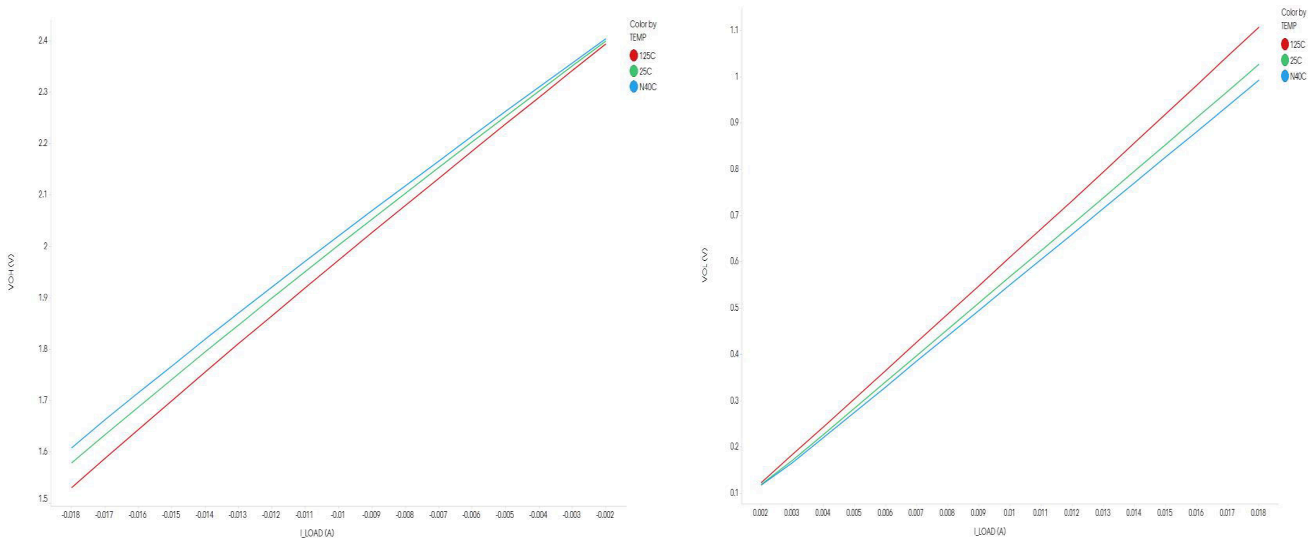


図 5-9. LED の V と I との関係 (VDDIO = 2.5V)

6 詳細説明

6.1 概要

DP83TG720S-Q1 は車載用 1000BASE-T1 イーサネット物理層トランシーバです。本デバイスは IEEE 802.3bp に準拠しており、車載アプリケーション向けに AEC-Q100 認定済みです。

このデバイスは、厳格な車載 EMC 要件を満たしながら、1Gbps の速度で動作するように特に設計されています。DP83TG720S-Q1 は、シールドなし / シールド付きの 1 対のツイストペア ケーブルを通して 750MBd で PAM3 3 値シンボルを送信します。36 ピン VQFN ウェッタブル フランク パッケージを採用した本デバイスは、単独で RGMII または SGMII をサポートするように設計されています。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.2 機能ブロック図

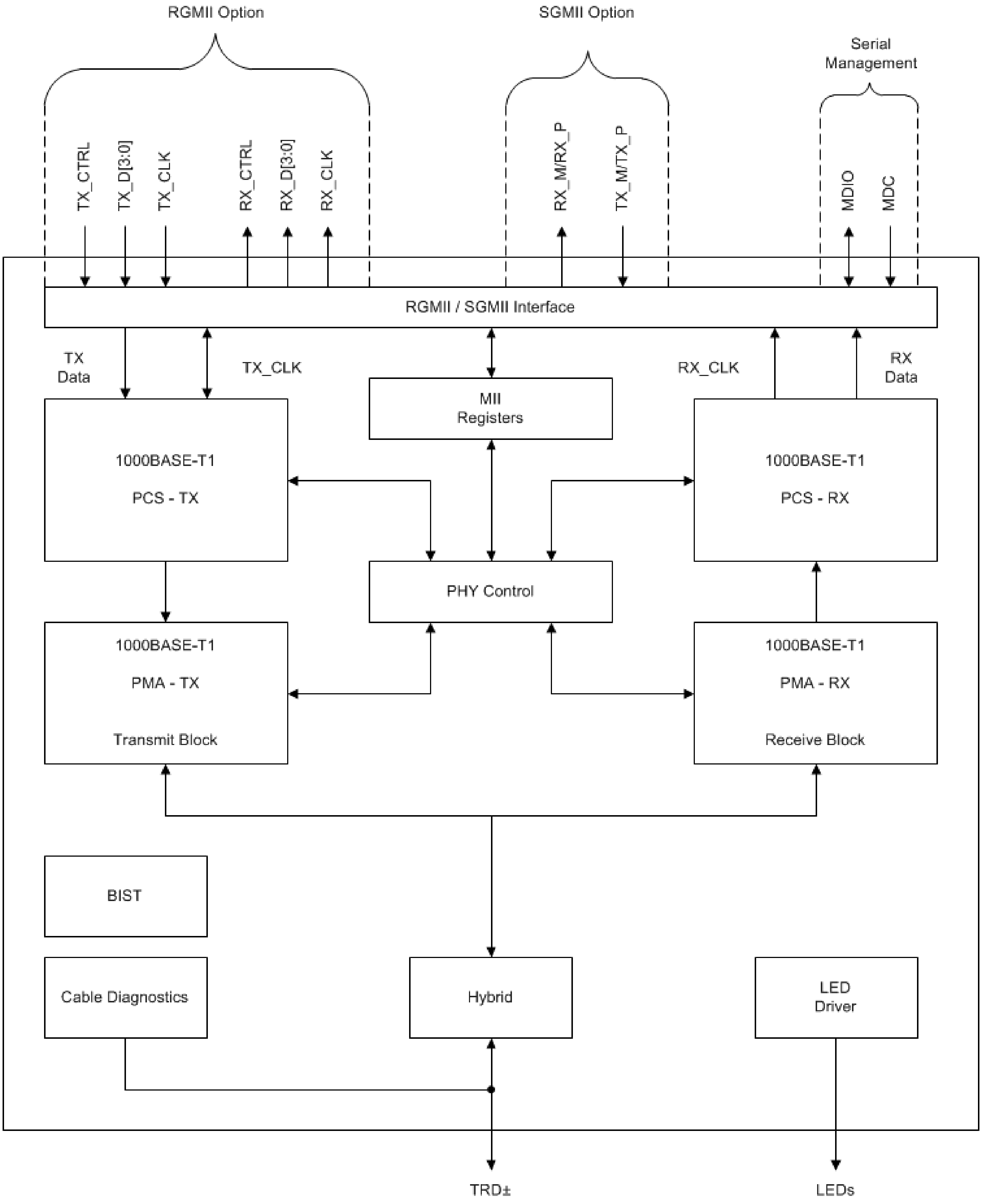


図 6-1. DP83TG720S-Q1 の機能ブロック図

6.3 機能説明

6.3.1 診断ツール・キット

DP83TG720S-Q1 の診断ツール・キットは、通常動作の監視、デバイス・レベル・デバッグ、システム・レベル・デバッグ、フォルト検出、準拠性テストのための機能を備えています。このツール・キットには、PRBS データによる内蔵セルフ・テスト、各種ループバック・モード、信号品質インジケータ (SQI)、時間領域反射計測 (TDR)、電圧モニタ、温度モニタ、静電気放電モニタ、IEEE 802.3bp テスト・モードが含まれています。

6.3.1.1 信号品質インジケータ

DP83TG720S-Q1 が動作している場合、信号品質インジケータ (SQI) を使用して、本デバイスによる SNR 測定値に基づいてリンクの品質を判定できます。

SQI は、SNR の計算値に基づいて導かれ、8 レベルの指標として示されます。ここで、レベル 5 は 10^{-10} よりも良好な BER を提供します。

注

DP83TG720 :Open Alliance TC12 SQI テストに SQI レジスタを使用する方法の詳細については、『Open Alliance 仕様準拠のための構成』アプリケーション ノートを参照してください。

6.3.1.2 時間領域反射計測

時間領域反射計測は、ケーブル上の開路および短絡フォルトの位置の検出と推定に役立ちます。

TDR は、レジスタ [0x001E] のビット [15] = 'b1 を設定することで起動します。TDR 診断プロセスが正常に完了すると、レジスタ [0x001E] のビット [1:0] が 'b10 になります。このステータス変更後、TDR の結果は次の表のレジスタで読み出すことができます。

表 6-1. TDR 結果レジスタ : 0x030F

レジスタ ビット	概要
[1:0]	• 01 = TDR の起動 • 10 = TDR オン (動作中) • 00、11 = TDR は使用できない
[3:2]	予約済み
[7:4]	• 0011 = ショート • 0110 = オープン • 0101 = ノイズ • 0111 = ケーブル OK • 1000 = テスト中、TDR オンでの初期値 • 1101 = テスト不可能 (ノイズ、リンク作動中など) • その他の値は無効です。
[13:8]	• フォルトの距離 = [13:8] の 10 進値 • 'b111111 = 分解能が不可能 / 測定範囲外
[15:14]	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

注

リンクがすでに作動している場合、TDR を実行してはいけません。作動中のラインで TDR を実行すると、TDR が失敗する可能性があり、リンクが切れる可能性もあります。

DP83TG720 :TDR の実行手順の詳細については、『Open Alliance 仕様準拠のための構成』アプリケーション ノートを参照してください。

6.3.1.3 データパス用内蔵セルフ・テスト

DP83TG720S-Q1 は、PHY レベルとシステム・レベルのデータ・パスをチェックするため、データ・パスの内蔵セルフ・テスト (BIST) を内蔵しています。BIST は、MAC にも外部データ・ジェネレータ・ハードウェア / ソフトウェアにも頼らずに、システム・レベルのデータ転送テスト (スループットなど) と診断を可能にする以下の内蔵機能を備えています。

1. ループバック・モード
2. データ・ジェネレータ
    a. カスタマイズ可能な MAC パケット・ジェネレータ
    b. 送信済みパケット・カウンタ
    c. PRBS ストリーム・ジェネレータ
3. データ・チェッカ
    a. 受信済み MAC パケット・エラー・チェッカ
    b. 受信済みパケット・カウンタ：受信済みパケットの総数とエラーが含まれる受信済みパケット数をカウントします。
    c. PRBS ロックおよび PRBS エラー・チェッカ

6.3.1.3.1 ループバック モード

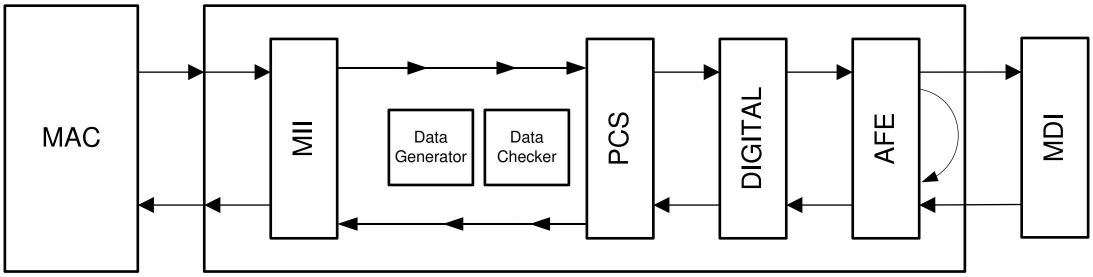


図 6-2. すべてのループバック

DP83TG720S-Q1 には、複数のループバック方法があります。各種ループバック モードを有効化することで、システム検証要件に応じて各種データ パスを有効化 / バイパスできます。以下のデータ生成方法と共に、各種ループバックを有効化できます。

a. 内蔵データ ジェネレータ

b. 外部データ ジェネレータ (イーサネット ケーブルまたは MAC 側に接続)

下図に、各種ループバック方法でのデータの流れを示します。

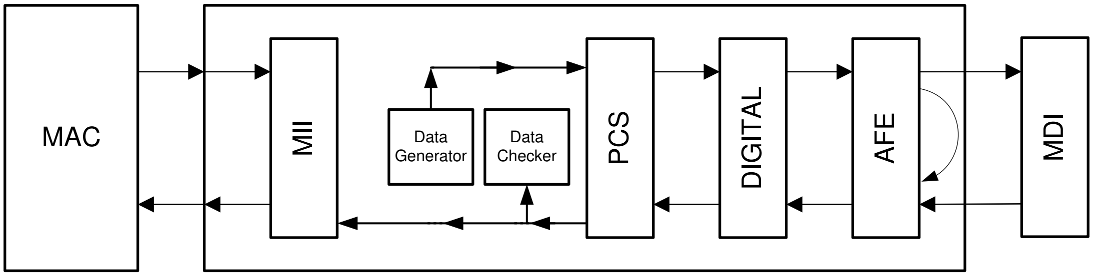


図 6-3. 内蔵データ ジェネレータによるアナログ ループバック

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

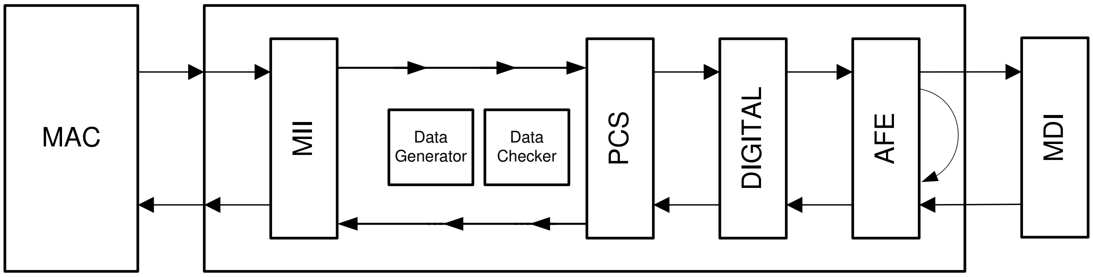


図 6-4. 外部データ ジェネレータによるアナログ ループバック

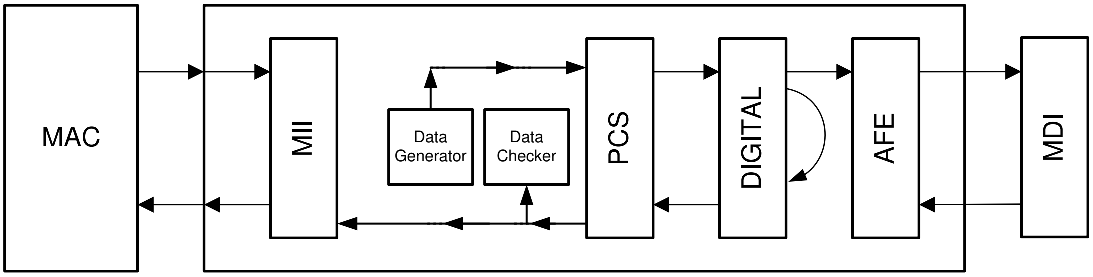


図 6-5. 内蔵データ ジェネレータによるデジタル ループバック

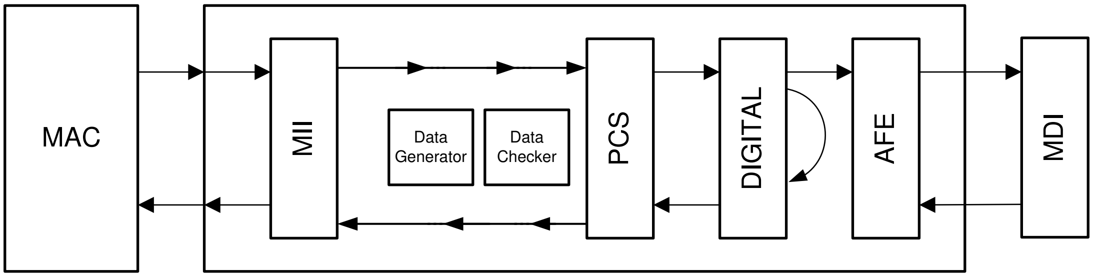


図 6-6. 外部データ ジェネレータによるデジタル ループバック

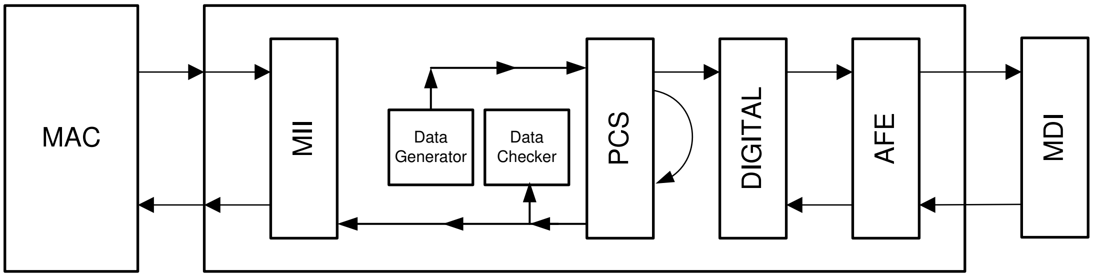


図 6-7. 内蔵データ ジェネレータによる PCS ループバック

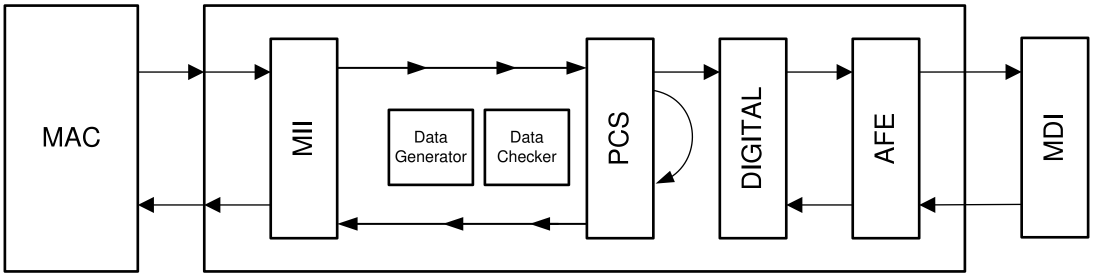


図 6-8. 外部データ ジェネレータによる PCS ループバック

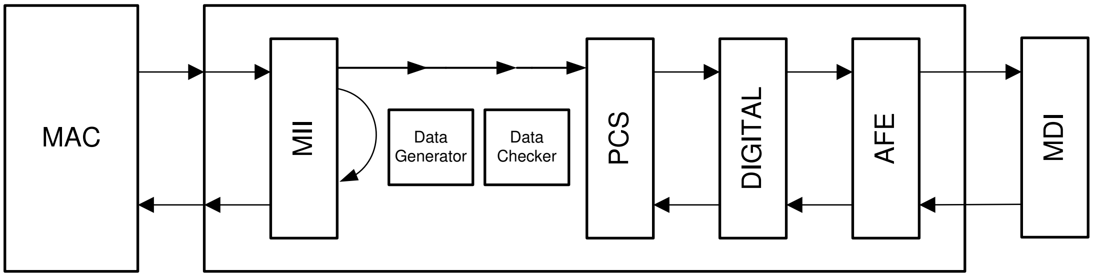


図 6-9. 外部データ ジェネレータによる xMII ループバック

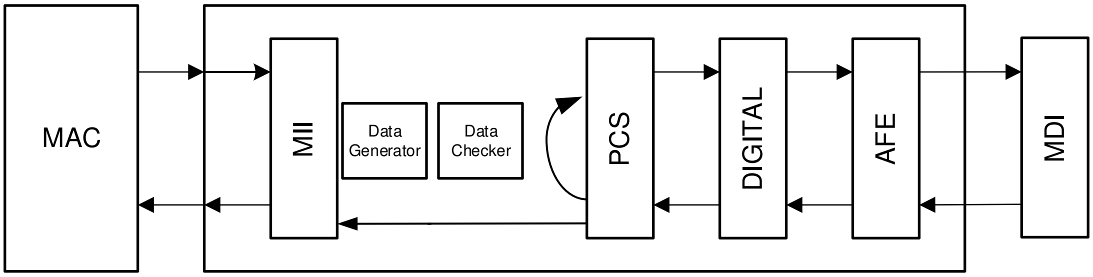


図 6-10. 外部データ ジェネレータによる xMII 逆ループバック

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.3.1.3.2 データ・ジェネレータ

データ・ジェネレータは、ユーザー定義の MAC パケットと PRBS ストリームのどちらかを生成するようにプログラムできます。

生成される MAC パケットの以下のパラメータを設定できます (必要な構成については、レジスタ <0x061B>、レジスタ <0x061A>、レジスタ <0x0624> を参照)。

- パケット長
- パケット間隔
- 定義済みの送信パケット数または連続送信
- パケットの日付タイプ:インクリメンタル / 固定 / PRBS
- パケットあたりの有効バイト数

6.3.1.3.3 データパスの BIST のプログラミング

以下のレジスタ設定を使用すると、各種のループバック、データ生成、データ チェッカ手順を実行できます。

表 6-2. データパスの BIST のプログラミング

	ループバック モード	ループバック モードの有効化	データ ジェネレータおよびチェッカの有効化: MAC パケット	受信 MAC パケット ステータスのチェック	データ ジェネレータおよびチェッカの有効化:PRBS ストリーム	受信 PRBS ステータスのチェック PRBS ストリーム	その他の注意事項
1	アナログ ループバック	書き込み: reg[0x0016] = 0x0108 書き込み: reg[0x0405] = 0x2800	書き込み: reg[0x0624] = 0x55BF 書き込み: reg[0x0619] = 0x1555	読み出し: reg[0x063C] = 受信パケットの総数の (15:0) 読み出し: reg[0x063D] = 受信パケットの総数の (31:16) 読み出し: reg[0x063E] = CRC エラーを含む受信パケット数	書き込み: reg[0x0624] = 0x55BF 書き込み: reg[0x0619] = 0x0557	ステップ 1: 書き込み: reg[0x0620](1) = 1'b1 ステップ 2: 読み出し: reg[0x0620](7:0) = 受信されたエラー バイト数。 読み出し: reg[0x0620](8) (1 は PRBS データを受信中であり、チェッカがロックされていることを示します。)	ケーブル / リンク パートナーを切り離します。 生成されたデータは MAC 側に送られます。MAC 側を無効化するには以下を行います。 書き込み: reg[0x0000] = 0x0540
2	デジタル ループバック	書き込み: reg[0x0016] = 0x0104 書き込み: reg[0x0800][11] = 1	書き込み: reg[0x0624] = 0x55BF 書き込み: reg[0x0619] = 0x1555	読み出し: reg[0x063C] = 受信パケットの総数の [15:0]。 読み出し: reg[0x063D] = 受信パケットの総数の [31:16]。 読み出し: reg[0x063E] = CRC エラーを含む受信パケット数	書き込み: reg[0x0624] = 0x55BF 書き込み: reg[0x0619] = 0x0557	ステップ 1: 書き込み: reg[0x0620][1] = 1'b1 ステップ 2: 読み出し: reg[0x0620][7:0] = 受信されたエラー バイト数。 読み出し: reg[0x0620][8] (1 は PRBS データを受信中であり、チェッカがロックされていることを示します。)	生成されたデータは銅ケーブル側に送られます。この送信を無効化するには以下を行います。 書き込み: reg[0x041F] = 0x1000 生成されたデータは MAC 側に送られます。MAC 側を無効化するには以下を行います。 書き込み: reg[0x0000] = 0x0540

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 6-2. データパスの BIST のプログラミング (続き)

	ループバック モード	ループバック モードの有効化	データ ジェネレータおよびチェッカの有効化：MAC パケット	受信 MAC パケット ステータスのチェック	データ ジェネレータおよびチェッカの有効化：PRBS ストリーム	受信 PRBS ステータスのチェック PRBS ストリーム	その他の注意事項
3	PCS ループバック	書き込み： reg[0x0016] = 0x0101	書き込み： reg[0x0624] = 0x55BF 書き込み： reg[0x0619] = 0x1555	読み出し： reg[0x063C] = 受信パケットの総数の [15:0]。 読み出し： reg[0x063D] = 受信パケットの総数の [31:16]。 読み出し： reg[0x063E] = CRC エラーを含む受信パケット数	書き込み： reg[0x0624] = 0x55BF 書き込み： reg[0x0619] = 0x0557	ステップ 1： 書き込み： reg[0x0620][1] = 1'b1 ステップ 2： 読み出し： reg[0x0620][7:0] = 受信されたエラー バイト数。 読み出し： reg[0x0620][8] (1 は PRBS データを受信中であり、チェッカがロックされていることを示します。)	生成されたデータは銅ケーブル側に送られます。この送信を無効化するには以下を行います。 書き込み： reg[0x041F] = 0x1000 生成されたデータは MAC 側に送られます。MAC 側を無効化するには以下を行います。 書き込み： reg[0x0000] = 0x0540
4	RGMII ループバック	書き込み： reg[0x0000] = 0x4140	データは RGMII TX ピンで外部的に生成されます。 書き込み： reg[0x0619] = 0x1004	データは RGMII RX ピンで検証できます。パケット エラーは、以下の方法でさらに内部的にチェックできます。 読み出し： reg[0x063C] = 受信パケットの総数の [15:0]。 読み出し： reg[0x063D] = 受信パケットの総数の [31:16]。 読み出し： reg[0x063E] = CRC エラーを含む受信パケット数	データは RGMII TX ピンで外部的に生成されます。	外部データであるため該当しません。PRBS ストリーム チェッカは、内部データ ジェネレータでのみ機能します。	生成されたデータは銅ケーブル側に送られます。この送信を無効化するには以下を行います。 書き込み： reg[0x041F] = 0x1000

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 6-2. データパスの BIST のプログラミング (続き)

	ループバック モード	ループバック モードの有効化	データ ジェネレータおよびチェッカの有効化：MAC パケット	受信 MAC パケット ステータスのチェック	データ ジェネレータおよびチェッカの有効化：PRBS ストリーム	受信 PRBS ステータスのチェック PRBS ストリーム	その他の注意事項
5	SGMII ループバック	書き込み：reg[0x0000] = 0x4140	データは SGMII TX ピンで外部的に生成されます。 書き込み：reg[0x0619] = 0x1114	データは SGMII RX ピンで検証できます。パケット エラーは、以下の方法でさらに内部的にチェックできます。 読み出し：reg[0x063C] = 受信パケットの総数の [15:0]。 読み出し：reg[0x063D] = 受信パケットの総数の [31:16]。 読み出し：reg[0x063E] = CRC エラーを含む受信パケット数	データは SGMII TX ピンで外部的に生成されます。	外部データであるため該当しません。PRBS ストリーム チェッカは、内部データ ジェネレータでのみ機能します。	生成されたデータは銅ケーブル側に送られます。この送信を無効化するには以下を行います。 書き込み：reg[0x041F] = 0x1000
6	RGMII 逆ループバック	書き込み：reg[0x0016] = 0x0010	書き込み：reg[0x0624] = 0x55BF 書き込み：reg[0x0619] = 0x1555	読み出し：reg[0x063C] = 受信パケットの総数の [15:0]。 読み出し：reg[0x063D] = 受信パケットの総数の [31:16]。 読み出し：reg[0x063E] = CRC エラーを含む受信パケット数	書き込み：reg[0x0624] = 0x55BF 書き込み：reg[0x0619] = 0x0557	ステップ 1： 書き込み：reg[0x0620][1] = 1'b1 ステップ 2： 読み出し：reg[0x0620][7:0] = 受信されたエラー バイト数。 読み出し：reg[0x0620][8] (1 は PRBS データを受信中であり、チェッカがロックされていることを示します。)	生成されたデータは銅ケーブル側に送られます。この送信を無効化するには以下を行います。 書き込み：reg[0x041F] = 0x1000
7	SGMII 逆ループバック	書き込み：reg[0x042C] = 0x0010	書き込み：reg[0x0624] = 0x55BF 書き込み：reg[0x0619] = 0x1555	読み出し：reg[0x063C] = 受信パケットの総数の [15:0]。 読み出し：reg[0x063D] = 受信パケットの総数の [31:16]。 読み出し：reg[0x063E] = CRC エラーを含む受信パケット数	書き込み：reg[0x0624] = 0x55BF 書き込み：reg[0x0619] = 0x0557	ステップ 1： 書き込み：reg[0x0620][1] = 1'b1 ステップ 2： 読み出し：reg[0x0620][7:0] = 受信されたエラー バイト数。 読み出し：reg[0x0620][8] (1 は PRBS データを受信中であり、チェッカがロックされていることを示します。)	生成されたデータは銅ケーブル側に送られます。この送信を無効化するには以下を行います。 書き込み：reg[0x041F] = 0x1000

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

注

レジスタ [0x061B] とレジスタ [0x0624] を使用して、各種 MAC パケット パラメータをさらに詳細に設定できます。

6.3.1.4 温度および電圧センシング

PHY の温度センサは、システムの温度を表示するために使用でき、温度センサの出力レジスタを読み出すことで、即座に測定値を得ることができます。

電圧センサは、すべての電源ピンの電圧 (VDDA、VDDIO、VDD1P0) を検出します。各ピンの作動電圧は、対応する電圧センサ出力レジスタを読み出すことで測定できます。

すべてのセンサは常に機能しており、監視用ステート マシンは各センサの値を定期的にポーリングします。MONITOR_CTRL_3 レジスタを使用することで、監視用ステート マシンをさらに詳細に設定し、あるセンサにその他のセンサよりも高い優先順位 / サンプリング時間を与えることもできます。

以下のソフトウェア シーケンスを使って、任意のセンサの出力を読み出すことができます。

- Step1：レジスタ [0x0467] = 0x6004 を書き込む (モニタの初期設定)
- ステップ 2：レジスタ [0x046A] = 0x00A6 を書き込み、次にレジスタ [0x046A] = 0x00A3 を更新 (モニタのリフレッシュ)
- ステップ 3：ポーリング対象のセンサを選択するためにレジスタ [0x0468] を書き込み、選択されたセンサの出力コードとしてレジスタ [0x047B] [14:7] を読み出す。
- ステップ 4：読み出されたセンサの出力コードの値 (10 進数) を以下の式に代入し、そのセンサの出力値 (10 進数) を得る。式で使うために必要な定数値については、センサ選択表を参照してください。
  - vdda_value = 3.3 + (vdda_output_code - vdda_output_mean_code)*slope_vdda_sensor
  - vdd1p0_value = 1.0 + (vdd1p0_output_code - vdd1p0_ouput_mean_code)*slope_vdd1p0_sensor
  - vddio_calculated = 3.3 + (vddio_ouput_code - vddio_output_mean_code)*slope_vddio_sensor
  - temperature_calculated = 25 + (temperature_output_code - temperature_output_mean_code)*slope_temperature_sensor

表 6-3. センサ選択表

レジスタ [0x0468]	読み出し用に選択されるセンサ
0x1920	VDDA 電圧センサ
0x2920	VDD1P0 電圧センサ
0x3920	VDDIO 電圧センサ
0x4920	温度センサ

表 6-4. センサの定数値

定数	値 (10 進数)
vdda_output_mean_code	128
slope_vdda3p3_sensor	8.63014e-3
vdd1p0_output_mean_code	93
slope_vdd1p0_sensor	2.85714e-3
vddio_output_mean_code	224
slope_vddio_sensor	15.686e-3
temperature_output_mean_code	161
slope_temperature_sensor	1

注

25℃で「temperature_output_code」をサンプリングし、それを「temperature_output_mean_code」として使える場合、温度センサの精度を最大限に高めることができます (7.5℃)。

6.3.1.5 静電気放電 (ESD) 検出

静電気放電は電子回路にとって重要な問題であり、適切に緩和しない場合、短期的な問題 (シグナル・インテグリティ、リンク・ドロップ、パケット喪失) だけでなく、長期的な信頼性に関する不具合を引き起こす可能性があります。DP83TG720S-Q1 は、堅牢な ESD 回路を内蔵しており、ESD 検出アーキテクチャを採用しています。さらなる分析とデバッグのため、ESD イベントを MDI ピンで検出できます。

ESD 検出ツールは試作と最終アプリケーションの両方に役立ちます。また、DP83TG720S-Q1 は割り込みステータス・フラグ (ESD イベントがレジスタ <0x0442> に記録された際に立ちます) を備えています。保証されていないクリア動作を防止するため、ESDS レジスタはハードウェアおよびソフトウェア・リセットを無視します。

表 6-5. ESD 検出：割り込みの設定とカウントの読み出し

機能	必要な読み出し / 書き込み
割り込みイネーブル	• レジスタ <0x0012>[3] = 1 を書き込み
ESD イベント・カウンタ	• レジスタ <0x0442>[14:9] を読み出し • 10 進数の値は、起動後の ESD 衝撃の回数を示します。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.3.2 準拠性テスト・モード

DP83TG720S-Q1 の 6 つのテスト・モードは IEEE 802.3bp、97.5.2 項に準拠しています。サポートされているテスト・モードを使うと、トランスミッタ波形の電力スペクトル密度 (PSD) マスク、歪み、MDI マスタ・ジッタ、MDI スレーブ・ジッタ、ドループ、トランスミッタ周波数、周波数許容誤差、BER 監視、リターン・ロス、モード変換をテストできます。3 つの GPIO のいずれかを使用して、MDI スレーブのジッタ測定のための TX_TCLK を出力できます。

6.3.2.1 テスト・モード 1

テスト・モード 1 では、パートナーとリンクしている場合のトランスミッタのクロック・ジッタをテストします。テスト・モード 1 では、DP83TG720S-Q1 PHY は、IEEE 802.3bp のセクション 97.6 で定義されたリンク・セグメントを介して接続されます。TX_TCLK125 は、TX_TCLK から得られた 1/6 分周クロックです。

6.3.2.2 テスト モード 2

テスト モード 2 では、トランスミッタの MDI マスタ モードのジッタをテストします。テスト モード 2 では、DP83TG720S -Q1 は 3 つの ｛+1｝ シンボルの連続パターン、その後に 3 つの ｛-1｝ シンボルを送信します。送信されたシンボルは 750MHz の信号ソースと同期しているため、125MHz の信号が得られます。

6.3.2.3 テスト・モード 4

テスト・モード 4 は、トランスミッタの歪みをテストします。テスト・モード 4 では、DP83TG720S-Q1 は式 1 によって生成された一連のシンボルを送信します。

$$g(x) = 1 + x^9 + x^{11} \tag{1}$$

ビット・シーケンス (x0n、x1n) は、以下の式に従ってスクランブラの組み合わせから生成されます。：

$$'x0_n = Scr_n[0] \tag{2}$$

$$x1_n = Scr_n[1] \wedge Scr_n[4] \tag{3}$$

$$x2_n = Scr_n[1] \wedge Scr_n[5] \tag{4}$$

表 6-6 に、3 ビット・ニブルのストリームの例を示します。

表 6-6. トランスミッタのテスト・モード 4 のシンボルの割り当て

x2n	x1n	x0n	T1n	T0n
0	0	0	-1	-1
0	0	1	0	-1
0	1	0	-1	0
0	1	1	-1	+1
1	0	0	+1	0
1	0	1	+1	-1
1	1	0	+1	+1
1	1	1	0	+1

6.3.2.4 テスト・モード 5

テスト・モード 5 では、トランスミッタの PSD マスクをテストします。テスト・モード 5 では、DP83TG720S-Q1 は通常のフレーム間アイドル PAM3 シンボルを送信します。

6.3.2.5 テスト モード 6

テスト モード 6 では、トランスミッタ ドループをテストします。テスト モード 6 では、DP83TG720S -Q1 は 15 の ｛+ 1｝ シンボル、その後に 15 の ｛-1｝ シンボルを送信します (シンボルは 750Mhz で送信されます)。この 25MHz のパターンは、テスト モードが無効化されるまで連続的に繰り返されます。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.3.2.6 テスト・モード 7

テスト・モード 7 では、リンク・セグメントのビット・エラー・レート測定が有効化されます。このモードでは、MDI でゼロ・データ・パターンを使い、ゼロ・データ・パターンの期待値をゼロ以外のすべての受信ビットと比較することで BER をチェックします。エラー・チェックは、FEC と 80B/81B デコードの後に実行されます。

表 6-7. テスト・モードのレジスタ設定

MMD	レジスタ	値	テスト・モード
MMD1	0x0904	0x2000	テスト・モード 1:Tx_Tclk 125MHz は CLKOUT ピンに接続されます。
MMD1	0x0904	0x4000	テスト・モード 2
MMD1	0x0904	0x8000	テスト・モード 4:Tx_Tclk 125MHz は CLKOUT ピンに接続されます。
MMD1F	0x0453	0x0019	
MMD1	0x0904	0xA000	テスト・モード 5
MMD1	0x0904	0xC000	テスト・モード 6
MMD1	0x0904	0xE000	テスト・モード 7

6.4 デバイスの機能モード

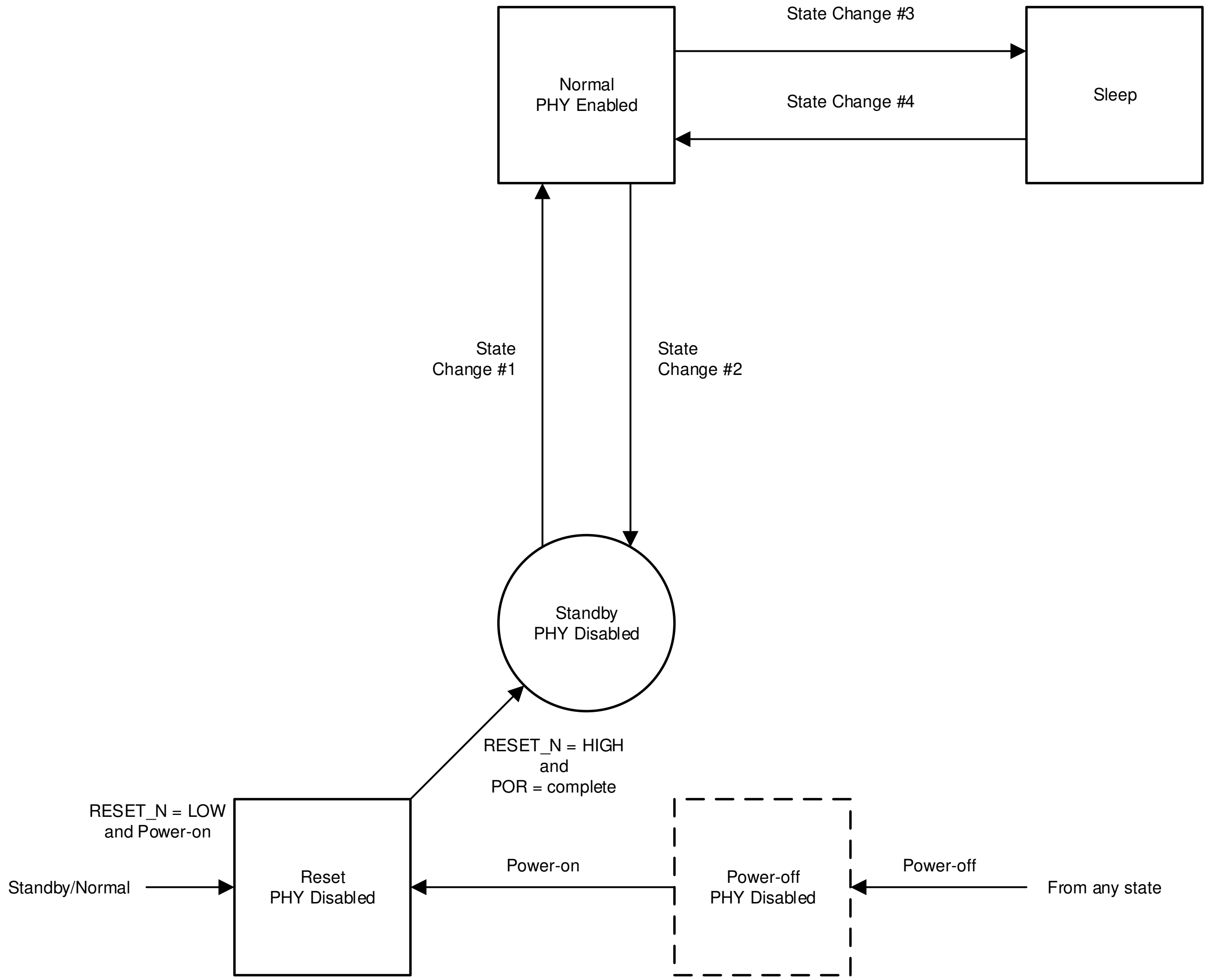


図 6-11. PHY の動作の状態図

6.4.1 パワーダウン

VDDA3P3、VDDIO、VDD1P0 が POR スレッショルドを下回ると、DP83TG720S-Q1 はパワーダウン状態に入ります。すべてのデジタル IO は高インピーダンス状態に維持され、アナログ・ブロックは無効化されます。パワーダウン時には、PMA 終端は存在しません。

6.4.2 リセット

リセットは、電源投入時に RESET_N が Low に (最小リセット・パルス時間の間) プルされたとき、またはレジスタ [0x001F] のビット [15] をセットすることでハードウェア・リセットが起動されたときに作動します。

- リセットの後、デジタル・ステート・マシンが再起動し、すべてのレジスタ設定がブートアップ状態にクリアされます。
- リセット状態の間も、CLKOUT ピンの 25MHz クロックは作動し続けます。
- リセット状態の間、MDI/PMA は終端されていません。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

注

ストラップはピン・リセットでのみ再ラッチされ、レジスタ (レジスタ [0x001F] = x8000) によるハードウェア・リセットではストラップはラッチされません。

6.4.3 スタンバイ

本デバイス (MDI マスタ・モードまたは MDI スレーブ・モード) は、本デバイスが管理動作用にブートストラップ設定されている限り、電源投入時のリセットの後、自動的にスタンバイに移行します。

スタンバイでは、PCS および PMA ブロックを除くすべての PHY 機能が動作します。スタンバイではリンクの確立は不可能であり、データは送信も受信もできません。SMI 機能は使用可能であり、レジスタ設定は維持されています。

ブートストラップ設定によって本デバイスが自律動作用に構成されている場合、電源投入およびリセットが完了した時点で PHY は自動的に通常動作に切り替わります。

6.4.4 通常

通常モードには、自律動作と管理動作のどちらからでも入ることができます。自律動作にある場合、電源を投入すると、PHY は自動的に有効なリンク・パートナーとのリンクを確立しようと試みます。

管理動作では、本デバイスがスタンバイを終了するのに SMI アクセスが必要です。SMI によって発行されたコマンドにより、本デバイスはスタンバイを終了し、PCS ブロックと PMA ブロックの両方を有効化できます。通常モードでは、すべてのデバイス機能が利用できます。

レジスタ 0x18B のビット [6] をセットすることで、SMI アクセスにより自律動作を有効化できます。

6.4.5 スリープ

一度スリープ モードに入ると、エネルギー検出を除くすべての PHY ブロックは無効化されます。スリープ モードでは、すべてのレジスタ設定は失われます。スリープ モードでは、リンクは確立できず、データは送信も受信もできず、SMI アクセスは利用できません。

PHY のスリープ モードを使うには、次の図の強調された実装を参照してください。

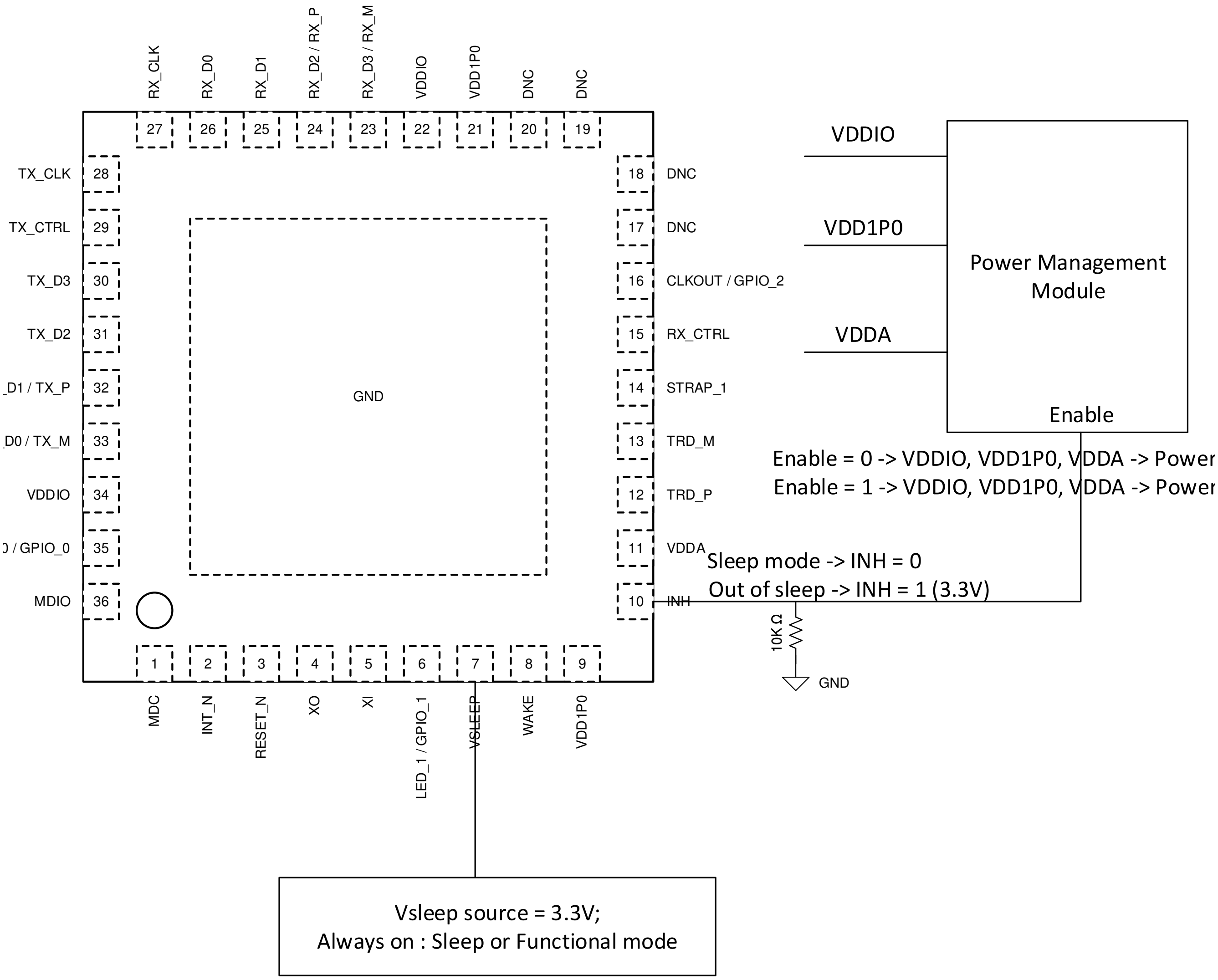


図 6-12. スリープ モードに必要な実装

注

上図のように、電源が無効化されない限り、PHY はスリープ モードに移行しません。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.4.6 状態遷移

6.4.6.1 状態遷移 #1 - スタンバイから通常動作へ

*自律動作:*POR が完了すると、PHY は自動的に通常動作状態に移行します。

*管理動作:*レジスタ <0x018C> = 0x001 を書き込んだ後にのみ、PHY はスタンバイから通常動作状態に遷移します。

6.4.6.2 状態遷移 #2 - 通常動作からスタンバイへ

通常動作状態にある場合、レジスタ <0x018C> = 0x0010 を書き込むと、PHY を強制的にスタンバイに戻すことができます。

6.4.6.3 状態遷移 #3 - 通常動作からスリープへ

スリープ状態には、ローカル (ピン / レジスタ書き込み) に、またはリモート リンク パートナーによって入ることができます。

マスタ モード PHY のスリープへの移行 (ローカル起因):

- ステップ 1:「ビット [7] = レジスタ [0x018B] の 'b1」を書き込む。
- ステップ 2:「レジスタ [0x042F] = 0x0007、レジスタ [0x041E] = 0x0100」を書き込む。
- ステップ 3:WAKE ピンを Low にして保持することで、スリープ モードに入ります。

スレーブ モード PHY のスリープへの移行 (ローカル起因):

- ステップ 1:「ビット [8] = レジスタ [0x018B] レジスタの 'b0」を書き込む。
- ステップ 2:「ビット [7] = レジスタ [0x018B] レジスタの 'b1」を書き込む。
- ステップ 3:「レジスタ [0x042F] = 0x0007、レジスタ [0x041E] = 0x0100」を書き込む。
- ステップ 4:WAKE ピンを Low にして保持することで、スリープ モードに入ります。

マスタ モード PHY のスリープへの移行 (リモート起因):

- 本デバイスがリンク パートナーとすでにリンクを確立している場合、以下の手順に従うことで、スレーブ PHY はリモートでマスタをスリープ状態に入れることができます。
- ステップ 1:「ビット [8] = レジスタ [0x018B] の 'b1、ビット [7] = レジスタ [0x018B] の 'b1」を書き込む。
- ステップ 2:WAKE ピンを Low にする。
- ステップ 3:PHY はラインの駆動を停止し、スリープ モードに移行する

スレーブ モード PHY のスリープへの移行 (リモート起因):

- ステップ 1:「ビット [7] = レジスタ [0x018B] レジスタの 'b1」を書き込む。
- ステップ 2:WAKE ピンを Low にする。
- ステップ 3:PHY はラインの駆動を停止し (マスタはデータも符号も送信しません)、スリープ モードに移行する。これは、リンク パートナーを管理モードに移行させることで実現できます (管理モードでは、デバイスはリンクアップ シーケンスを開始できません)。

注

PHY がスリープ モードに移行するのは、INH 信号を使用して電源が切り離された場合のみです (「スリープ モードに必要な実装」の図を参照)。

6.4.6.4 状態遷移 #4 - スリープから通常動作へ

スリープ状態からは、ローカル (ピン / レジスタ書き込み) に、またはリモート リンク パートナーによって出ることができます。

ローカル起因のスリープ終了

マスタ モード PHY のスリープの終了 (ローカル起因):

- WAKE ピンを High (3.3V) にする。

スレーブ モード PHY のスリープの終了 (ローカル起因):

- WAKE ピンを High (3.3V) にする。

リモート起因のスリープ終了

次のいずれかにより、リンク パートナーは本デバイスのスリープ モードを終了させることができます。

1. リンク パートナーからの Send-S シンボルを使用したリモート起因のスリープ終了。
2. リンク パートナーからの Send-T シンボルを使用したリモート起因のスリープ終了

   これらの手順の詳細を次の表に示します。

表 6-8. リモート起因のスリープ終了の手順

方法	デバイス モード	手順	リンク パートナーに要求される機能
Send-S の使用	マスタ	ステップ 1:IEEE によって定義された、リンク パートナーからの Send-S パターンを開始する (継続時間:1.25ms 以上)。 ステップ 2:リンクアップを開始するため、リンク パートナーを通常モードに移行させる。 注:VOD が小さいリンク パートナーは、リモート ウェークアップを行うケーブル長を 5m 以下に制限できます。	リンク パートナーは、スレーブ モード入っていても、要求に応じて Send-S パターンを送信するモードを備えている必要があります。 1 つの方法を次に示します。 ステップ 1:リンク パートナーを 1.25ms 以上の間マスタ モードに移行させる。 ステップ 2:リンクアップを開始するため、リンク パートナーを通常モードに移行させる。
	スレーブ	ステップ 1:IEEE によって定義された、リンク パートナーからの Send-S パターンを開始する (継続時間:1.25ms 以上)。 ステップ 2:リンクアップを開始するため、リンク パートナーを通常モードに移行させる。 注:VOD が小さいリンク パートナーは、リモート ウェークアップを行うケーブル長を 5m 以下に制限できます。 注:スレーブ モードの DP83TG720 をスリープ モードに維持するため、リンク パートナーを管理モードに移行させることができます (管理モードでは、デバイスはリンクアップ シーケンスを開始できません)。	マスタ モード リンク パートナーはリンク アップを開始するために Send-S 信号を送信することになっているため、すべての IEEE 準拠リンク パートナーは機能するはずです。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 6-8. リモート起因のスリープ終了の手順 (続き)

方法	デバイス モード	手順	リンク パートナーに要求される機能
Send-T の使用	マスタ	ステップ 1:リンク パートナーでの Send-T パターンを 1.25ms 以上の間有効化する。 ステップ 2:リンクアップを開始するため、リンク パートナーを通常モードに移行させる。	リンク パートナーは、要求に応じて Send-T パターンを送信するモードを備えている必要があります。 15m のケーブルを介したリモート ウェークアップの場合、リンク パートナーの Send-T モード中のピンでの信号振幅は 0.92V より大きくしなくてはなりません。VOD が小さいリンク パートナーの場合、リモート ウェークアップできるケーブル長が 5m 以下に制限される場合があります。 DP83T720 をリンク パートナーとして使用する場合、次の手順で必要な処理を実行できます。 ステップ 1:DP83TG720 リンク パートナーでの Send-T パターンを有効化する (「レジスタ [0x0405] = 0x7400、レジスタ [0x0509] = 0x4007、レジスタ [0x0576] = 0x0500」を書き込む)。 ステップ 2:100ms 後、DP83TG720 リンク パートナーでの Send-T パターンを無効化する (「レジスタ [0x0405] = x5800、レジスタ [0x0509] = 0x4005、レジスタ [0x0576] = 0x0000」を書き込む)。
	スレーブ	ステップ 1:リンク パートナーでの Send-T パターンを 1.25ms 以上の間有効化する。 ステップ 2:リンクアップを開始するため、リンク パートナーを通常モードに移行させる。	リンク パートナーは、要求に応じて Send-T パターンを送信するモードを備えている必要があります。 15m のケーブルを介したリモート ウェークアップの場合、リンク パートナーの Send-T モード中のピンでの信号振幅は 0.92V より大きくしなくてはなりません。VOD が小さいリンク パートナーの場合、リモート ウェークアップできるケーブル長が 5m 以下に制限される場合があります。 DP83T720 をリンク パートナーとして使用する場合、次の手順で必要な処理を実行できます。 ステップ 1:DP83TG720 リンク パートナーでの Send-T パターンを有効化する (「レジスタ [0x0405] = 0x7400、レジスタ [0x0509] = 0x4007、レジスタ [0x0576] = 0x0500」を書き込む)。

6.4.7 MDI (Media Dependent Interface)

6.4.7.1 MDI マスタと MDI スレーブの構成

MDI マスタと MDI スレーブは、ハードウェア・ブートストラップを使って、またはレジスタ・アクセスによって構成されます。

LED_0 は、MDI マスタと MDI スレーブのブートストラップ構成を制御します。LED_0 ピンに内部プルダウン抵抗があるため、デフォルトでは MDI スレーブ・モードが構成されます。ハードウェア・ブートストラップによる MDI マスタ・モード構成を選択する場合、外部プルアップ抵抗が必要です。

また、PMA_CTRL2 レジスタのビット [14] は、MDI マスタと MDI スレーブの構成を制御します。このビットをセットすると、MDI マスタ・モードが有効化されます。

6.4.7.2 自動極性検出および訂正

リンク トレーニング プロセス中、MDI レシーバとして DP83TG720S-Q1 は極性の反転を検出し、エラーを自動的に訂正できます。マスタとスレーブの両方での検出により、レシーバ極性を必要に応じて訂正できます。

DP83TG720S -Q1 では自動極性訂正を無効化できません

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.4.8 MAC インターフェイス

6.4.8.1 RGMII (Reduced Gigabit Media Independent Interface)

DP83TG720S-Q1 は、RGMII バージョン 2.0 で規定された RGMII (Reduced Gigabit Media Independent Interface) もサポートしています。RGMII は、MAC と PHY の接続に必要なピン数が少なくなるように設計されています。この目標を達成するため、制御信号が多重化されています。送信パスと受信パスの制御信号ピンをサンプリングするためにクロックの立ち上がりエッジと立ち下がりエッジの両方が使用されます。1Gbps 動作の場合、RX_CLK と TX_CLK は 125MHz で動作します。

表 6-9 に、RGMII 信号のまとめを示します。

表 6-9. RGMII 信号

機能	ピン
データ信号	TX_D[3:0]
	RX_D[3:0]
制御信号	TX_CTRL
	RX_CTRL
クロック信号	TX_CLK
	RX_CLK

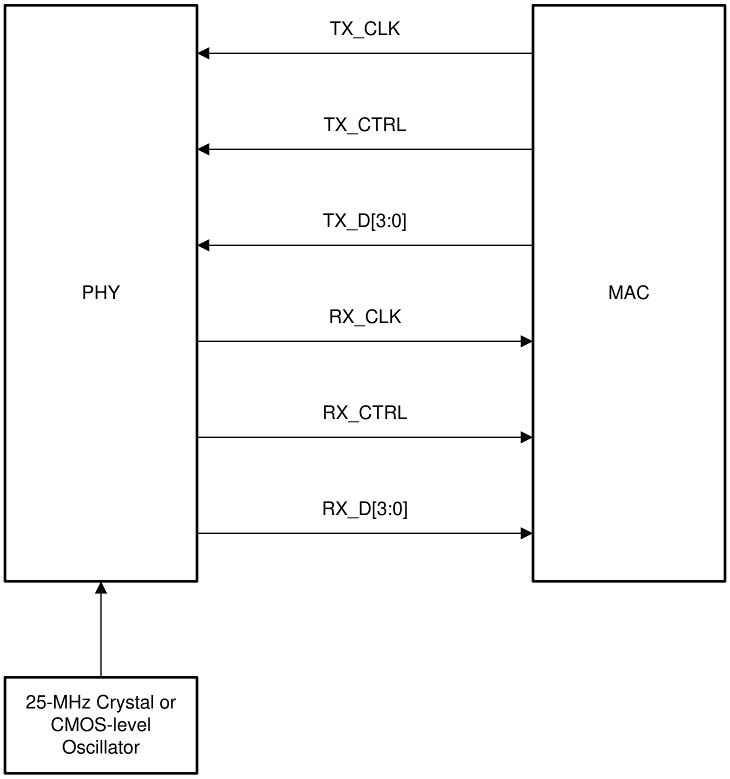


図 6-13. RGMII の接続

表 6-10. RGMII の送信エンコード

TX_CTRL (立ち上がりエッジ)	TX_CTRL (立ち下がりエッジ)	TX_D[3:0]	説明
0	0	0000～1111	通常のフレーム間
0	1	0000～1111	予約済み
1	0	0000～1111	通常のデータの送信
1	1	0000～1111	送信エラーの伝搬

表 6-11. RGMII の受信エンコード

RX_CTRL (立ち上がりエッジ)	RX_CTRL (立ち下がりエッジ)	RX_D[3:0]	説明
0	0	0000～1111	通常のフレーム間
0	1	0000～1101	予約済み
0	1	1110	誤キャリアの表示
0	1	1111	予約済み
1	0	0000～1111	通常のデータの受信
1	1	0000～1111	エラーを含むデータの受信

DP83TG720S-Q1 は、リンク ステータス検出の簡素化に役立つように、インバンド ステータス表示をサポートしています。表 6-12 に、RX_D[3:0] ピンのフレーム間信号を示します。

表 6-12. RGMII インバンド ステータス

RX_CTRL	RX_D3	RX_D[2:1]	RX_D0
0 注: インバンド ステータスは、RX_CTRL が Low のときのみ有効です。	二重モードのステータス: 0 = 半二重 1 = 全二重	**RX_CLK** クロック速度: 00 = 2.5MHz 01 = 25MHz 10 = 125MHz 11 = 予約済み	リンク ステータス: 0 = リンクが確立されていない 1 = 有効なリンクが確立されている

ギガビット イーサネットのための RGMII MAC インターフェイスには、システム レベルの性能を満たすための厳格なタイミング要件があります。これらのタイミング要件を満たし、RGMII 上の各種の MAC で動作させるには、PCB を設計する際には、以下の要件を考慮する必要があります。TI は、DP83TG720 の IBIS モデルを使って、ボード レベルのシグナル インテグリティをチェックすることも推奨しています。

RGMII-TX の要件

- RGMII TX 信号は、50Ω ±15% に制御されたインピーダンスで基板配線を行うものとします。
- シグナル インテグリティ性能を向上させるため、最大配線長を 5 インチ (13 cm) に制限します。
- 図 6-14 に、TX* 信号の RGMII インターフェイス要件を示します。MAC RGMII ドライバの出力インピーダンスは 50Ω ±20% にします。
- TP2 (図 6-14) でのすべての RGMII TX 信号のスキューは ±500ps 未満にします。
- TP1 と TP2 (図 6-14) でのシグナル インテグリティについては、IBIS モデル シミュレーションで検証を行い、以下の要件に準拠していることを確認します。
  - TP2 では、信号は 1ns の立ち上がり / 立ち下がり時間 (信号振幅の 20% と 80% の間) を満たします。
  - 立ち上がり / 立ち下がり時間は、TP2 での VIH/VIL レベル間で単調にします。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

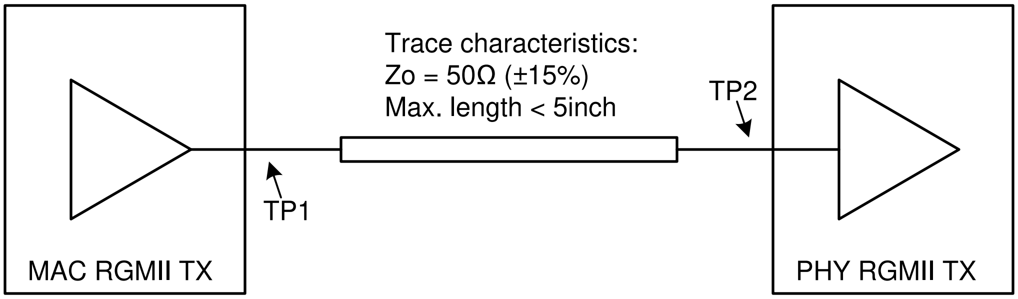


図 6-14. RGMII TX の要件

RGMII-RX の要件

- RGMII RX 信号は、50Ω ±15% に制御されたインピーダンスで基板配線を行うものとします。
- シグナル インテグリティ性能を向上させるため、最大配線長を 5 インチ (13 cm) に制限します。
- TP3/TP4 にダンピング抵抗 (図 6-15) を追加しないでください。RX 信号のシグナル インテグリティに影響を及ぼすためです。
- 図 6-15 に、RX* 信号の RGMII インターフェイス要件を示します。MAC RGMII ドライバの出力インピーダンスは 50Ω ±20% にします。
- TP3 と TP4 (図 6-15) でのシグナル インテグリティについては、IBIS モデル シミュレーションで検証を行い、以下の要件に準拠していることを確認します。
  - TP4 では、信号は 1ns の立ち上がり / 立ち下がり時間 (信号振幅の 20% と 80% の間) を満たします。
  - 立ち上がり / 立ち下がり時間は、TP4 での VIH/VIL レベル間で単調にします。

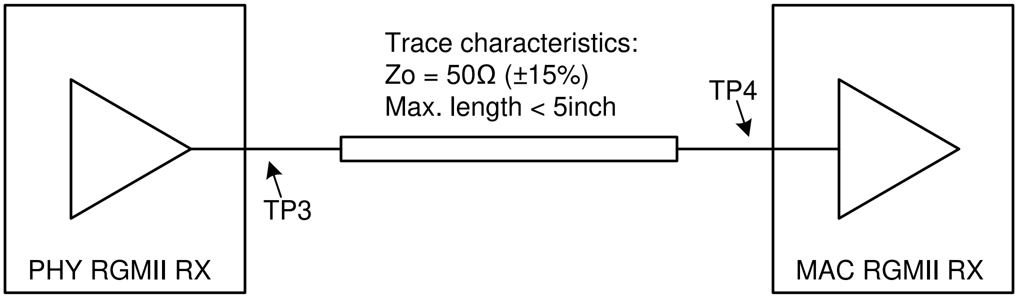


図 6-15. RGMII RX の要件

注

1. EMC 放射を最小限に抑えるため、埋め込み配線で RGMII を配線することを推奨します。
2. 埋め込み配線は、PHY と MAC にできるだけ近付けたビアを使って接続します。

6.4.8.2 SGMII (Serial Gigabit Media Independent Interface)

SGMII (Serial Gigabit Media Independent Interface) を使うと、RGMII (12 ピン) に比べて非常に少ない信号ピン数 (4 ピン) で、MAC と PHY の間のデータ転送を行うことができます。SGMII は、放射を低減し、信号品質を向上させるため、LVDS (低電圧差動信号) を使用しています。

DP83TG720S-Q1 の SGMII は 4 線式モードで動作できます。4 線式動作では、データの送受信に 2 つの差動ペアを使います。クロックおよびデータ再生は、RX 方向の場合 MAC で、TX 方向の場合 PHY で、それぞれ行われます。

SGMII 自動ネゴシエーションは、SGMII 構成レジスタ (SGMIICTL、アドレス 0x608) のビット [0] = 0b0 を設定することで無効化できます。

表 6-13 に、SGMII 信号のまとめを示します。

表 6-13. SGMII 信号

機能	ピン
データ信号	TX_M、TX_P
	RX_M、RX_P

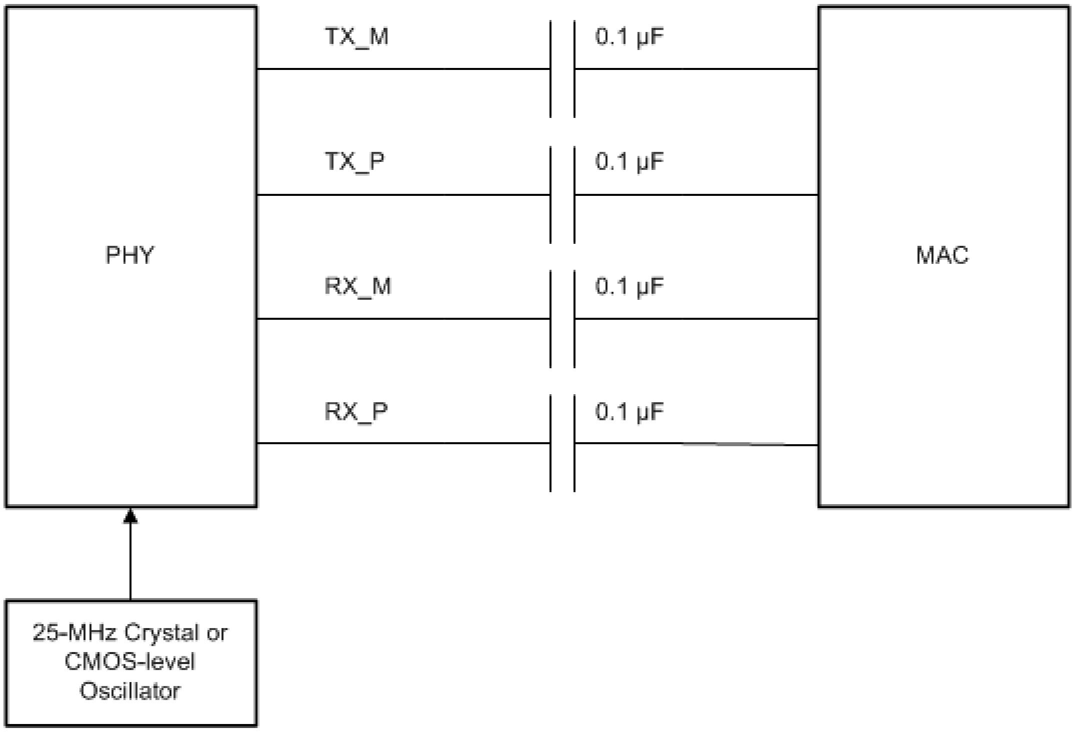


図 6-16. SGMII の接続

ギガビット イーサネットのための SGMII MAC インターフェイスには、システム レベルの性能を満たすための厳格なタイミング要件があります。PCB を設計する際は、以下の要件を考慮する必要があります。TI は、DP83TG720 の IBIS モデルを使って、ボード レベルのシグナル インテグリティをチェックすることも推奨しています。

SGMII 信号のガイドライン

- SGMII の TX および RX 信号は、100Ω ±5% に制御された差動インピーダンスで基板配線を行います。
- シグナル インテグリティ性能を向上させるため、最大配線長を 5 インチ (13cm) に制限します。
- p と n の配線長のミスマッチは、5mil に制限します。
- RX ラインの AC カップリング コンデンサは、PHY の RX_P および RX_M ピンの近くに配置します。
- TX ラインの AC カップリング コンデンサは、MAC の TX_P および TX_M ピンの近くに配置します。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

- シグナル インテグリティは、高速差動プローブを使用してレシーバ (PHY または MAC) のピンでのみチェックします。
- PHY の TX_M および TX_P では、次のアイ マスクを使用します。

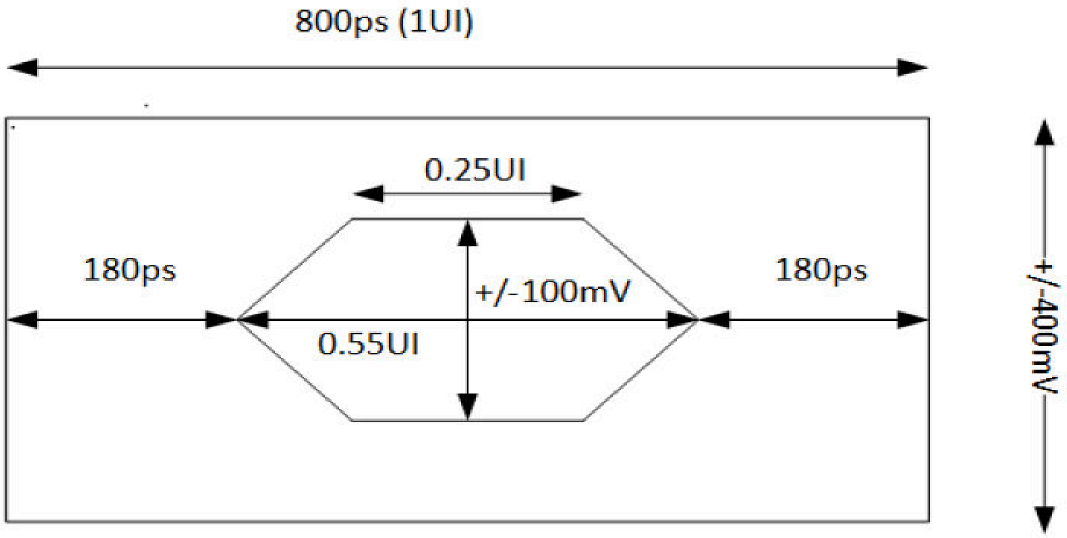


図 6-17. SGMII PHY レシーバのマスクの要件

6.4.9 シリアル マネージメント インターフェイス

シリアル マネージメント インターフェイスを使うことで、ステータス情報と構成のために使われている DP83TG720S-Q1 の内部レジスタ空間にアクセスできます。SMI は IEEE 802.3 の 22 項に適合しています。実装されているレジスタ セットは、IEEE 802.3 に必要なレジスタと、DP83TG720S-Q1 の可視性と制御性を高めるためのその他のレジスタで構成されています。

SMI には、管理クロック (MDC) と、管理入力および出力データ ピン (MDIO) が含まれます。MDC は、ステーション (STA) とも呼ばれる外部管理エンティティによって供給されます。MDC は連続的である必要はなく、バスがアイドル状態の場合、外部管理エンティティがオフにすることもできます。

MDIO の信号は外部管理エンティティと PHY から供給されます。MDIO ピンのデータは、MDC の立ち上がりエッジでラッチされます。MDIO ピンにはプルアップ抵抗 (2.2kΩ) が必要であり、それによってアイドル時およびターンアラウンド時に MDIO は High にプルされます。

最大 9 つの DP83TG720S-Q1 PHY が共通の SMI バスを共有できます。PHY を区別するため、3 ビット アドレスを使います。電源投入時のリセット中に、DP83TG720S-Q1 はそのアドレスを判断するため PHY_AD 構成ピンをラッチします。

管理エンティティは、電源投入時のリセットの後の最初のサイクルで SMI トランザクションを開始してはなりません。有効な動作を維持するため、ハード リセットがデアサートされた後、少なくとも 1 MDC サイクルの間、SMI バスは非アクティブのままである必要があります。通常の MDIO トランザクションでは、管理フレームのレジスタ アドレス フィールドからレジスタ アドレスが直接取り込まれるため、32 の 16 ビット レジスタ (IEEE 802.3 で定義されたレジスタとベンダ固有のレジスタを含む) に直接アクセスできます。データ フィールドは、読み出しと書き込みの両方に使用されます。スタート コードは <01> パターンで示されます。このパターンにより、MDIO ラインはデフォルトのアイドル ライン状態から必ず遷移します。ターンアラウンドは、レジスタ アドレス フィールドとデータ フィールドの間に挿入されたアイドル ビット期間として定義されます。読み出しトランザクション中の競合を避けるため、ターンアラウンドの先頭ビットの間、デバイスは MDIO 信号をアクティブに駆動できません。アドレス指定された DP83TG720S-Q1 は、2 番目のビットのターンアラウンドの間 MDIO を 0 で駆動し、その後に必要なデータを送信します。

書き込みトランザクションの場合、ステーション管理エンティティはアドレス指定された DP83TG720S-Q1 にデータを書き込みます。そのため、MDIO ターンアラウンドは不要です。ターンアラウンド期間には、管理エンティティによって <10> が挿入されます。

表 6-14. SMI プロトコルの構成

SMI プロトコル	<アイドル> <スタート> <オペ コード> <デバイス アドレス> <レジスタ アドレス> <ターンアラウンド> <データ> <アイドル>
読み出し動作	<アイドル><01><10><AAAAA><RRRRR><Z0><XXXX XXXX XXXX XXXX><アイドル>
書き込み動作	<アイドル><01><01><AAAAA><RRRRR><10><XXXX XXXX XXXX XXXX><アイドル>

6.4.9.1 ダイレクト・レジスタ・アクセス

ダイレクト・レジスタ・アクセスは先頭の 31 のレジスタ (0x0h～0x1Fh) に対して使えます。

6.4.9.2 拡張レジスタ スペース アクセス

DP83TG720S-Q1 の SMI 機能は、レジスタ REGCR (0x000Dh) および ADDAR (0x000Eh) と MMD (MDIO Manageable Device) 間接方式 (IEEE 802.3ah Draft、22 項「アクセス」、45 項「拡張レジスタセット」で定義) を使った拡張レジスタ セットへの読み出しおよび書き込みアクセスをサポートしています。

注

0x001F を超えるアドレスのレジスタは、間接アクセスを必要とします。間接アクセスの場合、レジスタ書き込みのシーケンスに従う必要があります。MMD 値は、レジスタ セットのデバイス アドレス (DEVAD) を定義します。間接アクセスのためには、DEVAD をレジスタ 0x000D (REGCR) ビット[4:0] に設定する必要があります

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

DP83TG720S-Q1 は 4 つの MMD デバイス アドレスをサポートしています。4 つの MMD レジスタ空間は次のとおりです。

1. MMD1F (ベンダ固有のレジスタ): DEVAD [4:0] = ‘11111’
2. MMD1 (IEEE 802.3az 定義レジスタ):DEVAD [4:0] = ‘00001’
3. MMD3 (IEEE 802.3az 定義レジスタ):DEVAD [4:0] = ‘00011’
4. MMD3 (IEEE 802.3az 定義レジスタ):DEVAD [4:0] = ‘00111’

表 6-15. MMD レジスタ空間の区分

MMD レジスタ空間	レジスタ アドレス範囲
MMD1F	0x000～0x0EFD
MMD1	0x1000～0x1904
MMD3	0x3000～0x390D
MMD7	0x7000～0x7200

注

MMD1/3/7 の場合、レジスタ アドレスの最上位ニブルは、それぞれの MMD 空間を示すために使用されます。実際のレジスタ アクセス動作中は、これを無視する必要があります。たとえば、レジスタ 0x1904 にアクセスするには、レジスタ アドレスとして 0x0904 を、MMD として x01 を使います。

以下のセクションでは、レジスタ REGCR および ADDAR を使って拡張レジスタ セットを操作する方法について説明します。

6.4.9.2.1 書き込み動作 (ポスト インクリメントなし)

拡張レジスタ セット内のレジスタを書き込むには、次の手順に従います。

手順	例:レジスタ **0x0170 = 0C50** に設定する
1.レジスタ REGCR (0x0D) に値 0x001F (アドレス機能フィールド= 00、DEVAD = 31) を書き込む。	値 0x001F にレジスタ 0x0D を書き込む
2.レジスタ ADDAR (0x0E) に目的のレジスタ アドレスを書き込む。	値 0x0170 にレジスタ 0x0E を書き込む
3.レジスタ REGCR に値 0x401F (データ、ポスト インクリメントなし機能フィールド = 01、DEVAD = 31) を書き込む。	値 0x401F にレジスタ 0x0D を書き込む
4.レジスタ ADDAR に目的の拡張レジスタ セット レジスタの内容を書き込む。	値 0x0C50 にレジスタ 0x0E を書き込む

それ以降、レジスタ ADDAR (ステップ 4) に書き込むと、そのアドレス レジスタの値によって選択されたレジスタが引き続き書き換えられます。

注

アドレス レジスタが前もって設定されている場合、ステップ (1) および (2) を飛ばすことができます。

6.4.9.2.2 読み出し動作 (ポスト インクリメントなし)

拡張レジスタ セットのレジスタを読み出すには、次の手順に従います。

手順	例:**0x0170** を読み出します
1.レジスタ REGCR に値 0x001F (機能フィールド= 00 (アドレス)、DEVAD = '31') を書き込む。	値 0x001F にレジスタ 0x0D を書き込む
2.レジスタ ADDAR に目的のレジスタ アドレスを書き込む。	値 0x0170 にレジスタ 0x0E を書き込む

手順	例:0x0170 を読み出します
3.レジスタ REGCR に値 0x401F (データ、ポスト インクリメントなし機能フィールド = 01、DEVAD = 31) を書き込む。	値 0x401F にレジスタ 0x0D を書き込む
4.レジスタ ADDAR に目的の拡張レジスタ セット レジスタの内容を読みだす。	レジスタ 0x0E を読み出す

それ以降、レジスタ ADDAR (ステップ 4) から読み出すと、アドレス レジスタの値によって選択されたレジスタが引き続き読み出されます。

注

アドレス レジスタが前もって設定されている場合、ステップ (1) および (2) を飛ばすことができます。

6.4.9.2.3 書き込み動作 (ポスト インクリメントあり)

拡張レジスタ セットのレジスタを書き込み、書き込み動作後にアドレス レジスタをすぐ上の値に自動的にインクリメントするには、次の手順に従います。

手順	例:レジスタ 0x0170 = 0C50 かつレジスタ 0x0171 = 0x0011 を設定しする
1.レジスタ REGCR に値 0x001F (機能フィールド= 00 (アドレス)、DEVAD = '31') を書き込む。	値 0x001F にレジスタ 0x0D を書き込む
2.レジスタ ADDAR からレジスタ アドレスを書き込む。	値 0x0170 にレジスタ 0x0E を書き込む
3.値 0x801F (データ、読み取りおよび書き込み機能フィールドのポスト インクリメント = 10、DEVAD = 31) または値 0xC01F (データ、書き込み機能フィールドのポスト インクリメント = 11.DEVAD = 31) をレジスタ REGCR に書き込む。	値 0x801F にレジスタ 0x0D を書き込む
4.レジスタ ADDAR に目的の拡張レジスタ セット レジスタの内容を書き込む。	値 0x0C50 にレジスタ 0x0E を書き込む
5.それ以降、レジスタ ADDAR (ステップ 4) に書き込むと、アドレス レジスタの値によって選択されたすぐ上のアドレスのデータ レジスタが引き続き書き込まれます (アドレス レジスタは各アクセスの後にインクリメントされます)。	値 0x0011 にレジスタ 0x0E を書き込む

ステップ 4 ではレジスタ 0x0170 を 0x0C50 に書き込み、ポスト インクリメントが有効になっているため、ステップ 5 ではレジスタ 0x0171 を 0x0011 に書き込みます。

6.4.9.2.4 読み出し動作 (ポスト インクリメントあり)

拡張レジスタ セットのレジスタを読み出し、読み取り動作後にアドレス レジスタをすぐ上の値に自動的にインクリメントするには、次の手順に従います。

手順	例:読み取りレジスタ 0x0170 および 0x0171
1.レジスタ REGCR に値 0x001F (機能フィールド= 00 (アドレス)、DEVAD = '31') を書き込む。	値 0x001F にレジスタ 0x0D を書き込む
2.レジスタ ADDAR に目的のレジスタ アドレスを書き込む。	値 0x0170 にレジスタ 0x0E を書き込む
3.値 0x801F (データ、読み取りおよび書き込み時の増分後機能フィールド = 10、DEVAD = 31) をレジスタ REGCR に書き込む。	値 0x801F にレジスタ 0x0D を書き込む
4.レジスタ ADDAR に目的の拡張レジスタ セット レジスタの内容を読みだす。	レジスタ 0x0E を読み出す

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

手順	例:読み取りレジスタ **0x0170** および **0x0171**
5.それ以降、レジスタ ADDAR (ステップ 4) を読み出すと、アドレス レジスタの値によって選択されたすぐ上のアドレスのデータ レジスタが引き続き読み出されます (アドレス レジスタは各アクセスの後にインクリメントされます)。	レジスタ 0x0E を読み出す

ステップ 4 ではレジスタ 0x0170 を読み出し、ポスト インクリメントが有効になっているため、ステップ 5 ではレジスタ 0x0171 を読み出します。

6.5 プログラミング

6.5.1 ストラップ構成

DP83TG720S-Q1 は、デバイスを特定の動作モードに設定するために、機能ピンをストラップ オプションとして使用しています。これらのピンの値は、電源投入およびハードウェア リセット時に (RESET_N ピンまたはレジスタ アクセスのどちらかによって) サンプリングされます。ストラップ ピンは 2 レベルと 3 レベルをサポートしており、以下で詳細に説明します。デバイスの構成は、ストラップ設定またはシリアル マネージメント インターフェイスを使用します。

注

- リセットがデアサートされた後、ストラップ ピンは機能ピンになるため、VCC にも GND にも直接接続してはいけません。
- 各種ストラップ モードに入るには、プルアップ ストラップ抵抗で十分です。
- プルダウン ストラップ抵抗は、LED ピンのストラップとして使用できます。「LED の構成」セクションを参照してください。

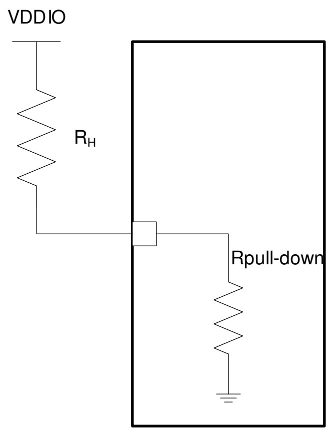


図 6-18. ストラップ回路

表 6-16. 3 レベル ストラップの推奨抵抗比

モード	推奨 RH (kΩ) [1] (VDDIO = 3.3V)	推奨 RH (kΩ) [2] (VDDIO = 2.5V)	推奨 RH (kΩ) [1] (VDDIO = 1.8V)
1	オープン	オープン	オープン
2	13	12	4
3	4.5	2	0.8

1. 抵抗精度 10%
2. 抵抗精度 1%

表 6-17. 2 レベル ストラップの推奨抵抗

モード	推奨 RH (kΩ) [1] [2]
1	オープン
2	2.49

1. 抵抗精度 10%
2. 1.8V VDDIO のユーザー アプリケーションでマージンを拡大するには、2.1k ±10% のプルアップ抵抗を使用する方法と、2.49k の抵抗精度を 1% に制限する方法があります。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

次の表で、DP83TG720S-Q1 の構成ブートストラップについて説明します。

表 6-18. 2 レベル ブートストラップ

ピン名	ピン番号	ストラップ モード	ストラップ機能	説明
RX_D0	26	1 (デフォルト)	MAC[0] = 0	MAC インターフェイスの選択 [0]。詳細は表 6-19 を参照。
		2	MAC[0] = 1	
RX_D1	25	1 (デフォルト)	MAC[1] = 0	MAC インターフェイスの選択 [1]。詳細は表 6-19 を参照。
		2	MAC[1] = 1	
RX_D2	24	1 (デフォルト)	MAC[2] = 0	MAC インターフェイスの選択 [2]。詳細は表 6-19 を参照。
		2	MAC[2] = 1	
LED_0	35	1 (デフォルト)	MS = 0	MDI マスタ スレーブ選択。 MS = 0 スレーブ MS = 1 マスタ
		2	MS = 1	
LED_1	6	1 (デフォルト)	$\overline{\text{AUTO}}$ = 0	自律の無効化 $\overline{\text{AUTO}}$ = 0 自律 $\overline{\text{AUTO}}$ = 1 管理
		2	$\overline{\text{AUTO}}$ = 1	

表 6-19. MAC インターフェイス選択ブートストラップ

MAC[2]	MAC[1]	MAC[0]	説明
0	0	0	SGMII (4 線式)
0	0	1	RESERVED
0	1	0	RESERVED
0	1	1	RESERVED
1	0	0	RGMII (整列モード)
1	0	1	RGMII (TX シフト モード)
1	1	0	RGMII (TX および RX シフト モード)
1	1	1	RGMII (RX シフト モード)

表 6-20. 3 レベルのブートストラップ : PHY アドレス

PHY_AD[3:0]	RX_CTRL ストラップ モード	STRP_1 ストラップ モード	説明
0000	1	1	PHY アドレス:0x0000 (0)
0001	-	-	RESERVED
0010	-	-	RESERVED
0011	-	-	RESERVED
0100	2	1	PHY アドレス:0x0004 (4)
0101	3	1	PHY アドレス:0x0005 (5)
0110	-	-	RESERVED
0111	-	-	RESERVED
1000	1	2	PHY アドレス:0x0008 (8)
1001	-	-	RESERVED
1010	1	3	PHY アドレス:0x000A (10)
1011	-	-	RESERVED
1100	2	2	PHY アドレス:0x000C (12)
1101	3	2	PHY アドレス:0x000D (13)
1110	2	3	PHY アドレス:0x000E (14)
1111	3	3	PHY アドレス:0x000F (15)

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.5.2 LED の構成

DP83TG720S-Q1 は、最大 3 つの構成可能な発光ダイオード (LED) ピン (LED_0、LED_1、LED_2 (CLKOUT)) をサポートしています。各種動作モードのために複数の機能を LED に多重化できます。LED の動作は、レジスタ 0x0450 および 0x0451 を使って選択されます。

注

CLKOUT には、デフォルトで 25MHz クロックが出力されます。このピンは、必要に応じて、レジスタ 0x0453 を使って LED2 に構成できます。

LED 出力ピンはストラップ・ピンとしても使用されるため、ストラップに必要な外付け部品と、競合を避けるための LED の使い方とを考慮する必要があります。特に、LED 出力を使って LED を直接駆動する場合、各出力ドライバのアクティブ状態は、電源投入時またはハードウェア・リセット時に、対応する入力によってサンプリングされたロジック・レベルで決まります。

図 6-19 に、LED を DP83TG720S-Q1 に直接接続する 2 つの適切な方法を示します。

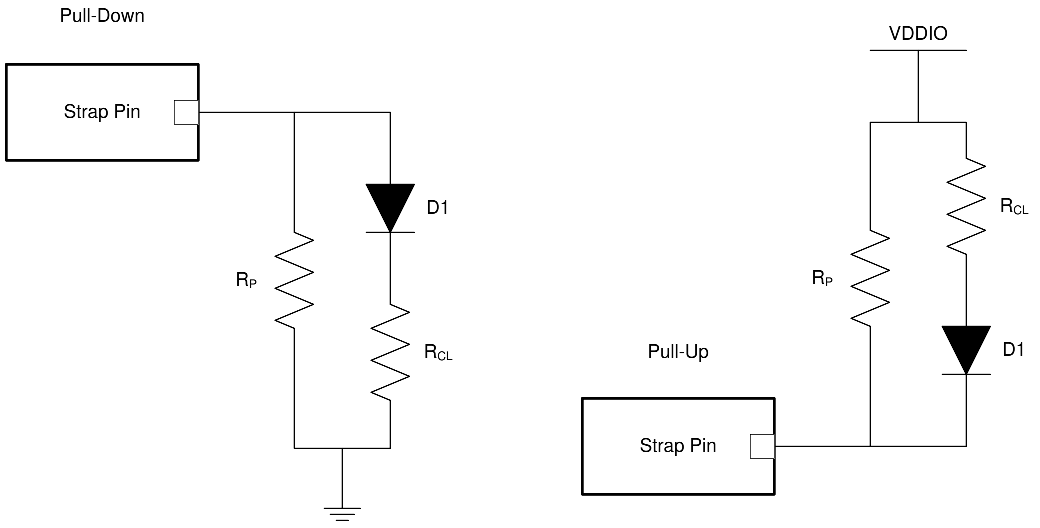


図 6-19. ストラップ接続の例

6.5.3 PHY アドレスの設定

DP83TG720S-Q1 は、9 つの可能な PHY アドレスのいずれかに応答するように、ブートストラップ・ピンを使って設定できます。その PHY アドレスは、電源投入時またはハードウェア・リセット時に本デバイスにラッチされます。システム内のシリアル・マネージメント・バス上の各 DP83TG720S-Q1 またはポート共有している PHY は、一意の PHY アドレスを持っている必要があります。DP83TG720S-Q1 は、表 6-20 に示す PHY アドレスをサポートしています。

デフォルトでは、DP83TG720S-Q1 には PHY アドレス 0 ([0000]) がラッチされます。このアドレスは、ブートストラップ・ピン (表 6-18 を参照) にプルアップ抵抗を追加することで変更できます。

6.6 レジスタマップ

6.6.1 レジスタ・アクセスの概要

フィールド内のレジスタにアクセスする方法は 2 つあります。ダイレクト・レジスタ・アクセス方式は、MMD1F レジスタ空間の最初の 31 のレジスタ (0x0h～0x1Fh) に対してのみ使えます。0x1Fh を超えるレジスタをアクセスするには、間接方式 (拡張レジスタ空間、セクション 6.4.9.2 を参照) を使う必要があります。

表 6-21. MMD レジスタ空間の区分

MMD レジスタ空間	レジスタ・アドレス範囲
MMD1F	0x000～0x0EFD
MMD1	0x1000～0x1904
MMD3	0x3000～0x390D
MMD7	0x7000～0x7200

表 6-22. レジスタ・アクセスの概要

レジスタ・フィールド	レジスタ・アクセス方式
0x0h～0x1Fh	直接アクセス
	間接アクセス、MMD1F = '11111' 例：MMD1F フィールドのレジスタ 0x17h をポスト・インクリメントなしで読み出すには、 ステップ 1) レジスタ 0xDh に 0x1Fh を書き込む ステップ 2) レジスタ 0xEh に 0x17h を書き込む ステップ 3) レジスタ 0xDh に 0x401Fh を書き込む ステップ 4) レジスタ 0xEh を読み出す
MMD1F フィールド 0x20h～0xFFFh	間接アクセス、MMD1F = '11111' 例：MMD1F フィールドのレジスタ 0x462h をポスト・インクリメントなしで読み出すには、 ステップ 1) レジスタ 0xDh に 0x1Fh を書き込む ステップ 2) レジスタ 0xEh に 0x462h を書き込む ステップ 3) レジスタ 0xDh に 0x401Fh を書き込む ステップ 4) レジスタ 0xEh を読み出す
MMD1 フィールド 0x0000h～0x0FFFh	間接アクセス、MMD1 = '00001' 例：MMD1 フィールドのレジスタ 0x7h をポスト・インクリメントなしで読み出すには、 ステップ 1) レジスタ 0xDh に 0x1h を書き込む ステップ 2) レジスタ 0xEh に 0x7h を書き込む ステップ 3) レジスタ 0xDh に 0x4001h を書き込む ステップ 4) レジスタ 0xEh を読み出す

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2 DP83TG720 のレジスタ

DP83TG720 レジスタのメモリマップされたレジスタを、表 6-23 に示します。表 6-23 にないレジスタ オフセット アドレスはすべて予約済みと見なして、レジスタの内容は変更しないでください。

表 6-23. DP83TG720 のレジスタ

オフセット	略称	レジスタ名	セクション
0h	BMCR		セクション 6.6.2.1
1h	BMSR		セクション 6.6.2.2
2h	PHYID1		セクション 6.6.2.3
3h	PHYID2		セクション 6.6.2.4
Dh	REGCR		セクション 6.6.2.5
Eh	ADDAR		セクション 6.6.2.6
10h	MII_REG_10		セクション 6.6.2.7
11h	MII_REG_11		セクション 6.6.2.8
12h	MII_REG_12		セクション 6.6.2.9
13h	MII_REG_13		セクション 6.6.2.10
16h	MII_REG_16		セクション 6.6.2.11
18h	MII_REG_18		セクション 6.6.2.12
19h	MII_REG_19		セクション 6.6.2.13
1Eh	MII_REG_1E		セクション 6.6.2.14
1Fh	MII_REG_1F		セクション 6.6.2.15
180h	LSR		セクション 6.6.2.16
18Bh	LPS_CFG2		セクション 6.6.2.17
18Ch	LPS_CFG3		セクション 6.6.2.18
18Eh	LPS_STATUS		セクション 6.6.2.19
30Fh	TDR_TC12		セクション 6.6.2.20
405h	A2D_REG_05		セクション 6.6.2.21
41Eh	A2D_REG_30		セクション 6.6.2.22
428h	A2D_REG_40		セクション 6.6.2.23
429h	A2D_REG_41		セクション 6.6.2.24
42Ch	A2D_REG_44		セクション 6.6.2.25
42Fh	A2D_REG_47		セクション 6.6.2.26
430h	A2D_REG_48		セクション 6.6.2.27
442h	A2D_REG_66		セクション 6.6.2.28
450h	LEDS_CFG_1		セクション 6.6.2.29
451h	LEDS_CFG_2		セクション 6.6.2.30
452h	IO_MUX_CFG_1		セクション 6.6.2.31
453h	IO_MUX_CFG_2		セクション 6.6.2.32
456h	IO_CONTROL_3		セクション 6.6.2.33
45Dh	SOR_VECTOR_1		セクション 6.6.2.34
45Eh	SOR_VECTOR_2		セクション 6.6.2.35
468h	MONITOR_CTRL2		セクション 6.6.2.36
46Ah	MONITOR_CTRL4		セクション 6.6.2.37
47Bh	MONITOR_STAT1		セクション 6.6.2.38
510h	RS_DECODER		セクション 6.6.2.39

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 6-23. DP83TG720 のレジスタ (続き)

オフセット	略称	レジスタ名	セクション
52Bh	TRAINING_RX_STATUS_7		セクション 6.6.2.40
543h	LINK_QUAL_1		セクション 6.6.2.41
544h	LINK_QUAL_2		セクション 6.6.2.42
545h	LINK_DOWN_LATCH_STAT		セクション 6.6.2.43
547h	LINK_QUAL_3		セクション 6.6.2.44
548h	LINK_QUAL_4		セクション 6.6.2.45
552h	RS_DECODER_FRAME_STAT_2		セクション 6.6.2.46
553h	RS_DECODER_FRAME_STAT_3		セクション 6.6.2.47
600h	RGMII_CTRL		セクション 6.6.2.48
601h	RGMII_FIFO_STATUS		セクション 6.6.2.49
602h	RGMII_DELAY_CTRL		セクション 6.6.2.50
608h	SGMII_CTRL_1		セクション 6.6.2.51
60Ah	SGMII_STATUS		セクション 6.6.2.52
60Ch	SGMII_CTRL_2		セクション 6.6.2.53
60Dh	SGMII_FIFO_STATUS		セクション 6.6.2.54
618h	PRBS_STATUS_1		セクション 6.6.2.55
619h	PRBS_CTRL_1		セクション 6.6.2.56
61Ah	PRBS_CTRL_2		セクション 6.6.2.57
61Bh	PRBS_CTRL_3		セクション 6.6.2.58
61Ch	PRBS_STATUS_2		セクション 6.6.2.59
61Dh	PRBS_STATUS_3		セクション 6.6.2.60
61Eh	PRBS_STATUS_4		セクション 6.6.2.61
620h	PRBS_STATUS_6		セクション 6.6.2.62
622h	PRBS_STATUS_8		セクション 6.6.2.63
623h	PRBS_STATUS_9		セクション 6.6.2.64
624h	PRBS_CTRL_4		セクション 6.6.2.65
625h	PRBS_CTRL_5		セクション 6.6.2.66
626h	PRBS_CTRL_6		セクション 6.6.2.67
627h	PRBS_CTRL_7		セクション 6.6.2.68
628h	PRBS_CTRL_8		セクション 6.6.2.69
629h	PRBS_CTRL_9		セクション 6.6.2.70
62Ah	PRBS_CTRL_10		セクション 6.6.2.71
638h	CRC_STATUS		セクション 6.6.2.72
639h	PKT_STAT_1		セクション 6.6.2.73
63Ah	PKT_STAT_2		セクション 6.6.2.74
63Bh	PKT_STAT_3		セクション 6.6.2.75
63Ch	PKT_STAT_4		セクション 6.6.2.76
63Dh	PKT_STAT_5		セクション 6.6.2.77
63Eh	PKT_STAT_6		セクション 6.6.2.78
871h	SQI_REG_1		セクション 6.6.2.79
874h	DSP_REG_74		セクション 6.6.2.80
875h	DSP_REG_75		セクション 6.6.2.81

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 6-23. DP83TG720 のレジスタ (続き)

オフセット	略称	レジスタ名	セクション
1000h	PMA_PMD_CONTROL_1		セクション 6.6.2.82
1007h	PMA_PMD_CONTROL_2		セクション 6.6.2.83
1009h	PMA_PMD_TRANSMIT_DISABLE		セクション 6.6.2.84
100Bh	PMA_PMD_EXTENDED_ABILITY2		セクション 6.6.2.85
1012h	PMA_PMD_EXTENDED_ABILITY		セクション 6.6.2.86
1834h	PMA_PMD_CONTROL		セクション 6.6.2.87
1900h	PMA_CONTROL		セクション 6.6.2.88
1901h	PMA_STATUS		セクション 6.6.2.89
1902h	トレーニング		セクション 6.6.2.90
1903h	LP_TRAINING		セクション 6.6.2.91
1904h	TEST_MODE_CONTROL		セクション 6.6.2.92
3900h	PCS_CONTROL		セクション 6.6.2.93
3901h	PCS_STATUS		セクション 6.6.2.94
3902h	PCS_STATUS_2		セクション 6.6.2.95
3904h	OAM_TRANSMIT		セクション 6.6.2.96
3905h	OAM_TX_MESSAGE_1		セクション 6.6.2.97
3906h	OAM_TX_MESSAGE_2		セクション 6.6.2.98
3907h	OAM_TX_MESSAGE_3		セクション 6.6.2.99
3908h	OAM_TX_MESSAGE_4		セクション 6.6.2.100
3909h	OAM_RECEIVE		セクション 6.6.2.101
390Ah	OAM_RX_MESSAGE_1		セクション 6.6.2.102
390Bh	OAM_RX_MESSAGE_2		セクション 6.6.2.103
390Ch	OAM_RX_MESSAGE_3		セクション 6.6.2.104
390Dh	OAM_RX_MESSAGE_4		セクション 6.6.2.105
7200h	AN_CFG		セクション 6.6.2.106

表の小さなセルに収まるように、複雑なビット アクセス タイプを記号で表記しています。表 6-24 に、このセクションでアクセス タイプに使用しているコードを示します。

表 6-24. DP83TG720 のアクセス タイプ コード

アクセス タイプ	表記	概要
読み取りタイプ		
R	R	読み出し
書き込みタイプ		
W	W	書き込み
W0C	W 0C	書き込み 0 でクリア
W0S	W 0S	0 を書き込むことでセット
WMC	W	書き込み
WMC、0	W	書き込み
WMC、1	W	書き込み

表 6-24. DP83TG720 のアクセス タイプ コード (続き)

アクセス タイプ	表記	概要
WSC	W	書き込み
WSC、0	W	書き込み
リセットまたはデフォルト値		
-n		リセット後の値またはデフォルト値

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.1 BMCR レジスタ (オフセット = 0h) [リセット = 0140h]

図 6-20 に、BMCR を示し、表 6-25 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-20. BMCR レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
mii_reset	ループバック	RESERVED	RESERVED	power_down	絶縁	RESERVED	RESERVED
R/WMC-0h	R/W-0h	R-0h	R-0h	R/W-0h	R/W-0h	R-0h	R-0h

7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED	speed_sel_msb	RESERVED	RESERVED				
R-0h	R-1h	R-0h	R-0h				

表 6-25. BMCR レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	mii_reset	R/WMC	0h	1b = デジタル入力をリセット、全 MII レジスタ (0x0～0xF) をデフォルト値にリセット 0b = リセットなし
14	ループバック	R/W	0h	1b = MII ループバック 0b = MII　ループバックなし
13	RESERVED	R	0h	予約済み
12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	power_down	R/W	0h	1b = レジスタまたはピンによるパワーダウン 0b = 正常モード
10	絶縁	R/W	0h	1b = MAC 絶縁モード (PHY から MAC への出力なし) 0b = 通常モード
9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6	speed_sel_msb	R	1h	0b = 予約済み 1b = 1000MB/s
5	RESERVED	R	0h	予約済み
4-0	RESERVED	R	0h	予約済み

6.6.2.2 BMSR レジスタ (オフセット = 1h) [リセット = 0141h]

図 6-21 に、BMSR を示し、表 6-26 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-21. BMSR レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	extended_status
R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-1h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
unidirectional_ability	preamble_supression	aneg_complete	remote_fault	aneg_ability	link_status	jabber_detect	extended_capability
R-0h	R-1h	R-0h	R/W0C-0h	R-0h	R/W0S-0h	R/W0C-0h	R-1h

表 6-26. BMSR レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	RESERVED	R	0h	予約済み
14	RESERVED	R	0h	予約済み
13	RESERVED	R	0h	予約済み
12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	RESERVED	R	0h	予約済み
10	RESERVED	R	0h	予約済み
9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	extended_status	R	1h	1b = レジスタ 15 の拡張ステータス情報 0b = レジスタ 15 に拡張ステータス情報なし
7	unidirectional_ability	R	0h	予約済み
6	preamble_supression	R	1h	1b = PHY がプリアンブルが抑制された管理フレームを受け入れる 0b = PHY はプリアンブルが抑制された管理フレームを受け入れない
5	aneg_complete	R	0h	予約済み
4	remote_fault	R/W0C	0h	予約済み
3	aneg_ability	R	0h	予約済み
2	link_status	R/W0S	0h	1b = リンクはアップ 0b = リンクはダウン
1	jabber_detect	R/W0C	0h	予約済み
0	extended_capability	R	1h	1b = 拡張レジスタ機能 0b = 基本レジスタ セット機能のみ

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.3 PHYID1 レジスタ (オフセット = 2h) [リセット = 2000h]

図 6-22 に、PHYID1 を示し、表 6-27 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-22. PHYID1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
oui_21_16							
R-2000h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
oui_21_16							
R-2000h							

表 6-27. PHYID1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	oui_21_16	R	2000h	部品の一意の識別子

6.6.2.4 PHYID2 レジスタ (オフセット = 3h) [リセット = A284h]

図 6-23 に、PHYID2 を示し、表 6-28 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-23. PHYID2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
oui_5_0						model_number	
R-28h						R-28h	
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
model_number				rev_number			
R-28h				R-4h			

表 6-28. PHYID2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-10	oui_5_0	R	28h	部品の一意の識別子
9-4	model_number	R	28h	部品の一意の識別子
3-0	rev_number	R	4h	部品の一意の識別子

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.5 REGCR レジスタ (オフセット = Dh) [リセット = 0000h]

図 6-24 に、REGCR を示し、表 6-29 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-24. REGCR レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
拡張レジスタ コマンド		RESERVED					
R/W-0h		R-0h					
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED			DEVAD				
R-0h			R/W-0h				

表 6-29. REGCR レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-14	拡張レジスタ コマンド	R/W	0h	00b =アドレス 01b =データ、ポストインクリメントなし 10b = データ、読み出しおよび書き込み時にポストインクリメント 11b =データ、書き込み時のみポストインクリメント
13-5	RESERVED	R	0h	予約済み
4-0	DEVAD	R/W	0h	間接レジスタ アクセス用の MMD フィールド

6.6.2.6 ADDAR レジスタ (オフセット = Eh) [リセット = 0000h]

図 6-25 に、ADDAR を示し、表 6-30 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-25. ADDAR レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
アドレス / データ							
R/W-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
アドレス / データ							
R/W-0h							

表 6-30. ADDAR レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	アドレス / データ	R/W	0h	間接レジスタ アクセス用のアドレス データ フィールド

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.7 MII_REG_10 レジスタ (オフセット = 10h) [リセット = 0004h]

図 6-26 に、MII_REG_10 を示し、表 6-31 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-26. MII_REG_10 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED					RESERVED	descr_lock_bit	RESERVED
R-0h					R-0h	R/W0S-0h	R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
mii_int_bit	RESERVED			mii_loopback	duplex_mode_env	RESERVED	link_status_bit
R-0h	R-0h			R-0h	R-1h	R-0h	R-0h

表 6-31. MII_REG_10 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-11	RESERVED	R	0h	予約済み
10	RESERVED	R	0h	予約済み
9	descr_lock_bit	R/W0S	0h	1b = デスクランブラはロック 0b = デスクランブラは少なくとも 1 回ロック解除
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	mii_int_bit	R	0h	1b = 割り込みピンがセットされている 0b = 割り込みピンが設定されていない 読み出し時にクリア
6-4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	mii_loopback	R	0h	1b = MII ループバック 0b = MII ループバックなし
2	duplex_mode_env	R	1h	1b = 全二重 0b = 半二重
1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	link_status_bit	R	0h	1b = リンクはアップ 0b = リンクはダウン

6.6.2.8 MII_REG_11 レジスタ (オフセット = 11h) [リセット = 000Bh]

図 6-27 に、MII_REG_11 を示し、表 6-32 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-27. MII_REG_11 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED	RESERVED	RESERVED		RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED
R-0h	R-0h	R-0h		R-0h	R-0h	R-0h	R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED	RESERVED	RESERVED		int_polarity	force_interrupt	int_en	RESERVED
R-0h	R-0h	R-0h		R/W-1h	R/W-0h	R/W-1h	R-0h

表 6-32. MII_REG_11 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	RESERVED	R	0h	予約済み
14	RESERVED	R	0h	予約済み
13-12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	RESERVED	R	0h	予約済み
10	RESERVED	R	0h	予約済み
9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6	RESERVED	R	0h	予約済み
5-4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	int_polarity	R/W	1h	1b =アクティブ Low 0b = アクティブ High
2	force_interrupt	R/W	0h	1b = 割り込みピンを強制する 0b = 割り込みピンを強制しない
1	int_en	R/W	1h	1b = 割り込み有効 0b =割り込み無効
0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.9 MII_REG_12 レジスタ (オフセット = 12h) [リセット = 0000h]

図 6-28 に、MII_REG_12 を示し、表 6-33 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-28. MII_REG_12 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED	energy_det_int	link_int	RESERVED	esd_int	ms_train_done_int	RESERVED	RESERVED
R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED	energy_det_int_en	link_int_en	RESERVED	esd_int_en	ms_train_done_int_en	RESERVED	RESERVED
R-0h	R/W-0h	R/W-0h	R-0h	R/W-0h	R/W-0h	R-0h	R-0h

表 6-33. MII_REG_12 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	RESERVED	R	0h	予約済み
14	energy_det_int	R	0h	エネルギー検出変化割り込みのステータス
13	link_int	R	0h	リンク ステータス変化割り込みのステータス
12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	esd_int	R	0h	ESD フォルト検出割り込みのステータス
10	ms_train_done_int	R	0h	トレーニング完了割り込みのステータス
9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6	energy_det_int_en	R/W	0h	エネルギー検出変化割り込みの有効化
5	link_int_en	R/W	0h	リンク ステータス変化割り込みの有効化
4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	esd_int_en	R/W	0h	ESD フォルト検出割り込みの有効化
2	ms_train_done_int_en	R/W	0h	トレーニング完了割り込みの有効化
1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.10 MII_REG_13 レジスタ (オフセット = 13h) [リセット = 0000h]

図 6-29 に、MII_REG_13 を示し、表 6-34 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-29. MII_REG_13 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
under_volt_int	over_volt_int	RESERVED	RESERVED	over_temp_int	RESERVED	pol_change_int	RESERVED
R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
under_volt_int_en	over_volt_int_en	RESERVED	RESERVED	over_temp_int_en	RESERVED	pol_change_int_en	RESERVED
R/W-0h	R/W-0h	R-0h	R-0h	R/W-0h	R-0h	R/W-0h	R-0h

表 6-34. MII_REG_13 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	under_volt_int	R	0h	低電圧割り込みのステータス
14	over_volt_int	R	0h	過電圧割り込みのステータス
13	RESERVED	R	0h	予約済み
12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	over_temp_int	R	0h	過熱割り込みのステータス
10	RESERVED	R	0h	予約済み
9	pol_change_int	R	0h	データ極性変化割り込みステータス
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	under_volt_int_en	R/W	0h	低電圧割り込みの有効化
6	over_volt_int_en	R/W	0h	過電圧割り込みの有効化
5	RESERVED	R	0h	予約済み
4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	over_temp_int_en	R/W	0h	過熱割り込みの有効化
2	RESERVED	R	0h	予約済み
1	pol_change_int_en	R/W	0h	データ極性変化割り込み有効
0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.11 MII_REG_16 レジスタ (オフセット = 16h) [リセット = 0000h]

図 6-30 に、MII_REG_16 を示し、表 6-35 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-30. MII_REG_16 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED					RESERVED	RESERVED	core_pwr_mode
R-0h					R-0h	R-0h	R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED	loopback_mode						
R-0h	R/W-0h						

表 6-35. MII_REG_16 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-11	RESERVED	R	0h	予約済み
10	RESERVED	R	0h	予約済み
9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	core_pwr_mode	R	0h	1b = コアは通常パワーモード 0b = コアはパワーダウンまたはスリープ モード
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6-0	loopback_mode	R/W	0h	000001b = PCS ープ 000010b = RS ループ 000100b = デジタルループ 001000B = アナログ ループ 010000b = 逆ループ

6.6.2.12 MII_REG_18 レジスタ (オフセット = 18h) [リセット = 0008h]

図 6-31 に、MII_REG_18 を示し、表 6-36 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-31. MII_REG_18 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
ack_received_int	tx_valid_clr_int	RESERVED	RESERVED	por_done_int	RESERVED	RESERVED	RESERVED
R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
ack_received_int_en	tx_valid_clr_int_en	RESERVED	RESERVED	por_done_int_en	RESERVED	RESERVED	RESERVED
R/W-0h	R/W-0h	R-0h	R-0h	R/W-1h	R-0h	R-0h	R-0h

表 6-36. MII_REG_18 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	ack_received_int	R	0h	ACK 受信割り込みのステータス (OAM)
14	tx_valid_clr_int	R	0h	mr_tx_valid クリア割り込みのステータス (OAM)
13	RESERVED	R	0h	予約済み
12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	por_done_int	R	0h	POR 完了割り込みのステータス
10	RESERVED	R	0h	予約済み
9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	ack_received_int_en	R/W	0h	ACK 受信割り込みの有効化 (OAM)
6	tx_valid_clr_int_en	R/W	0h	Mr_tx_valid クリア割り込みの有効化 (OAM)
5	RESERVED	R	0h	予約済み
4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	por_done_int_en	R/W	1h	POR 完了割り込みの有効化
2	RESERVED	R	0h	予約済み
1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.13 MII_REG_19 レジスタ (オフセット = 19h) [リセット = 00XXh]

図 6-32 に、MII_REG_19 を示し、表 6-37 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-32. MII_REG_19 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED					RESERVED	RESERVED	
R-0h					R-0h	R-0h	
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED			SOR_PHYADDR				
R-0h			R-Xh				

表 6-37. MII_REG_19 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-11	RESERVED	R	0h	予約済み
10	RESERVED	R	0h	予約済み
9-5	RESERVED	R	0h	予約済み
4-0	SOR_PHYADDR	R	X	ストラップからラッチされる PHY アドレス

6.6.2.14 MII_REG_1E レジスタ (オフセット = 1Eh) [リセット = 0000h]

図 6-33 に、MII_REG_1E を示し、表 6-38 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-33. MII_REG_1E レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
tdr_start	cfg_tdr_auto_run	RESERVED					
R/WMC-0h	R/W-0h	R-0h					
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED						tdr_done	tdr_fail
R-0h						R-0h	R-0h

表 6-38. MII_REG_1E レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	tdr_start	R/WMC	0h	1b = TDR 開始 TDR 実行完了後ビットはクリア
14	cfg_tdr_auto_run	R/W	0h	1b = TDR はリンク ダウン時に自動的に開始 0b = TDR は 0x1E[15] を使用して手動で開始
13-2	RESERVED	R	0h	予約済み
1	tdr_done	R	0h	TDR 完了ステータス 1b = TDR 完了 0b = TDR 進行中または未開始
0	tdr_fail	R	0h	tdr_done ステータスが 1 の場合、このビットは TDR が正常に実行されたかどうかを示します 1b = TDR 実行失敗 0b = TDR 実行成功

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.15 MII_REG_1F レジスタ (オフセット = 1Fh) [リセット = 0000h]

図 6-34 に、MII_REG_1F を示し、表 6-39 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-34. MII_REG_1F レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
sw_global_reset	digital_reset	RESERVED	RESERVED				
R/WMC-0h	R/WMC-0h	R-0h	R-0h				
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED				
R-0h	R-0h	R-0h	R-0h				

表 6-39. MII_REG_1F レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	sw_global_reset	R/WMC	0h	ハードウェア リセット - デジタル + レジスタのファイルをリセット このビットはセルフ クリアします
14	digital_reset	R/WMC	0h	ソフト リセット - デジタル コアのみのリセット このビットはセルフ クリアします
13	RESERVED	R	0h	予約済み
12-8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6	RESERVED	R	0h	予約済み
5	RESERVED	R	0h	予約済み
4-0	RESERVED	R	0h	予約済み

6.6.2.16 LSR レジスタ (オフセット = 180h) [リセット = 0000h]

図 6-35 に、LSR を示し、表 6-40 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-35. LSR レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
link_up	link_down	phy_ctrl_send_data	link_status	RESERVED			
R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h			
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	channel_ok	descr_sync	loc_rcvr_status	rem_rcvr_status
R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h

表 6-40. LSR レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	link_up	R	0h	CnS で定義されたリンクアップ
14	link_down	R	0h	CnS で定義されたリンクダウン
13	phy_ctrl_send_data	R	0h	データ ステータス送信の PHY 制御
12	link_status	R	0h	IEEE で定義されたライブリンクのステータス
11-8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6	RESERVED	R	0h	予約済み
5	RESERVED	R	0h	予約済み
4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	channel_ok	R	0h	チャネル OK ステータス
2	descr_sync	R	0h	デスクランブラ ロックのステータス
1	loc_rcvr_status	R	0h	ローカル レシーバのステータス
0	rem_rcvr_status	R	0h	リモート レシーバのステータス

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.17 LPS_CFG2 レジスタ (オフセット = 18Bh) [リセット = 0000h]

図 6-36 に、LPS_CFG2 を示し、表 6-41 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-36. LPS_CFG2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							ed_en
R-0h							R/W-0h

7	6	5	4	3	2	1	0
sleep_en	cfg_auto_mode_en_strap	RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED
R/W-0h	R/WMC,1-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h

表 6-41. LPS_CFG2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	ed_en	R/W	0h	1b = MDI でのエネルギー検出を有効化 0b = MDI でのエネルギー検出を無効化
7	sleep_en	R/W	0h	1b = PHY がスリープ状態に移行できる 0b = PHY がスリープ状態に移行できない
6	cfg_auto_mode_en_strap	R/WMC,1	0h	LPS 自律モード有効化 1b = パワーオン時に PHY は通常モードに移行 0b = パワーオン時に PHY はスタンバイ モードに移行
5	RESERVED	R	0h	予約済み
4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	RESERVED	R	0h	予約済み
2	RESERVED	R	0h	予約済み
1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	RESERVED	R	0h	予約済み

6.6.2.18 LPS_CFG3 レジスタ (オフセット = 18Ch) [リセット = 0000h]

図 6-37 に、LPS_CFG3 を示し、表 6-42 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-37. LPS_CFG3 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED	RESERVED	RESERVED	cfg_lps_pwr_mode_4	RESERVED	RESERVED	RESERVED	cfg_lps_pwr_mode_0
R-0h	R-0h	R-0h	R/WMC,0-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R/WMC,0-0h

表 6-42. LPS_CFG3 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6	RESERVED	R	0h	予約済み
5	RESERVED	R	0h	予約済み
4	cfg_lps_pwr_mode_4	R/WMC、0	0h	スタンバイ モード移行に設定
3	RESERVED	R	0h	予約済み
2	RESERVED	R	0h	予約済み
1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	cfg_lps_pwr_mode_0	R/WMC、0	0h	通常モード移行に設定

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.19 LPS_STATUS レジスタ (オフセット = 18Eh) [リセット = 0000h]

LPS_STATUS を 図 6-38 に示し、表 6-43 で説明しています。

概略表に戻ります。

図 6-38. LPS_STATUS レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED	status_lps_st						
R-0h	R-0h						

表 6-43. LPS_STATUS レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-7	RESERVED	R	0h	予約済み
6-0	status_lps_st	R	0h	LPS 状態を確認: 0x2 = スタンバイ モード 0x4 = 通常モード

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.20 TDR_TC12 レジスタ (オフセット = 30Fh) [リセット = 0000h]

図 6-39 に、TDR_TC12 を示し、表 6-44 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-39. TDR_TC12 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED		fault_loc					
R-0h		R-0h					

7	6	5	4	3	2	1	0
tdr_state				RESERVED		tdr_activation	
R-0h						R-0h	

表 6-44. TDR_TC12 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-14	RESERVED	R	0h	予約済み
13-8	fault_loc	R	0h	TC12 を参照してください。
7-4	tdr_state	R	0h	TC12 を参照してください。
3-2	RESERVED	R	0h	予約済み
1-0	tdr_activation	R	0h	TC12 を参照してください。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.21 A2D_REG_05 レジスタ (オフセット = 405h) [リセット = 6400h]

図 6-40 に、A2D_REG_05 を示し、表 6-45 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-40. A2D_REG_05 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
ld_bias_1p0v_sl						RESERVED	
R/W-19h						R-0h	
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED							
R-0h							

表 6-45. A2D_REG_05 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-10	ld_bias_1p0v_sl	R/W	19h	ビットを使用して LD の DAC 電流を制御します。つまり、スイングを制御します。 001010b = 400mV 001011b = 440mV 001100b = 480mV 001101b = 520mV 001110b = 560mV 001111b = 600mV 010000b = 640mV 010001b = 680mV 010010b = 720mV 010011b = 760mV 010100b = 800mV 010101b = 840mV 010110b = 880mV 010111b = 920mV 011000b = 960mV 011001b = 1000mV 011010b = 1040mV 011011b = 1080mV 011100b = 1120mV 011101b = 1160mV 011110b = 1200mV
9-0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.22 A2D_REG_30 レジスタ (オフセット = 41Eh) [リセット = 0000h]

図 6-41 に、A2D_REG_30 を示し、表 6-46 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-41. A2D_REG_30 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							spare_in_2_fromdig_sl_force_en
R-0h							R/W-0h
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED			
R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h			

表 6-46. A2D_REG_30 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	spare_in_2_fromdig_sl_force_en	R/W	0h	Reg0x042F 強制制御有効化
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6	RESERVED	R	0h	予約済み
5	RESERVED	R	0h	予約済み
4	RESERVED	R	0h	予約済み
3-0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.23 A2D_REG_40 レジスタ (オフセット = 428h) [リセット = 6002h]

図 6-42 に、A2D_REG_40 を示し、表 6-47 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-42. A2D_REG_40 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED	SGMII_TESTMODE		RESERVED	SGMII_SOP_SON_SLEW_CTRL	RESERVED	RESERVED	
R-0h	R/W-3h		R-0h	R/W-0h	R-0h	R-0h	
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED	RESERVED						RESERVED
R-0h	R-0h						R-0h

表 6-47. A2D_REG_40 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	RESERVED	R	0h	予約済み
14-13	SGMII_TESTMODE	R/W	3h	00b = 1000mV Sgmii 出力スイング 01b = 1260mV Sgmii 出力スイング 10b = 900mV Sgmii 出力スイング 11b = 720mV Sgmii 出力スイング
12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	SGMII_SOP_SON_SLEW_CTRL	R/W	0h	0b = デフォルトの出力立ち上がり / 立ち下がり時間 1b = ゆっくりした出力の立ち上がり / 立ち下がり時間
10	RESERVED	R	0h	予約済み
9-8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6-1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.24 A2D_REG_41 レジスタ (オフセット = 429h) [リセット = 0030h]

図 6-43 に、A2D_REG_41 を示し、表 6-48 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-43. A2D_REG_41 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED					RESERVED	RESERVED	RESERVED
R-0h					R-0h	R-0h	R-0h
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED						SGMII_IO_LOOPBACK_EN	RESERVED
R-0h						R/W-0h	R-0h

表 6-48. A2D_REG_41 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-11	RESERVED	R	0h	予約済み
10	RESERVED	R	0h	予約済み
9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7-2	RESERVED	R	0h	予約済み
1	SGMII_IO_LOOPBACK_EN	R/W	0h	1b = RX 信号と TX 信号を内部的に接続することで、外付け部品なしで内部ループバック オプションを提供します。
0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.25 A2D_REG_44 レジスタ (オフセット = 42Ch) [リセット = 0000h]

図 6-44 に、A2D_REG_44 を示し、表 6-49 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-44. A2D_REG_44 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED
R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED	RESERVED	RESERVED	SGMII_DIG_LOOPBACK_EN	RESERVED			RESERVED
R-0h	R-0h	R-0h	R/W-0h	R-0h			R-0h

表 6-49. A2D_REG_44 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	RESERVED	R	0h	予約済み
14	RESERVED	R	0h	予約済み
13	RESERVED	R	0h	予約済み
12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	RESERVED	R	0h	予約済み
10	RESERVED	R	0h	予約済み
9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6	RESERVED	R	0h	予約済み
5	RESERVED	R	0h	予約済み
4	SGMII_DIG_LOOPBACK_EN	R/W	0h	1b = IO の前に TX データを RX にループバック
3-1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	RESERVED	R	0h	予約済み

6.6.2.26 A2D_REG_47 レジスタ (オフセット = 42Fh) [リセット = 0000h]

図 6-45 に、A2D_REG_47 を示し、表 6-50 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-45. A2D_REG_47 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED				RESERVED	spare_in_2_fromdig_sl_2	spare_in_2_fromdig_sl_1	spare_in_2_fromdig_sl_0
R-0h				R-0h	R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h

表 6-50. A2D_REG_47 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	RESERVED	R	0h	予約済み
2	spare_in_2_fromdig_sl_2	R/W	0h	エネルギー損失表示強制制御値
1	spare_in_2_fromdig_sl_1	R/W	0h	エネルギー損失検出器で強制制御値を有効化
0	spare_in_2_fromdig_sl_0	R/W	0h	[0] - スリープ有効強制制御値 強制制御有効化は reg0x041E[8] が制御

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.27 A2D_REG_48 レジスタ (オフセット = 430h) [リセット = 0960h]

図 6-46 に、A2D_REG_48 を示し、表 6-51 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-46. A2D_REG_48 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	DLL_TX_DELAY_CTRL_SL			
R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R/W-9h			
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
DLL_RX_DELAY_CTRL_SL				RESERVED			
R/W-6h				R-0h			

表 6-51. A2D_REG_48 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	RESERVED	R	0h	予約済み
14	RESERVED	R	0h	予約済み
13	RESERVED	R	0h	予約済み
12	RESERVED	R	0h	予約済み
11-8	DLL_TX_DELAY_CTRL_SL	R/W	9h	遅延対コードの情報については、電気的仕様を参照してください。
7-4	DLL_RX_DELAY_CTRL_SL	R/W	6h	遅延対コードの情報については、電気的仕様を参照してください。
3-0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.28 A2D_REG_66 レジスタ (オフセット = 442h) [リセット = 0000h]

図 6-47 に、A2D_REG_66 を示し、表 6-52 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-47. A2D_REG_66 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED	esd_event_count						RESERVED
R-0h	R-0h						R-0h
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED			RESERVED	RESERVED			
R-0h			R-0h	R-0h			

表 6-52. A2D_REG_66 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	RESERVED	R	0h	予約済み
14-9	esd_event_count	R	0h	数字はカッパー チャネル上の ESD イベントの数
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7-5	RESERVED	R	0h	予約済み
4	RESERVED	R	0h	予約済み
3-0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.29 LEDS_CFG_1 レジスタ (オフセット = 450h) [リセット = 2610h]

図 6-48 に、LEDS_CFG_1 を示し、表 6-53 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-48. LEDS_CFG_1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED	leds_bypass_stretching	leds_blink_rate		led_2_option			
R-0h	R/W-0h	R/W-2h		R/W-6h			
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
led_1_option				led_0_option			
R/W-1h				R/W-0h			

表 6-53. LEDS_CFG_1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	RESERVED	R	0h	予約済み
14	leds_bypass_stretching	R/W	0h	LED 信号ストレッチをバイパス
13-12	leds_blink_rate	R/W	2h	LED の点滅速度 - 00b = 20Hz(50ms)01b = 10Hz(100ms)10b = 5Hz(200ms)11b = 2Hz(500ms)
11-8	led_2_option	R/W	6h	0000b = リンク OK 0001b = リンク OK + TX/RX アクティビティで点滅 0010b = リンク OK + TX アクティビティで点滅 0011b = リンク OK + RX アクティビティで点滅 0100b = リンク OK + 100Base-T1 マスタ 0101b = リンク OK + 100Base-T1 スレーブ 0110b = TX/RX アクティビティ、延長オプションあり 0111b = 予約済み 1000b = 予約済み 1001b = リンク喪失 (0x1 が読み込まれるまでレジスタ上に残る) 1010b = PRBS エラー ラッチ (0x620(1) によってクリアされるまで) 1011b = XMII TX/RX エラー、延長オプションあり
7-4	led_1_option	R/W	1h	0000b = リンク OK 0001b = リンク OK + TX/RX アクティビティで点滅 0010b = リンク OK + TX アクティビティで点滅 0011b = リンク OK + RX アクティビティで点滅 0100b = リンク OK + 100Base-T1 マスタ 0101b = リンク OK + 100Base-T1 スレーブ 0110b = TX/RX アクティビティ、延長オプションあり 0111b = 予約済み 1000b = 予約済み 1001b = リンク喪失 (0x1 が読み込まれるまでレジスタ上に残る) 1010b = PRBS エラー ラッチ (0x620(1) によってクリアされるまで) 1011b = XMII TX/RX エラー、延長オプションあり

表 6-53. LEDS_CFG_1 レジスタのフィールドの説明 (続き)

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
3-0	led_0_option	R/W	0h	0000b = リンク OK 0001b = リンク OK + TX/RX アクティビティで点滅 0010b = リンク OK + TX アクティビティで点滅 0011b = リンク OK + RX アクティビティで点滅 0100b = リンク OK + 100Base-T1 マスタ 0101b = リンク OK + 100Base-T1 スレーブ 0110b = TX/RX アクティビティ、延長オプションあり 0111b = 予約済み 1000b = 予約済み 1001b = リンク喪失 (0x1 が読み込まれるまでレジスタ上に残る) 1010b = PRBS エラー ラッチ (0x620(1) によってクリアされるまで) 1011b = XMII TX/RX エラー、延長オプションあり

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.30 LEDS_CFG_2 レジスタ (オフセット = 451h) [リセット = 0000h]

図 6-49 に、LEDS_CFG_2 を示し、表 6-54 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-49. LEDS_CFG_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED		RESERVED				XXXX	RESERVED
R-0h		R-0h					R-0h
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED	led_1_polarity	RESERVED	RESERVED	led_0_polarity
R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R/W-0h	R-0h	R-0h	R/W-0h

表 6-54. LEDS_CFG_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-14	RESERVED	R	0h	予約済み
13-10	RESERVED	R	0h	予約済み
11-9	cfg_ieee_compl_sel	R/W	0h	LED_0_GPIO_CTRL= 'h5 の場合、次のような LED_0_GPIO_0 の IEEE 準拠信号となります- 000b = loc_rcvr_status 001b = rem_rcvr_status 010b = loc_snr_margin 011b = rem_phy_ready 100b = pma_watchdog_status 101b = link_sync_link_control
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6	RESERVED	R	0h	予約済み
5	RESERVED	R	0h	予約済み
4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	led_1_polarity	R/W	0h	LED_1 極性
2	RESERVED	R	0h	予約済み
1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	led_0_polarity	R/W	0h	LED_0 極性

6.6.2.31 IO_MUX_CFG_1 レジスタ (オフセット = 452h) [リセット = 0000h]

図 6-50 に、IO_MUX_CFG_1 を示し、表 6-55 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-50. IO_MUX_CFG_1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED		RESERVED			led_1_gpio_ctrl		
R-0h		R-0h			R/W-0h		
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED		RESERVED			led_0_gpio_ctrl		
R-0h		R-0h			R/W-0h		

表 6-55. IO_MUX_CFG_1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-14	RESERVED	R	0h	予約済み
13-11	RESERVED	R	0h	予約済み
10-8	led_1_gpio_ctrl	R/W	0h	LED_1 IO の出力制御 - 000b = LED_1 (デフォルト リンク OK + TX/RX アクティビティで点滅) 001b = 予約済み 010b = RGMII データ一致インジケータ 011b = 低電圧インジケータ 100b = 割り込み 101b = IEEE 準拠信号 110b = コンスタント 0 111b = コンスタント 1
7-6	RESERVED	R	0h	予約済み
5-3	RESERVED	R	0h	予約済み
2-0	led_0_gpio_ctrl	R/W	0h	LED_0 IO の出力を制御します。 000b = LED_0 (デフォルト:リンク) 001b =予約済み 010b = RGMII データ一致表示 011b = 低電圧表示 100b = 割り込み 101b = IEEE 準拠信号 (0x451[11:9] を参照) 110b = 定数 0 111b = 定数 1

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.32 IO_MUX_CFG_2 レジスタ (オフセット = 453h) [リセット = 0001h]

図 6-51 に、IO_MUX_CFG_2 を示し、表 6-56 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-51. IO_MUX_CFG_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							

7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED		clk_o_clk_source			clk_o_gpio_ctrl		
R-0h		R/W-0h			R/W-1h		

表 6-56. IO_MUX_CFG_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-6	RESERVED	R	0h	予約済み
5-3	clk_o_clk_source	R/W	0h	CLK_O ピンで観測できるクロック - 000b = XI_OSC_25m_1p0v_DL (アナログからの 25Mhz 水晶振動子出力) 001b =予約済み 010b =予約済み 011b = 125Mhz クロック クロック 100b = 125Mhz クロック 101b =予約済み 110b = 予約済み 111b = 予約済み
2-0	clk_o_gpio_ctrl	R/W	1h	CLK_O IO の出力制御 - 000b = LED_2 (デフォルト:延長オプションあり TX/RX アクティビティ (LED_2_OPTION=0x6) 001b = クロックアウト (0x453[5:3] を参照) 010b = RGMII データ一致インジケータ 011b = 低電圧インジケータ 100b = 定数 0 101b = 定数 0 110b = 定数 0 111b = 定数 1

6.6.2.33 IO_CONTROL_3 レジスタ (オフセット = 456h) [リセット = 0108h]

図 6-52 に、IO_CONTROL_3 を示し、表 6-57 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-52. IO_CONTROL_3 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED						cfg_mac_rx_impedance	
R-0h						R/W-8h	
7	6	5	4	3	2	1	0
cfg_mac_rx_impedance			RESERVED				
R/W-8h			R-0h				

表 6-57. IO_CONTROL_3 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-10	RESERVED	R	0h	予約済み
9-5	cfg_mac_rx_impedance	R/W	8h	RGMII パッド用スルーレート制御 - 01010b = 中速スルー (OA tr/tf 準拠、最大 tr/tf = 1ns) 01011b = 最も遅いスルー (低エミッション用、最大 tr/tf = 1.2ns) 01000b = デフォルト モード (rgmii tr/tf 準拠、最大 tr/tf=750ps)
4-0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.34 SOR_VECTOR_1 レジスタ (オフセット = 45Dh) [リセット = 0000h]

図 6-53 に、SOR_VECTOR_1 を示し、表 6-58 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

ストラップ ステータス レジスタ:
このレジスタには、ストラップに基づいて選択されたモードに関する情報があります。他のレジスタを使用したモードのオーバーライドは、このレジスタには反映されません

図 6-53. SOR_VECTOR_1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RGMII_TX_SHIFT	RGMII_RX_SHIFT	SGMII_EN	RGMII_EN	RESERVED			MAC_MODE
R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h			R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
MAC_MODE		MAS/SLV	PHY_AD				
R-0h		R-0h	R-0h				

表 6-58. SOR_VECTOR_1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	RGMII_TX_SHIFT	R	0h	0x0 = TX シフト無効 0x1 = TX シフト有効
14	RGMII_RX_SHIFT	R	0h	0x0 = RX シフト無効 0x1 = RX シフト有効
13	SGMII_EN	R	0h	0x0 = SGMII 無効 0x1 = SGMII 有効
12	RGMII_EN	R	0h	0x0 = RGMII 無効 0x1 = RGMII 有効
11-9	RESERVED	R	0h	予約済み
8-6	MAC_MODE	R	0h	0x0 = SGMII 0x1 =予約済み 0x2 =予約済み 0x3 =予約済み 0x4 = RGMII アライン 0x5 = RGMII TX シフト 0x6 = RGMII TX および RX シフト 0x7 = RGMII RX シフト
5	MAS/SLV	R	0h	0x0 = スレーブ 0x1 = マスタ
4-0	PHY_AD	R	0h	0x0 = PHY アドレス 0 0x4 = PHY アドレス 4 0x5 = PHY アドレス 5 0x8 = PHY アドレス 8 0xA = PHY アドレス A 0xC = PHY アドレス C 0xD = PHY アドレス D 0xE = PHY アドレス E 0xF = PHY アドレス F

6.6.2.35 SOR_VECTOR_2 レジスタ (オフセット = 45Eh) [リセット = 0000h]

図 6-54 に、SOR_VECTOR_2 を示し、表 6-59 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

ストラップ ステータス レジスタ:
このレジスタには、ストラップに基づいて選択されたモードに関する情報があります。他のレジスタを使用したモードのオーバーライドは、このレジスタには反映されません

図 6-54. SOR_VECTOR_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED							自動 / 管理
R-0h							R-0h

表 6-59. SOR_VECTOR_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	自動 / 管理	R	0h	0x0 = 自律モード有効化 0x1 = 管理モード有効化

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.36 MONITOR_CTRL2 レジスタ (オフセット = 468h) [リセット = 0920h]

図 6-55 に、MONITOR_CTRL2 を示し、表 6-60 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-55. MONITOR_CTRL2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED	cfg_rd_data			RESERVED			RESERVED
R-0h	R/W-0h			R-0h			R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED		RESERVED			RESERVED		
R-0h		R-0h			R-0h		

表 6-60. MONITOR_CTRL2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	RESERVED	R	0h	予約済み
14-12	cfg_rd_data	R/W	0h	読み出し用センサ選択: 001b = VDDA 010b = VDD1P0 011b = VDDIO 100b =温度
11-9	RESERVED	R	0h	予約済み
8-6	RESERVED	R	0h	予約済み
5-3	RESERVED	R	0h	予約済み
2-0	RESERVED	R	0h	予約済み

6.6.2.37 MONITOR_CTRL4 レジスタ (オフセット = 46Ah) [リセット = 0094h]

図 6-56 に、MONITOR_CTRL4 を示し、表 6-61 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-56. MONITOR_CTRL4 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							RESERVED
R-0h							R-0h
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED	RESERVED	RESERVED		RESERVED	cfg_reset	定期的	start
R-0h	R-0h	R-0h		R-0h	R/W-1h	R/W-0h	R/WSC-0h

表 6-61. MONITOR_CTRL4 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6	RESERVED	R	0h	予約済み
5-4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	RESERVED	R	0h	予約済み
2	cfg_reset	R/W	1h	0b = モニタを有効化 1b =モ ニタは任意の時点でリセット状態に保持 信号が 1 に変更されると、モジュールは一瞬で RESET 状態に移行
1	定期的	R/W	0h	0b = モニタは START が 1 回反復に設定されているときのみ有効 1b = 定期的な反復のためにモニタを有効化
0	start	R/WSC	0h	センサ モニタ FSM の開始表示、セルフ クリア

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.38 MONITOR_STAT1 レジスタ (オフセット = 47Bh) [リセット = 0000h]

図 6-57 に、MONITOR_STAT1 を示し、表 6-62 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-57. MONITOR_STAT1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
stat_rd_data							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
stat_rd_data							
R-0h							

表 6-62. MONITOR_STAT1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	stat_rd_data	R	0h	センサ データの読み取り

6.6.2.39 RS_DECODER レジスタ (オフセット = 510h) [リセット = 2D50h]

RS_DECODER を 図 6-58 に示し、表 6-63 で説明しています。

概略表に戻ります。

図 6-58. RS_DECODER レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
cfg_rs_decoder_bypass	RESERVED	RESERVED					
R/W-0h	R-0h	R-0h					
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED							RESERVED
R-0h							R-0h

表 6-63. RS_DECODER レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	cfg_rs_decoder_bypass	R/W	0h	RS デコーダをバイパス 0h = RS デコーダを使用中 1h = RS デコーダをバイパス
14	RESERVED	R	0h	予約済み
13-8	RESERVED	R	0h	予約済み
7-1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	RESERVED	R	0h	予約済み

 Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.40 TRAINING_RX_STATUS_7 レジスタ (オフセット = 52Bh) [リセット = 0000h]

図 6-59 に、TRAINING_RX_STATUS_7 を示し、表 6-64 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-59. TRAINING_RX_STATUS_7 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED			rx_rvrs_pol	RESERVED			
R-0h			R-0h	R-0h			
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED				RESERVED			
R-0h				R-0h			

表 6-64. TRAINING_RX_STATUS_7 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-13	RESERVED	R	0h	予約済み
12	rx_rvrs_pol	R	0h	受信極性 0h = 受信した極性を反転しない 1h = レシーバからデコードされた極性を反転
11-8	RESERVED	R	0h	予約済み
7-4	RESERVED	R	0h	予約済み
3-0	RESERVED	R	0h	予約済み

6.6.2.41 LINK_QUAL_1 レジスタ (オフセット = 543h) [リセット = 0000h]

図 6-60 に、LINK_QUAL_1 を示し、表 6-65 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-60. LINK_QUAL_1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
link_training_time							
R-0h							

表 6-65. LINK_QUAL_1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-8	RESERVED	R	0h	予約済み
7-0	link_training_time	R	0h	リンクトレーニング時間 (ms) (TC12)

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.42 LINK_QUAL_2 レジスタ (オフセット = 544h) [リセット = 0000h]

図 6-61 に、LINK_QUAL_2 を示し、表 6-66 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-61. LINK_QUAL_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
remote_receiver_time							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
local_receiver_time							
R-0h							

表 6-66. LINK_QUAL_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-8	remote_receiver_time	R	0h	リモート レシーバ時間 (ms) (TC12)
7-0	local_receiver_time	R	0h	ローカル レシーバ時間 (ms) (TC12)

6.6.2.43 LINK_DOWN_LATCH_STAT レジスタ (オフセット = 545h) [リセット = 0000h]

LINK_DOWN_LATCH_STAT を 図 6-62 に示し、表 6-67 で説明しています。

概略表に戻ります。

図 6-62. LINK_DOWN_LATCH_STAT レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED		channel_ok_ll	link_fail_inhibit_lh	send_s_sigdet_lh	hi_rfer_lh	block_lock_ll	pma_watchdog_ll
R-0h		R/W0C-0h	R/W0C-0h	R/W0C-0h	R/W0C-0h	R/W0S-0h	R/W0S-0h

表 6-67. LINK_DOWN_LATCH_STAT レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-6	RESERVED	R	0h	予約済み
5	channel_ok_ll	R/W0C	0h	1b = チャネル OK はデアサートされていない 0b =チャネル OK はデアサートされた
4	link_fail_inhibit_lh	R/W0C	0h	1b = リンク障害防止アサートが報告された 0b = リンク障害防止アサートは報告されていない
3	send_s_sigdet_lh	R/W0C	0h	1b = 署名アサーションを送信したことが報告されました 0b =署名アサーションを送信したことが報告されませんでした
2	hi_rfer_lh	R/W0C	0h	1b = High ri rfer のアサートが報告された 0b = High ri rfer のアサートは報告されていない
1	block_lock_ll	R/W0S	0h	1b = ブロック ロックのデアサートは通知されていない 0b = ブロック ロックのデアサートは通知さていない
0	pma_watchdog_ll	R/W0S	0h	1b = Low PMA ウォッチ ドッグは通知されていない 0b = Low PMA ウォッチドッグが通知された

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.44 LINK_QUAL_3 レジスタ (オフセット = 547h) [リセット = 0000h]

図 6-63 に、LINK_QUAL_3 を示し、表 6-68 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-63. LINK_QUAL_3 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
link_loss_cnt						link_fail_cnt	
R-0h						R-0h	
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
link_fail_cnt							
R-0h							

表 6-68. LINK_QUAL_3 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-10	link_loss_cnt	R	0h	最後のパワーサイクル以降のリンク損失カウント (TC12)
9-0	link_fail_cnt	R	0h	最後のパワーサイクル以降のリンク損失のないリンク故障 (TC12)

6.6.2.45 LINK_QUAL_4 レジスタ (オフセット = 548h) [リセット = 0000h]

図 6-64 に、LINK_QUAL_4 を示し、表 6-69 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-64. LINK_QUAL_4 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED							comm_ready
R-0h							R-0h

表 6-69. LINK_QUAL_4 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	comm_ready	R	0h	通信準備ステータス (TC12)

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.46 RS_DECODER_FRAME_STAT_2 レジスタ (オフセット = 552h) [リセット = 0000h]

図 6-65 に、RS_DECODER_FRAME_STAT_2 を示し、表 6-70 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-65. RS_DECODER_FRAME_STAT_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
rs_dec_uncorr_frame_cnt							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
rs_dec_uncorr_frame_cnt							
R-0h							

表 6-70. RS_DECODER_FRAME_STAT_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	rs_dec_uncorr_frame_cnt	R	0h	RS デコーダで受信した訂正不可能な RS フレームの数、読み取り時にクリア、飽和

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.47 RS_DECODER_FRAME_STAT_3 レジスタ (オフセット = 553h) [リセット = 0000h]

図 6-66 に、RS_DECODER_FRAME_STAT_3 を示し、表 6-71 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-66. RS_DECODER_FRAME_STAT_3 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
rs_dec_err_frame_cnt							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
rs_dec_err_frame_cnt							
R-0h							

表 6-71. RS_DECODER_FRAME_STAT_3 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	rs_dec_err_frame_cnt	R	0h	RS デコーダで受信したエラーのある RS フレームの数、読み取り時にクリア、飽和

6.6.2.48 RGMII_CTRL レジスタ (オフセット = 600h) [リセット = 0120h]

RGMII_CTRL を 図 6-67 に示し、表 6-72 で説明しています。

概略表に戻ります。

図 6-67. RGMII_CTRL レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED						rgmii_rx_half_full_th	
R-0h						R/W-2h	

7	6	5	4	3	2	1	0
rgmii_rx_half_full_th	rgmii_tx_half_full_th			rgmii_tx_if_en	invert_rgmii_txd	invert_rgmii_rxd	RESERVED
R/W-2h	R/W-2h			R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h	R-0h

表 6-72. RGMII_CTRL レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-10	RESERVED	R	0h	予約済み
9-7	rgmii_rx_half_full_th	R/W	2h	RGMII RX 同期 FIFO ハーフ フル スレッショルド
6-4	rgmii_tx_half_full_th	R/W	2h	RGMII TX 同期 FIFO ハーフ フル スレッショルド
3	rgmii_tx_if_en	R/W	0h	RGMII 有効ビット ストラップからのデフォルト 0h = RGMII 無効 1h = RGMII 有効
2	invert_rgmii_txd	R/W	0h	RGMII T x 配線順序を反転 - [3:0] を [0:3] にフルスワップ 0h = RGMII Tx 配線順序を維持 1h = RGMII Tx 配線順序を反転
1	invert_rgmii_rxd	R/W	0h	RGMII Rx 配線順序を反転 - [3:0] を [0:3] にフルスワップ 0h = RGMII Rx 配線順序を維持 1h = RGMII Rx 配線順序を反転
0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.49 RGMII_FIFO_STATUS レジスタ (オフセット = 601h) [リセット = 0000h]

RGMII_FIFO_STATUS を 図 6-68 に示し、表 6-73 で説明しています。

概略表に戻ります。

図 6-68. RGMII_FIFO_STATUS レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED				rgmii_rx_af_full_err	rgmii_rx_af_empty_err	rgmii_tx_af_full_err	rgmii_tx_af_empty_err
R-0h				R/W0C-0h	R/W0C-0h	R/W0C-0h	R/W0C-0h

表 6-73. RGMII_FIFO_STATUS レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	rgmii_rx_af_full_err	R/W0C	0h	RGMII RX FIFO のフル エラー 0h = エンプティ FIFO エラーなし 1h = RGMII TX のフル エラーが表示された
2	rgmii_rx_af_empty_err	R/W0C	0h	RGMII RX FIFO のエンプティ エラー 0h = エンプティ FIFO エラーなし 1h = RGMII RX のエンプティ エラーが表示された
1	rgmii_tx_af_full_err	R/W0C	0h	RGMII TX FIFO のフル エラー 0h = エンプティ FIFO エラーなし 1h = RGMII TX のフル エラーが表示された
0	rgmii_tx_af_empty_err	R/W0C	0h	RGMII TX FIFO のエンプティ エラー 0h = エンプティ FIFO エラーなし 1h = RGMII TX のエンプティ エラーが表示された

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.50 RGMII_DELAY_CTRL レジスタ (オフセット = 602h) [リセット = 0000h]

RGMII_DELAY_CTRL を 図 6-69 に示し、表 6-74 で説明しています。

概略表に戻ります。

図 6-69. RGMII_DELAY_CTRL レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED						rx_clk_sel	tx_clk_sel
R-0h						R/W-0h	R/W-0h

表 6-74. RGMII_DELAY_CTRL レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-2	RESERVED	R	0h	予約済み
1	rx_clk_sel	R/W	0h	RGMII モードでは、RXD Wrt RX_CLK の内部遅延を有効化または無効化します (RGMII_RX_CLK と RGMII_RXD が整列されている場合にこのモードを使用します)。遅延振幅は、レジスタ 0x430[7:4] のプログラムで設定できます。 0h = クロックとデータが整列されている 1h = クロックは RGMII_RX データに対して遅延
0	tx_clk_sel	R/W	0h	RGMII モードでは、TXD wrt TX_CLK の内部遅延を有効化または無効化します (RGMII_TX_CLK と RGMII_TXD が整列されている場合にこのモードを使用します)。遅延振幅は、レジスタ 0x430[11:8] のプログラムで設定できます。 0h = クロックとデータが整列されている 1h = クロックは内部的に遅延

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.51 SGMII_CTRL_1 レジスタ (オフセット = 608h) [リセット = 007Bh]

図 6-70 に、SGMII_CTRL_1 を示し、表 6-75 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

SGMII レジスタ:DP83TG720S-Q1 でのみ使用可能

図 6-70. SGMII_CTRL_1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
sgmii_tx_err_dis	cfg_align_idx_force	cfg_align_idx_value				cfg_sgmii_en	cfg_sgmii_rx_pol_invert
R/W-0h	R/W-0h	R/W-0h				R/W-0h	R/W-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
cfg_sgmii_tx_pol_invert	RESERVED		RESERVED	RESERVED	sgmii_autoneg_timer		mr_an_enable
R/W-0h	R-0h		R-0h	R-0h	R/W-1h		R/W-1h

表 6-75. SGMII_CTRL_1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	sgmii_tx_err_dis	R/W	0h	1 = SGMII Tx エラー表示無効 0 = SGMII TX エラー表示有効
14	cfg_align_idx_force	R/W	0h	ワード境界インデックスの選択を強制する
13-10	cfg_align_idx_value	R/W	0h	cfg_align_idx_force = 1 の場合 この値は iword 境界インデックスを設定します
9	cfg_sgmii_en	R/W	0h	SGMII 有効ビット ストラップからのデフォルト 0h = SGMII 無効 1h = SGMII 有効
8	cfg_sgmii_rx_pol_invert	R/W	0h	SGMII RX バスの反転極性 0h = 極性は反転していない 1h = SGMII RX バス極性反転
7	cfg_sgmii_tx_pol_invert	R/W	0h	SGMII TX バスの反転極性 0h = 極性は反転していない 1h = SGMII TX バス極性反転
6-5	RESERVED	R	0h	予約済み
4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	RESERVED	R	0h	予約済み
2-1	sgmii_autoneg_timer	R/W	1h	SGMII 自動ネゴシエーション タイマの持続時間を選択します。 00:1.6ms 01:2us 10:800us 11:11ms
0	mr_an_enable	R/W	1h	1 = SGMII 自動ネゴシエーション有効 0 = SGMII 自動ネゴシエーション無効

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.52 SGMII_STATUS レジスタ (オフセット = 60Ah) [リセット = 0000h]

SGMII_STATUS を 図 6-71 に示し、表 6-76 で説明しています。

概略表に戻ります。

SGMII レジスタ:DP83TG720S-Q1 でのみ使用可能

図 6-71. SGMII_STATUS レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED			sgmii_page_received	link_status_1000bx	mr_an_complete	cfg_align_en	cfg_sync_status
R-0h			R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
cfg_align_idx				cfg_state			
R-0h				R-0h			

表 6-76. SGMII_STATUS レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-13	RESERVED	R	0h	予約済み
12	sgmii_page_received	R	0h	新しい自動ネゴシエーション ページが受信されたことを示します 0h = 新しい自動ネゴシエーション ページを受信していない 1h = 新しい自動ネゴシエーション ページを受信
11	link_status_1000bx	R	0h	SGMII リンク ステータス 0h = SGMII リンク ダウン 1h = SGMII リンク アップ
10	mr_an_complete	R	0h	SGMII 自動ネゴシエーション完了を示す 0h = SGMII 自動ネゴシエーション未完了 1h = SGMII 自動ネゴシエーション完了
9	cfg_align_en	R	0h	ワード境界 FSM - 整列表示
8	cfg_sync_status	R	0h	ワード境界 FSM - 同期ステータス表示 0h = 同期未完了 1h = 同期完了
7-4	cfg_align_idx	R	0h	ワード境界インデックスの選択
3-0	cfg_state	R	0h	ワード境界 FSM 状態

6.6.2.53 SGMII_CTRL_2 レジスタ (オフセット = 60Ch) [リセット = 001Bh]

図 6-72 に、SGMII_CTRL_2 を示し、表 6-77 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

SGMII レジスタ:DP83TG720S-Q1 でのみ使用可能

図 6-72. SGMII_CTRL_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							RESERVED
R-0h							R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED	mr_restart_an	tx_half_full_th			rx_half_full_th		
R-0h	R/WSC,0-0h	R/W-3h			R/W-3h		

表 6-77. SGMII_CTRL_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6	mr_restart_an	R/WSC、0	0h	SGMII 自動ネゴシエーションを再開
5-3	tx_half_full_th	R/W	3h	SGMII TX 同期 FIFO ハーフ フル スレッショルド
2-0	rx_half_full_th	R/W	3h	SGMII RX 同期 FIFO ハーフ フル スレッショルド

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.54 SGMII_FIFO_STATUS レジスタ (オフセット = 60Dh) [リセット = 0000h]

SGMII_FIFO_STATUS を 図 6-73 に示し、表 6-78 で説明しています。

概略表に戻ります。

SGMII レジスタ:DP83TG720S-Q1 でのみ使用可能

図 6-73. SGMII_FIFO_STATUS レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED				sgmii_rx_af_full_err	sgmii_rx_af_empty_err	sgmii_tx_af_full_err	sgmii_tx_af_empty_err
R-0h				R/W0C-0h	R/W0C-0h	R/W0C-0h	R/W0C-0h

表 6-78. SGMII_FIFO_STATUS レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	sgmii_rx_af_full_err	R/W0C	0h	SGMII RX FIFO のフル エラー 0h = エラー表示なし 1h = SGMII RX FIFO フル エラーが表示された
2	sgmii_rx_af_empty_err	R/W0C	0h	SGMII RX FIFO のエンプティ エラー 0h = エラー表示なし 1h = SGMII RX FIFO エンプティ エラーが表示された
1	sgmii_tx_af_full_err	R/W0C	0h	SGMII TX FIFO のフル エラー 0h = エラー表示なし 1h = SGMII TX FIFO フル エラーが表示された
0	sgmii_tx_af_empty_err	R/W0C	0h	SGMII TX FIFO のエンプティ エラー 0h = エラー表示なし 1h = SGMII TX FIFO エンプティ エラーが表示された

6.6.2.55 PRBS_STATUS_1 レジスタ (オフセット = 618h) [リセット = 0000h]

図 6-74 に、PRBS_STATUS_1 を示し、表 6-79 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-74. PRBS_STATUS_1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
prbs_err_ov_cnt							
R-0h							

表 6-79. PRBS_STATUS_1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-8	RESERVED	R	0h	予約済み
7-0	prbs_err_ov_cnt	R	0h	PRBS チェッカが受信したエラー カウンタ オーバーフロー カウンタを保持します。 レジスタ prbs_status_6 のビット [0] またはビット [1] に書き込みが行われると、このレジスタの値はロックされます。カウンタは 0xFF で停止します。 注:PRBS カウンタがシングルモードで動作している場合、オーバーフロー カウンタはアクティブではありません。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.56 PRBS_CTRL_1 レジスタ (オフセット = 619h) [リセット = 0574h]

図 6-75 に、PRBS_CTRL_1 を示し、表 6-80 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-75. PRBS_CTRL_1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED		RESERVED	send_pkt	RESERVED	cfg_prbs_chk_sel		
R-0h		R-0h	R/WMC,0-0h	R-0h	R/W-5h		
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED	cfg_prbs_gen_sel			cfg_prbs_cnt_mode	cfg_prbs_chk_enable	cfg_pkt_gen_prbs	pkt_gen_en
R-0h	R/W-7h			R/W-0h	R/W-1h	R/W-0h	R/W-0h

表 6-80. PRBS_CTRL_1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-14	RESERVED	R	0h	予約済み
13	RESERVED	R	0h	予約済み
12	send_pkt	R/WMC、0	0h	CRC 付きの固定 / 増分データを含む MAC パケットの生成を有効にする (pkt_gen_en を設定し、cfg_pkt_gen_prbs をクリアする必要があります) pkt_done が設定されると自動的にクリアされます 0h = MAC パケットを停止 1h = CRC 付き MAC パケットを送信
11	RESERVED	R	0h	予約済み
10-8	cfg_prbs_chk_sel	R/W	5h	000:チェッカは RGMII TX から受信 001:チェッカが SGMII TX を受信 101:チェッカーが Cu RX から受信
7	RESERVED	R	0h	予約済み
6-4	cfg_prbs_gen_sel	R/W	7h	000:PRBS が RGMII RX に送信 001:PRBS が SGMII RX に送信 101:PRBS が Cu TX に送信
3	cfg_prbs_cnt_mode	R/W	0h	1 = 連続モード。PRBS カウンタの 1 つが最大値に達すると、パルスが生成され、カウンタはゼロから再度カウントを開始します 0 = シングル モード。PRBS カウンタの 1 つが最大値に達すると、PRBS チェッカはカウントを停止します。
2	cfg_prbs_chk_enable	R/W	1h	PRBS チェッカ xbar を有効にする (データを受信するため) 0x63C、0x63D、0x63E のカウンタを有効にする 0h = PRBS チェッカを無効化 1h = PRBS チェッカを有効化
1	cfg_pkt_gen_prbs	R/W	0h	設定されている場合: (1)pkt_gen_en がセットされている場合、PRBS パケットが連続的に生成されます (3)pkt_gen_en がクリアされているときは、次のようにクリアされていれば PRBS RX チェッカは有効のままです 。 (1)pkt_gen_en が設定されている場合、非 PRBS パケットが生成されます (3)pkt_gen_en がクリアされると、PRBS RX チェッカも無効になります 0h = PRBS パケットを停止 1h = PRBS パケットを送信
0	pkt_gen_en	R/W	0h	1 = パケット / PRBS ジェネレータを有効化 0 = パケット / PRBS ジェネレータを無効化

6.6.2.57 PRBS_CTRL_2 レジスタ (オフセット = 61Ah) [リセット = 05DCh]

図 6-76 に、PRBS_CTRL_2 を示し、表 6-81 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-76. PRBS_CTRL_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
cfg_pkt_len_prbs							
R/W-5DCh							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
cfg_pkt_len_prbs							
R/W-5DCh							

表 6-81. PRBS_CTRL_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	cfg_pkt_len_prbs	R/W	5DCh	PRBS パケットと MAC パケット (CRC 付き) の長さ (バイト単位)

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.58 PRBS_CTRL_3 レジスタ (オフセット = 61Bh) [リセット = 007Dh]

図 6-77 に、PRBS_CTRL_3 を示し、表 6-82 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-77. PRBS_CTRL_3 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
cfg_ipg_len							
R/W-7Dh							

表 6-82. PRBS_CTRL_3 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-8	RESERVED	R	0h	予約済み
7-0	cfg_ipg_len	R/W	7Dh	パケット間のパケット間隔 (バイト単位)

6.6.2.59 PRBS_STATUS_2 レジスタ (オフセット = 61Ch) [リセット = 0000h]

図 6-78 に、PRBS_STATUS_2 を示し、表 6-83 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-78. PRBS_STATUS_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
prbs_byte_cnt							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
prbs_byte_cnt							
R-0h							

表 6-83. PRBS_STATUS_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	prbs_byte_cnt	R	0h	PRBS チェッカが受信した全バイトを保持します。 レジスタ prbs_status_6 のビット [0] またはビット [1] に書き込みが行われると、このレジスタの値はロックされます。 PRBS カウント モードが 0 に設定されている場合、カウントは 0xFFFF で停止します

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.60 PRBS_STATUS_3 レジスタ (オフセット = 61Dh) [リセット = 0000h]

図 6-79 に、PRBS_STATUS_3 を示し、表 6-84 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-79. PRBS_STATUS_3 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
prbs_pkt_cnt_15_0							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
prbs_pkt_cnt_15_0							
R-0h							

表 6-84. PRBS_STATUS_3 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	prbs_pkt_cnt_15_0	R	0h	PRBS チェッカが受信したパケットの全ビット [15:0] レジスタ prbs_status_6 のビット[0] またはビット[1] に書き込みが行われると、このレジスタの値はロックされます。 PRBS カウント モードが 0 に設定されている場合、カウントは 0xFFFFFFFF で停止します

6.6.2.61 PRBS_STATUS_4 レジスタ (オフセット = 61Eh) [リセット = 0000h]

図 6-80 に、PRBS_STATUS_4 を示し、表 6-85 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-80. PRBS_STATUS_4 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
prbs_pkt_cnt_31_16							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
prbs_pkt_cnt_31_16							
R-0h							

表 6-85. PRBS_STATUS_4 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	prbs_pkt_cnt_31_16	R	0h	PRBS チェッカが受信した全パケットのビット [31:16] レジスタ prbs_status_6 のビット [0] またはビット [1] に書き込みが行われると、このレジスタの値はロックされます。 PRBS カウント モードが 0 に設定されている場合、カウントは 0xFFFFFFFF で停止します

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.62 PRBS_STATUS_6 レジスタ (オフセット = 620h) [リセット = 0000h]

図 6-81 に、PRBS_STATUS_6 を示し、表 6-86 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-81. PRBS_STATUS_6 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED			pkt_done	pkt_gen_busy	prbs_pkt_ov	prbs_byte_ov	prbs_lock
R-0h			R-0h	R-0h	R-0h	R-0h	R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
prbs_err_cnt							
R-0h							

表 6-86. PRBS_STATUS_6 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-13	RESERVED	R	0h	予約済み
12	pkt_done	R	0h	すべての CRC 付き MAC パケットが送信されるときに設定されます 0h = MAC パケットを送信中 1h = MAC パケット送信完了
11	pkt_gen_busy	R	0h	1 = パケット ジェネレータが動作中 0 = パケット ジェネレータは動作していない
10	prbs_pkt_ov	R	0h	設定されている場合、パケット カウンタがオーバーフローに達したことを意味します PRBS カウンタがクリアされるとオーバーフローもクリアされます - prbs_status_6 のビット #1 を設定することで実行されます 0h = オーバーフローなし 1h = パケット カウンタ オーバーフロー
9	prbs_byte_ov	R	0h	設定されている場合、バイト カウンタがオーバーフローに達したことを意味します PRBS カウンタがクリアされるとオーバーフローもクリアされます - prbs_status_6 のビット #1of 設定することで実行されます 0h = オーバーフローなし 1h = バイト カウンタ オーバーフロー
8	prbs_lock	R	0h	1 = 受信したバイト ストリームで PRBS チェッカが同期およびロック 0 = PRBS チェッカはロックされていない 0h = PRBS チェッカはロックしていない 1h = 受信したバイト ストリームで PRBS チェッカがロックおよび同期
7-0	prbs_err_cnt	R	0h	PRBS チェッカ値によって受信されたエラービット数を保持 このレジスタは、ビット[0] またはビット[1] への書き込みが完了するとロックされます PRBS カウント モードが 0 に設定されている場合、カウントは 0xFF で停止します 注:ビット 0 を書き込むと、PRBS カウンタのロック信号が生成されます。ビット 1 を書き込むと、PRBS カウンタのロック信号およびクリア信号が生成されます

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.63 PRBS_STATUS_8 レジスタ (オフセット = 622h) [リセット = 0000h]

図 6-82 に、PRBS_STATUS_8 を示し、表 6-87 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-82. PRBS_STATUS_8 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
pkt_err_cnt_15_0							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
pkt_err_cnt_15_0							
R-0h							

表 6-87. PRBS_STATUS_8 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	pkt_err_cnt_15_0	R	0h	PRBS チェッカが受信したエラーのあるパケットの合計数のビット [15:0] レジスタ prbs_status_6 のビット[0] またはビット[1] に書き込みが行われると、このレジスタの値はロックされます。 PRBS カウント モードが 0 に設定されている場合、カウントは 0xFFFFFFFF で停止します

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.64 PRBS_STATUS_9 レジスタ (オフセット = 623h) [リセット = 0000h]

図 6-83 に、PRBS_STATUS_9 を示し、表 6-88 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-83. PRBS_STATUS_9 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
pkt_err_cnt_31_16							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
pkt_err_cnt_31_16							
R-0h							

表 6-88. PRBS_STATUS_9 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	pkt_err_cnt_31_16	R	0h	PRBS チェッカが受信したエラーのあるパケットの合計数のビット [31:16] レジスタ prbs_status_6 のビット[0] またはビット[1] に書き込みが行われると、このレジスタの値はロックされます。 PRBS カウント モードが 0 に設定されている場合、カウントは 0xFFFFFFFF で停止します

6.6.2.65 PRBS_CTRL_4 レジスタ (オフセット = 624h) [リセット = 5511h]

図 6-84 に、PRBS_CTRL_4 を示し、表 6-89 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-84. PRBS_CTRL_4 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
cfg_pkt_data							
R/W-55h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
cfg_pkt_mode		cfg_pattern_vld_bytes			cfg_pkt_cnt		
R/W-0h		R/W-2h			R/W-1h		

表 6-89. PRBS_CTRL_4 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-8	cfg_pkt_data	R/W	55h	修正データモードで送信する固定データ
7-6	cfg_pkt_mode	R/W	0h	0h = 増分 1h = 固定 2h = PRBS 3h = PRBS
5-3	cfg_pattern_vld_bytes	R/W	2h	パケット内の有効なパターンのバイト数 (最大 6) 0h = 0 バイト 1h = 1 バイト 2h = 2 バイト 3h = 3 バイト 4h = 4 バイト 5h = 5 バイト 6h = 6 バイト 7h = 6 バイト
2-0	cfg_pkt_cnt	R/W	1h	000b = 1 パケット 001b = 10 パケット 010b = 100 パケット 011b = 1000 パケット 100b = 10000 パケット 101b = 100000 パケット 110b = 1000000 パケット 111b = 連続パケット

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.66 PRBS_CTRL_5 レジスタ (オフセット = 625h) [リセット = 0000h]

図 6-85 に、PRBS_CTRL_5 を示し、表 6-90 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-85. PRBS_CTRL_5 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
pattern_15_0							
R/W-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
pattern_15_0							
R/W-0h							

表 6-90. PRBS_CTRL_5 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	pattern_15_0	R/W	0h	パターンのビット 15:0

6.6.2.67 PRBS_CTRL_6 レジスタ (オフセット = 626h) [リセット = 0000h]

図 6-86 に、PRBS_CTRL_6 を示し、表 6-91 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-86. PRBS_CTRL_6 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
pattern_31_16							
R/W-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
pattern_31_16							
R/W-0h							

表 6-91. PRBS_CTRL_6 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	pattern_31_16	R/W	0h	パターンのビット 31:16

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.68 PRBS_CTRL_7 レジスタ (オフセット = 627h) [リセット = 0000h]

図 6-87 に、PRBS_CTRL_7 を示し、表 6-92 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-87. PRBS_CTRL_7 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
pattern_47_32							
R/W-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
pattern_47_32							
R/W-0h							

表 6-92. PRBS_CTRL_7 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	pattern_47_32	R/W	0h	パターンのビット 47:32

6.6.2.69 PRBS_CTRL_8 レジスタ (オフセット = 628h) [リセット = 0000h]

図 6-88 に、PRBS_CTRL_8 を示し、表 6-93 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-88. PRBS_CTRL_8 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
pmatch_data_15_0							
R/W-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
pmatch_data_15_0							
R/W-0h							

表 6-93. PRBS_CTRL_8 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	pmatch_data_15_0	R/W	0h	パーフェクトマッチデータのビット 15:0 - DA (宛先アドレス) 一致に使用されます

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.70 PRBS_CTRL_9 レジスタ (オフセット = 629h) [リセット = 0000h]

図 6-89 に、PRBS_CTRL_9 を示し、表 6-94 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-89. PRBS_CTRL_9 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
pmatch_data_31_16							
R/W-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
pmatch_data_31_16							
R/W-0h							

表 6-94. PRBS_CTRL_9 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	pmatch_data_31_16	R/W	0h	パーフェクトマッチデータのビット 31:16 - DA (宛先アドレス) 一致に使用されます

6.6.2.71 PRBS_CTRL_10 レジスタ (オフセット = 62Ah) [リセット = 0000h]

図 6-90 に、PRBS_CTRL_10 を示し、表 6-95 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-90. PRBS_CTRL_10 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
pmatch_data_47_32							
R/W-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
pmatch_data_47_32							
R/W-0h							

表 6-95. PRBS_CTRL_10 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	pmatch_data_47_32	R/W	0h	パーフェクトマッチデータのビット 47:32 - DA (宛先アドレス) 一致に使用されます

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.72 CRC_STATUS レジスタ (オフセット = 638h) [リセット = 0000h]

図 6-91 に CRC_STATUS を示し、表 6-96 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-91. CRC_STATUS レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED						rx_bad_crc	tx_bad_crc
R-0h						R-0h	R-0h

表 6-96. CRC_STATUS レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-2	RESERVED	R	0h	予約済み
1	rx_bad_crc	R	0h	Cu RX で受信されたパケットの CRC エラー表示 0h = CRC エラーなし 1h = CRC エラー
0	tx_bad_crc	R	0h	Cu TX で送信されたパケットにおける CRC エラー表示 0h = CRC エラーなし 1h = CRC エラー

6.6.2.73 PKT_STAT_1 レジスタ (オフセット = 639h) [リセット = 0000h]

図 6-92 に、PKT_STAT_1 を示し、表 6-97 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-92. PKT_STAT_1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
tx_pkt_cnt_15_0							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
tx_pkt_cnt_15_0							
R-0h							

表 6-97. PKT_STAT_1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	tx_pkt_cnt_15_0	R	0h	Tx パケットカウンタの下位 16 ビット 注:0x639、0x63A、0x63B を順に読み出すと、レジスタはクリアされます

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.74 PKT_STAT_2 レジスタ (オフセット = 63Ah) [リセット = 0000h]

図 6-93 に、PKT_STAT_2 を示し、表 6-98 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-93. PKT_STAT_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
tx_pkt_cnt_31_16							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
tx_pkt_cnt_31_16							
R-0h							

表 6-98. PKT_STAT_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	tx_pkt_cnt_31_16	R	0h	Tx パケット カウンタの上位 16 ビット 注:0x639、0x63A、0x63B を順に読み出すと、レジスタはクリアされます

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.75 PKT_STAT_3 レジスタ (オフセット = 63Bh) [リセット = 0000h]

図 6-94 に、PKT_STAT_3 を示し、表 6-99 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-94. PKT_STAT_3 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
tx_err_pkt_cnt							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
tx_err_pkt_cnt							
R-0h							

表 6-99. PKT_STAT_3 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	tx_err_pkt_cnt	R	0h	エラーあり Tx パケット (CR C エラー) カウンタ 注:0x639、0x63A、0x63B を順に読み出すと、レジスタはクリアされます

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.76 PKT_STAT_4 レジスタ (オフセット = 63Ch) [リセット = 0000h]

図 6-95 に、PKT_STAT_4 を示し、表 6-100 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-95. PKT_STAT_4 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
rx_pkt_cnt_15_0							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
rx_pkt_cnt_15_0							
R-0h							

表 6-100. PKT_STAT_4 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	rx_pkt_cnt_15_0	R	0h	Rx パケット カウンタの下位 16 ビット 注:0x63C、0x63D、0x63E を順に読み出すと、レジスタはクリアされます

6.6.2.77 PKT_STAT_5 レジスタ (オフセット = 63Dh) [リセット = 0000h]

図 6-96 に、PKT_STAT_5 を示し、表 6-101 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-96. PKT_STAT_5 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
rx_pkt_cnt_31_16							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
rx_pkt_cnt_31_16							
R-0h							

表 6-101. PKT_STAT_5 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	rx_pkt_cnt_31_16	R	0h	Rx パケット カウンタの上位 16 ビット 注：0x63C、0x63D、0x63E を順に読み出すと、レジスタはクリアされます

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.78 PKT_STAT_6 レジスタ (オフセット = 63Eh) [リセット = 0000h]

図 6-97 に、PKT_STAT_6 を示し、表 6-102 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-97. PKT_STAT_6 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
rx_err_pkt_cnt							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
rx_err_pkt_cnt							
R-0h							

表 6-102. PKT_STAT_6 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	rx_err_pkt_cnt	R	0h	エラーあり Rx パケット (CRC エラー) カウンタ 注:0x63C、0x63D、0x63E を順に読み出すと、レジスタはクリアされます

6.6.2.79 SQI_REG_1 レジスタ (オフセット = 871h) [リセット = 0000h]

図 6-98 に、SQI_REG_1 を示し、表 6-103 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-98. SQI_REG_1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							

7	6	5	4	3	2	1	0
worst_sqi_out			RESERVED	sqi_out			RESERVED
R-0h			R-0h	R-0h			R-0h

表 6-103. SQI_REG_1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-8	RESERVED	R	0h	予約済み
7-5	worst_sqi_out	R	0h	3 ビット 前回の読み取り以降の Wprst SQI (上記の SQI マッピングを参照) 読み出し時にクリア
4	RESERVED	R	0h	予約済み
3-1	sqi_out	R	0h	3 ビット SQI - (この mse は平均二乗誤差 0x875[9:0] のこと) 0b000 = MSE > 102 0b001 = 81 < MSE ≤102 0b010 = 65 < MSE ≤ 81 0b011 = 51 < MSE ≤ 65 0b100 = 41 < MSE ≤ 51 0b101 = 32 < MSE ≤ 41 0b110 = 25 < MSE ≤ 32 0b111 = MSE ≤ 25
0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.80 DSP_REG_74 レジスタ (オフセット = 874h) [リセット = 0000h]

図 6-99 に、DSP_REG_74 を示し、表 6-104 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-99. DSP_REG_74 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
worst_peak_mse_out							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
peak_mse_out							
R-0h							

表 6-104. DSP_REG_74 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-8	worst_peak_mse_out	R	0h	TC12 (前述のピーク MSE マッピングを参照) の読み取り時にクリアされた最後の読み取り以降の最大 MSE 出力
7-0	peak_mse_out	R	0h	TC12 に基づくピーク MSE - この値は 0.0625* 2 乗スライサの平均誤差 (最大値= 0.015625) です。 実際の 2 乗スライサ誤差を得るには、この値を 248 で割ります。

6.6.2.81 DSP_REG_75 レジスタ (オフセット = 875h) [リセット = 0000h]

図 6-100 に、DSP_REG_75 を示し、表 6-105 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

図 6-100. DSP_REG_75 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED				RESERVED		mse_lock	
R-0h				R-0h		R-0h	
7	6	5	4	3	2	1	0
mse_lock							
R-0h							

表 6-105. DSP_REG_75 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-12	RESERVED	R	0h	予約済み
11-10	RESERVED	R	0h	予約済み
9-0	mse_lock	R	0h	SQI マッピングに使用される 10 ビット MSE。(MSE = レシーバの平均二乗誤差)

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.82 PMA_PMD_CONTROL_1 レジスタ (オフセット = 1000h) [リセット = 0000h]

図 6-101 に、PMA_PMD_CONTROL_1 を示し、表 6-106 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x1) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-101. PMA_PMD_CONTROL_1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
pma_reset_2	RESERVED			RESERVED	RESERVED		
R-0h	R-0h			R-0h	R-0h		
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED							
R-0h							

表 6-106. PMA_PMD_CONTROL_1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	pma_reset_2	R	0h	1 = PMA/PMD リセット 0 = 通常動作 注- RW ビット、セルフ クリア
14-12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	RESERVED	R	0h	予約済み
10-0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.83 PMA_PMD_CONTROL_2 レジスタ (オフセット = 1007h) [リセット = 003Dh]

図 6-102 に、PMA_PMD_CONTROL_2 を示し、表 6-107 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x1) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-102. PMA_PMD_CONTROL_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED		cfg_pma_type_selection					
R-0h		R/W-3Dh					

表 6-107. PMA_PMD_CONTROL_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-6	RESERVED	R	0h	予約済み
5-0	cfg_pma_type_selection	R/W	3Dh	デバイスの BASE-T1 タイプの選択 3Dh = デバイスの BASE-T1 タイプの選択

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.84 PMA_PMD_TRANSMIT_DISABLE レジスタ (オフセット = 1009h) [リセット = 0000h]

PMA_PMD_TRANSMIT_DISABLE を 図 6-103 に示し、表 6-108 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x1) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-103. PMA_PMD_TRANSMIT_DISABLE レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED							cfg_transmit_disable_2
R-0h							R-0h

表 6-108. PMA_PMD_TRANSMIT_DISABLE レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	cfg_transmit_disable_2	R	0h	1 = 送信ディセーブル 0 = 通常動作 注 - RW ビット

6.6.2.85 PMA_PMD_EXTENDED_ABILITY2 レジスタ (オフセット = 100Bh) [リセット = 0800h]

図 6-104 に、PMA_PMD_EXTENDED_ABILITY2 を示し、表 6-109 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x1) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-104. PMA_PMD_EXTENDED_ABILITY2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED				base_t1_extended_abilities	RESERVED		
R-0h				R-1h	R-0h		
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED							
R-0h							

表 6-109. PMA_PMD_EXTENDED_ABILITY2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	base_t1_extended_abilities	R	1h	1 = PMA/PMD にレジスタにリストされた BASE-T1 拡張機能あり 1.18 0 = PMA/PMD に BASE-T1 拡張機能なし
10-0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.86 PMA_PMD_EXTENDED_ABILITY レジスタ (オフセット = 1012h) [リセット = 0002h]

PMA_PMD_EXTENDED_ABILITY を 図 6-105 に示し、表 6-110 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x1) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-105. PMA_PMD_EXTENDED_ABILITY レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
RESERVED						mr_1000_base_t1_ability	mr_100_base_t1_ability
R-0h						R-1h	R-0h

表 6-110. PMA_PMD_EXTENDED_ABILITY レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-2	RESERVED	R	0h	予約済み
1	mr_1000_base_t1_ability	R	1h	1 = PMA/PMD は 1000BASE-T1 を実行可 0 = PMA/PMD は 1000BASE-T1 を実行不可
0	mr_100_base_t1_ability	R	0h	1 = PMA/PMD は 100BASE-T1 を実行可 0 = PMA/PMD は 100BASE-T1 を実行不可

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.87 PMA_PMD_CONTROL レジスタ (オフセット = 1834h) [リセット = 8001h]

PMA_PMD_CONTROL を 図 6-106 に示し、表 6-111 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x1) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-106. PMA_PMD_CONTROL レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED	cfg_master_slave_val	RESERVED					
R-0h	R/W-0h	R-0h					
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED				RESERVED			
R-0h				R-0h			

表 6-111. PMA_PMD_CONTROL レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	RESERVED	R	0h	予約済み
14	cfg_master_slave_val	R/W	0h	1 = PHY をマスタとして構成 0 = PHY をスレーブとして構成
13-4	RESERVED	R	0h	予約済み
3-0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.88 PMA_CONTROL レジスタ (オフセット = 1900h) [リセット = 0000h]

PMA_CONTROL を 図 6-107 に示し、表 6-112 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x1) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-107. PMA_CONTROL レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
pma_reset	cfg_transmit_disable	RESERVED		RESERVED	RESERVED		
R-0h	R-0h	R-0h		R-0h	R-0h		
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED							
R-0h							

表 6-112. PMA_CONTROL レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	pma_reset	R	0h	1 = PMA/PMD リセット 0 = 通常動作 注-RW ビット、セルフ クリア
14	cfg_transmit_disable	R	0h	1 = 送信ディセーブル 0 = 通常動作 注 - RW ビット
13-12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	RESERVED	R	0h	予約済み
10-0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.89 PMA_STATUS レジスタ (オフセット = 1901h) [リセット = 0900h]

PMA_STATUS を 図 6-108 に示し、表 6-113 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x1) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-108. PMA_STATUS レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED				oam_ability	eee_ability	receive_fault_ability	low_power_ability
R-0h				R-1h	R-0h	R-0h	R-1h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED					receive_polarity	receive_fault	pma_receive_link_status_ll
R-0h					R-0h	R-0h	R/W0S-0h

表 6-113. PMA_STATUS レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	oam_ability	R	1h	1 = PHY は 1000BASE-T1 OAM 機能を備えている 0 = PHY は 1000BASE-T1 OAM 機能を備えていない
10	eee_ability	R	0h	1 = PHY は EEE 機能を備えている 0 = PHY は EEE 機能を備えていない
9	receive_fault_ability	R	0h	1 = PMA/PMD には受信パスの故障条件を検出する機能あり 0 = PMA/PMD は受信パスのフォルト条件を検出する機能なし
8	low_power_ability	R	1h	1 = PMA/PMD には低消費電力機能あり 0 = PMA/PMD には低消費電力機能なし
7-3	RESERVED	R	0h	予約済み
2	receive_polarity	R	0h	1 = 受信極性を反転する 0 = 受信極性を反転しない
1	receive_fault	R	0h	1 = 故障条件が検出された 0 = 故障条件は検出されていない
0	pma_receive_link_status_ll	R/W0S	0h	1 = PMA/PMD 受信リンクアップ 0 = PMA/PMD 受信リンクダウン

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.90 TRAINING レジスタ (オフセット = 1902h) [リセット = 0002h]

TRAINING を 図 6-109 に示し、表 6-114 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x1) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-109. TRAINING レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED					cfg_training_user_fld		
R-0h					R/W-0h		
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
cfg_training_user_fld				RESERVED		cfg_oam_en	cfg_eee_en
R/W-0h				R-0h		R/W-1h	R/W-0h

表 6-114. TRAINING レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-11	RESERVED	R	0h	予約済み
10-4	cfg_training_user_fld	R/W	0h	リンク パートナーに送信するための 7 ビットのユーザー定義フィールド
3-2	RESERVED	R	0h	予約済み
1	cfg_oam_en	R/W	1h	1 = 1000BASE-T1 OAM 機能がリンクパートナーにアドバタイズされる 0 = 1000BASE-T1 OAM 機能がリンク パートナーにアドバタイズされない
0	cfg_eee_en	R/W	0h	1 = EEE 機能がリンクパートナーにアドバタイズされる 0 = EEE 機能がリンク パートナーにアドバタイズされない

6.6.2.91 LP_TRAINING レジスタ (オフセット = 1903h) [リセット = 0000h]

LP_TRAINING を 図 6-110 に示し、表 6-115 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x1) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-110. LP_TRAINING レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED					lp_training_user_fld		
R-0h					R-0h		
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
lp_training_user_fld				RESERVED		lp_oam_adv	lp_eee_adv
R-0h				R-0h		R-0h	R-0h

表 6-115. LP_TRAINING レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-11	RESERVED	R	0h	予約済み
10-4	lp_training_user_fld	R	0h	リンク パートナーから受信した 7 ビットのユーザー定義フィールド
3-2	RESERVED	R	0h	予約済み
1	lp_oam_adv	R	0h	1 = リンク パートナーは 1000BASE-T1 OAM 機能を備えている 0 = リンク パートナーは 1000BASE-T1 OAM 機能を備えていない
0	lp_eee_adv	R	0h	1 = リンクパートナーに EEE 機能があり 0 = リンク パートナーに EEE 機能なし

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.92 TEST_MODE_CONTROL レジスタ (オフセット = 1904h) [リセット = 0000h]

TEST_MODE_CONTROL を 図 6-111 に示し、表 6-116 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x1) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-111. TEST_MODE_CONTROL レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
cfg_test_mode			RESERVED				
R/W-0h			R-0h				
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED							
R-0h							

表 6-116. TEST_MODE_CONTROL レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-13	cfg_test_mode	R/W	0h	111 = テスト モード 7 110 =テスト モード 6 101 =テスト モード 5 100 =テスト モード 4 011 =予約済み 010 =テスト モード 2 001 =テスト モード 1 000 =通常 (非テスト) 動作
12-0	RESERVED	R	0h	予約済み

6.6.2.93 PCS_CONTROL レジスタ (オフセット = 3900h) [リセット = 0000h]

PCS_CONTROL を 図 6-112 に示し、表 6-117 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-112. PCS_CONTROL レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
pcs_reset	RESERVED	RESERVED					
R-0h	R-0h	R-0h					
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED							
R-0h							

表 6-117. PCS_CONTROL レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	pcs_reset	R	0h	注- RW ビット、セルフ クリア ビット 0h = 通常動作 1h = PCS リセット
14	RESERVED	R	0h	予約済み
13-0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.94 PCS_STATUS レジスタ (オフセット = 3901h) [リセット = 0000h]

PCS_STATUS を 図 6-113 に示し、表 6-118 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-113. PCS_STATUS レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED				RESERVED	RESERVED	RESERVED	RESERVED
R-0h				R-0h	R-0h	R-0h	R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
pcs_fault	RESERVED				pcs_receive_link_status_ll	RESERVED	
R-0h	R-0h				R/W0S-0h	R-0h	

表 6-118. PCS_STATUS レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-12	RESERVED	R	0h	予約済み
11	RESERVED	R	0h	予約済み
10	RESERVED	R	0h	予約済み
9	RESERVED	R	0h	予約済み
8	RESERVED	R	0h	予約済み
7	pcs_fault	R	0h	0h = 故障条件は検出されていない 1h = 故障条件が検出された
6-3	RESERVED	R	0h	予約済み
2	pcs_receive_link_status_ll	R/W0S	0h	0h = PCS 受信リンク ダウン 1h = PCS 受信リンク アップ
1-0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.95 PCS_STATUS_2 レジスタ (オフセット = 3902h) [リセット = 0000h]

図 6-114 に、PCS_STATUS_2 を示し、表 6-119 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-114. PCS_STATUS_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED					pcs_receive_link_status	hi_rfer	block_lock
R-0h					R-0h	R-0h	R-0h
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
hi_rfer_lh	block_lock_ll	RESERVED					
R/W0C-0h	R/W0S-0h	R-0h					

表 6-119. PCS_STATUS_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-11	RESERVED	R	0h	予約済み
10	pcs_receive_link_status	R	0h	0h = PCS 受信リンク ダウン 1h = PCS 受信リンク アップ
9	hi_rfer	R	0h	0h = PCS は High BER を報告していない 1h = PCS が High BER を報告している
8	block_lock	R	0h	0h = PCS は受信ブロックにロックされていない 1h = PCS は受信ブロックにロックされている
7	hi_rfer_lh	R/W0C	0h	0h = PCS は High BER を報告していない 1h = PCS は High BER を報告している
6	block_lock_ll	R/W0S	0h	0h = PCS にブロック ロックなし 1h = PCS にブロックロックあり
5-0	RESERVED	R	0h	予約済み

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.96 OAM_TRANSMIT レジスタ (オフセット = 3904h) [リセット = 0000h]

OAM_TRANSMIT を 図 6-115 に示し、表 6-120 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-115. OAM_TRANSMIT レジスタ

<table>
<tr><td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>9</td><td>8</td></tr>
<tr><td>mr_tx_valid</td><td>mr_tx_toggle</td><td>mr_tx_received</td><td>mr_tx_received
_toggle</td><td colspan="4">mr_tx_message_num</td></tr>
<tr><td>R/WMC,0-0h</td><td>R-0h</td><td>R-0h</td><td>R-0h</td><td colspan="4">R/W-0h</td></tr>
<tr><td>7</td><td>6</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr>
<tr><td colspan="4">RESERVED</td><td>mr_rx_ping</td><td>mr_tx_ping</td><td colspan="2">mr_tx_snr</td></tr>
<tr><td colspan="4">R-0h</td><td>R-0h</td><td>R/W-0h</td><td colspan="2">R-0h</td></tr>
</table>

表 6-120. OAM_TRANSMIT レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	mr_tx_valid	R/WMC、0	0h	このビットは、レジスタ 3.2308.11:8、3.2309、3.2310、3.2311、および 3.2312 のメッセージ データが有効でロード可能であることを示すために使用されます。 ステートマシンによってレジスタが ロードされると、このビットは自己クリアされます。 1 = レジスタのメッセージ データ有効 0 = レジスタのメッセージ データ無効
14	mr_tx_toggle	R	0h	メッセージとともに送信する値を切り替えます。 このビットはステートマシンによって設定されるため、ユーザーがオーバーライドすることはできません。
13	mr_tx_received	R	0h	このビットは読み出すと自動的にクリアされます。 1 = リンクパートナーが受信した 1000BASE-T1 OAM メッセージ 0 = リンクパートナーが受信していない 1000BASE-T1 OAM メッセージ
12	mr_tx_received_toggle	R	0h	リンク パートナー が受信したメッセージのトグル値
11-8	mr_tx_message_num	R/W	0h	送信するユーザー定義のメッセージ番号
7-4	RESERVED	R	0h	予約済み
3	mr_rx_ping	R	0h	最新の正常な 1000BASE-T1 OAM フレームから受信した PingTx 値
2	mr_tx_ping	R/W	0h	リンクパートナーに送信する Ping 値
1-0	mr_tx_snr	R	0h	00 = PHY リンクに故障が発生しているため、現在の 1000BASE-T1 OAM フレームが終了してから 2ms ～ 4ms 以内にリンクをドロップし、再リンクを行う必要があります。 01 = LPI のリフレッシュが PHY SNR を維持に不十分。LPI を終了してアイドルを送信するようにリンク パートナーを要求します (EEE が有効の場合のみ使用)。 10 = PHY SNR が不十分。 11 = PHY SNR は十分。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.97 OAM_TX_MESSAGE_1 レジスタ (オフセット = 3905h) [リセット = 0000h]

図 6-116 に、OAM_TX_MESSAGE_1 を示し、表 6-121 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-116. OAM_TX_MESSAGE_1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
mr_tx_message_15_0							
R/W-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
mr_tx_message_15_0							
R/W-0h							

表 6-121. OAM_TX_MESSAGE_1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	mr_tx_message_15_0	R/W	0h	メッセージ オクテット 1/0。LSB が最初に送信されます。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.98 OAM_TX_MESSAGE_2 レジスタ (オフセット = 3906h) [リセット = 0000h]

図 6-117 に、OAM_TX_MESSAGE_2 を示し、表 6-122 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-117. OAM_TX_MESSAGE_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
mr_tx_message_31_16							
R/W-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
mr_tx_message_31_16							
R/W-0h							

表 6-122. OAM_TX_MESSAGE_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	mr_tx_message_31_16	R/W	0h	メッセージ オクテット 3/2。LSB が最初に送信されます。

6.6.2.99 OAM_TX_MESSAGE_3 レジスタ (オフセット = 3907h) [リセット = 0000h]

図 6-118 に、OAM_TX_MESSAGE_3 を示し、表 6-123 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-118. OAM_TX_MESSAGE_3 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
mr_tx_message_47_32							
R/W-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
mr_tx_message_47_32							
R/W-0h							

表 6-123. OAM_TX_MESSAGE_3 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	mr_tx_message_47_32	R/W	0h	メッセージ オクテット 5/4。LSB が最初に送信されます。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.100 OAM_TX_MESSAGE_4 レジスタ (オフセット = 3908h) [リセット = 0000h]

図 6-119 に、OAM_TX_MESSAGE_4 を示し、表 6-124 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-119. OAM_TX_MESSAGE_4 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
mr_tx_message_63_48							
R/W-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
mr_tx_message_63_48							
R/W-0h							

表 6-124. OAM_TX_MESSAGE_4 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	mr_tx_message_63_48	R/W	0h	メッセージ オクテット 7/6。LSB が最初に送信されます。

6.6.2.101 OAM_RECEIVE レジスタ (オフセット = 3909h) [リセット = 0000h]

OAM_RECEIVE を 図 6-120 に示し、表 6-125 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-120. OAM_RECEIVE レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
mr_rx_lp_valid	mr_rx_lp_toggle	RESERVED		mr_rx_lp_message_num			
R-0h	R-0h	R-0h		R-0h			
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED						mr_rx_lp_SNR	
R-0h						R-0h	

表 6-125. OAM_RECEIVE レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15	mr_rx_lp_valid	R	0h	このビットは、レジスタ 3.2313.11:8、3.2314、3.2315、3.2316、および 3.2317 のメッセージ データが格納され、読み取り準備ができていることを示すために使用されます。 レジスタ 3.2317 を読み出すと、このビットは自動的にクリアされます。 0h = レジスタのメッセージデータ無効 1h = レジスタのメッセージデータ有効
14	mr_rx_lp_toggle	R	0h	メッセージとともに受信したトグル値 注 - 区別するために [15:12] に 0x3 を追加
13-12	RESERVED	R	0h	予約済み
11-8	mr_rx_lp_message_num	R	0h	リンク パートナーからのメッセージ番号 注 - 区別するために [15:12] に 0x3 を追加
7-2	RESERVED	R	0h	予約済み
1-0	mr_rx_lp_SNR	R	0h	00 = リンク パートナー リンクに故障が発生しているため、現在の 1000BASE-T1 OAM フレームが終了してから 2ms ～ 4ms 以内にリンクをドロップし、再リンクする必要があります。 01 = LPI のリフレッシュがリンク パートナー SNR を維持に不十分。リンク パートナーはローカル デバイスに LPI を終了してアイドルを送信するよう要求します (EEE が有効の場合のみ使用)。 10 = リンク パートナー SNR が不十分。 11 = リンク パートナー SNR は十分

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.102 OAM_RX_MESSAGE_1 レジスタ (オフセット = 390Ah) [リセット = 0000h]

図 6-121 に、OAM_RX_MESSAGE_1 を示し、表 6-126 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-121. OAM_RX_MESSAGE_1 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
mr_rx_lp_message_15_0							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
mr_rx_lp_message_15_0							
R-0h							

表 6-126. OAM_RX_MESSAGE_1 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	mr_rx_lp_message_15_0	R	0h	メッセージ オクテット 1/0。LSB が最初に送信されます。

6.6.2.103 OAM_RX_MESSAGE_2 レジスタ (オフセット = 390Bh) [リセット = 0000h]

図 6-122 に、OAM_RX_MESSAGE_2 を示し、表 6-127 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-122. OAM_RX_MESSAGE_2 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
mr_rx_lp_message_31_16							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
mr_rx_lp_message_31_16							
R-0h							

表 6-127. OAM_RX_MESSAGE_2 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	mr_rx_lp_message_31_16	R	0h	メッセージ オクテット 3/2。LSB が最初に送信されます。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.104 OAM_RX_MESSAGE_3 レジスタ (オフセット = 390Ch) [リセット = 0000h]

図 6-123 に、OAM_RX_MESSAGE_3 を示し、表 6-128 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-123. OAM_RX_MESSAGE_3 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
mr_rx_lp_message_47_32							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
mr_rx_lp_message_47_32							
R-0h							

表 6-128. OAM_RX_MESSAGE_3 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	mr_rx_lp_message_47_32	R	0h	メッセージ オクテット 5/4。LSB が最初に送信されます。

6.6.2.105 OAM_RX_MESSAGE_4 レジスタ (オフセット = 390Dh) [リセット = 0000h]

図 6-124 に、OAM_RX_MESSAGE_4 を示し、表 6-129 に、その説明を示します。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x3) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-124. OAM_RX_MESSAGE_4 レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
mr_rx_lp_message_63_48							
R-0h							
7	6	5	4	3	2	1	0
mr_rx_lp_message_63_48							
R-0h							

表 6-129. OAM_RX_MESSAGE_4 レジスタのフィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-0	mr_rx_lp_message_63_48	R	0h	メッセージ オクテット 7/6。LSB が最初に送信されます。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

6.6.2.106 AN_CFG レジスタ (オフセット = 7200h) [リセット = 0000h]

AN_CFG を 図 6-125 に示し、表 6-130 で説明しています。

概略表に戻ります。

レジスタ アドレスの最初のニブル (0x7) は、MMD レジスタ空間を示します。レジスタにアクセスする場合、最初のニブルを無視します。

図 6-125. AN_CFG レジスタ

15	14	13	12	11	10	9	8
RESERVED							
R-0h							
7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**0**
RESERVED							mr_main_reset
R-0h							R/WSC-0h

表 6-130. AN_CFG レジスタ フィールドの説明

ビット	フィールド	タイプ	リセット	概要
15-1	RESERVED	R	0h	予約済み
0	mr_main_reset	R/WSC	0h	1 = リセット リンク同期 / 自動ネゴシエーション 注 - RW ビット

7 アプリケーションと実装

注

以下のアプリケーション情報は、TI の製品仕様に含まれるものではなく、TI ではその正確性または完全性を保証いたしません。個々の目的に対する製品の適合性については、お客様の責任で判断していただくことになります。お客様は自身の設計実装を検証しテストすることで、システムの機能を確認する必要があります。

7.1 アプリケーション情報

DP83TG720S-Q1 はシングル・ポートの 1Gbps 車載用イーサネット PHY です。本デバイスは IEEE 802.3bp をサポートしており、RGMII または SGMII を使ってイーサネット MAC に接続できます。イーサネット・アプリケーションで本デバイスを使用する場合、通常動作のための一定の要件を満たす必要があります。以下のサブセクションは、適切な部品選択と必要な接続に役立つことを目的としています。

7.2 代表的なアプリケーション

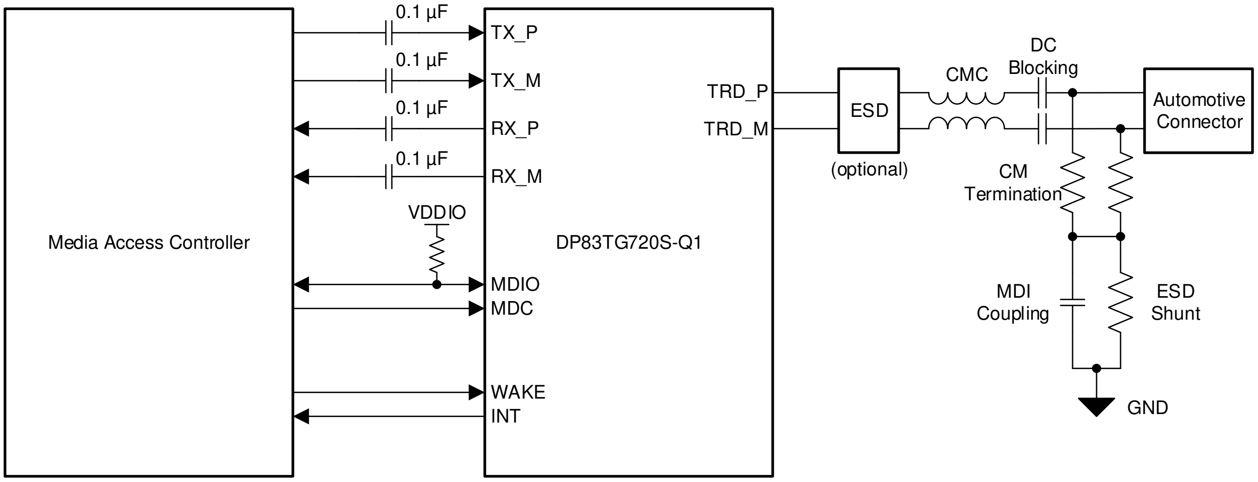


図 7-1. 代表的なアプリケーション (SGMII)

表 7-1. MDI ネットワーク用の推奨部品

設計パラメータ	値
DC ブロッキング コンデンサ 1	0.1µF
コモン モード チョーク	Murata：DLW32MH101XT2
コモン モード終端抵抗 1 2	1kΩ
MDI カップリング コンデンサ	4.7nF
ESD シャント	100kΩ

1. リターン ロスとモード変換の仕様に対するマージンを確保するため、許容誤差 1% の部品を推奨します。
2. CM 終端抵抗のサイズを 0805 より大きくすると、ESD マージンの拡大に役立ちます。

7.3 電源に関する推奨事項

DP83TG720S-Q1 は、広い IO 電源電圧範囲 (3.3V、2.5V、1.8V) で動作できます。電源シーケンス制御は不要です。次の図に、推奨される電源デカップリング ネットワークを示します。

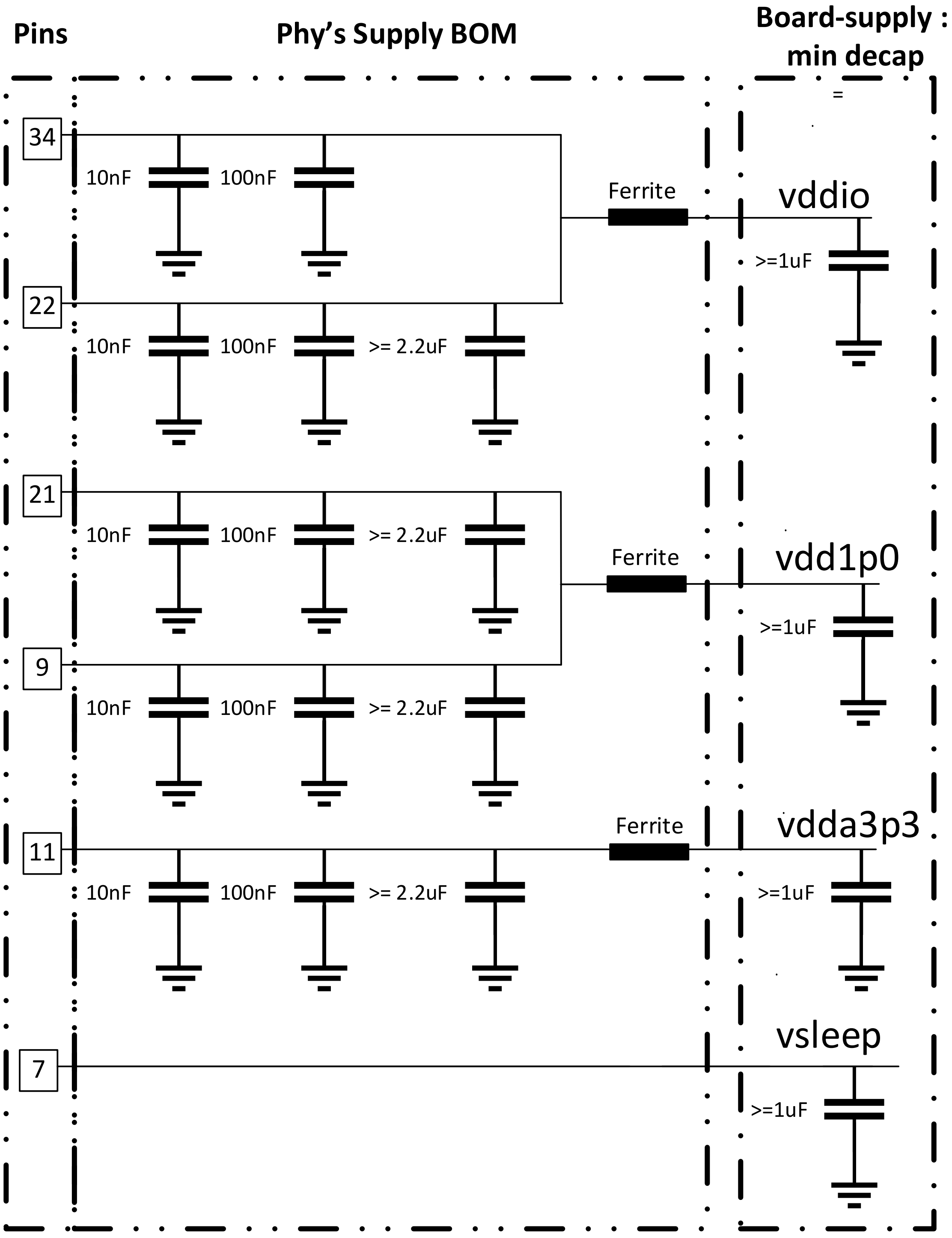


図 7-2. 推奨電源デカップリング ネットワーク (アプリケーションでスリープ モードを使用する場合)

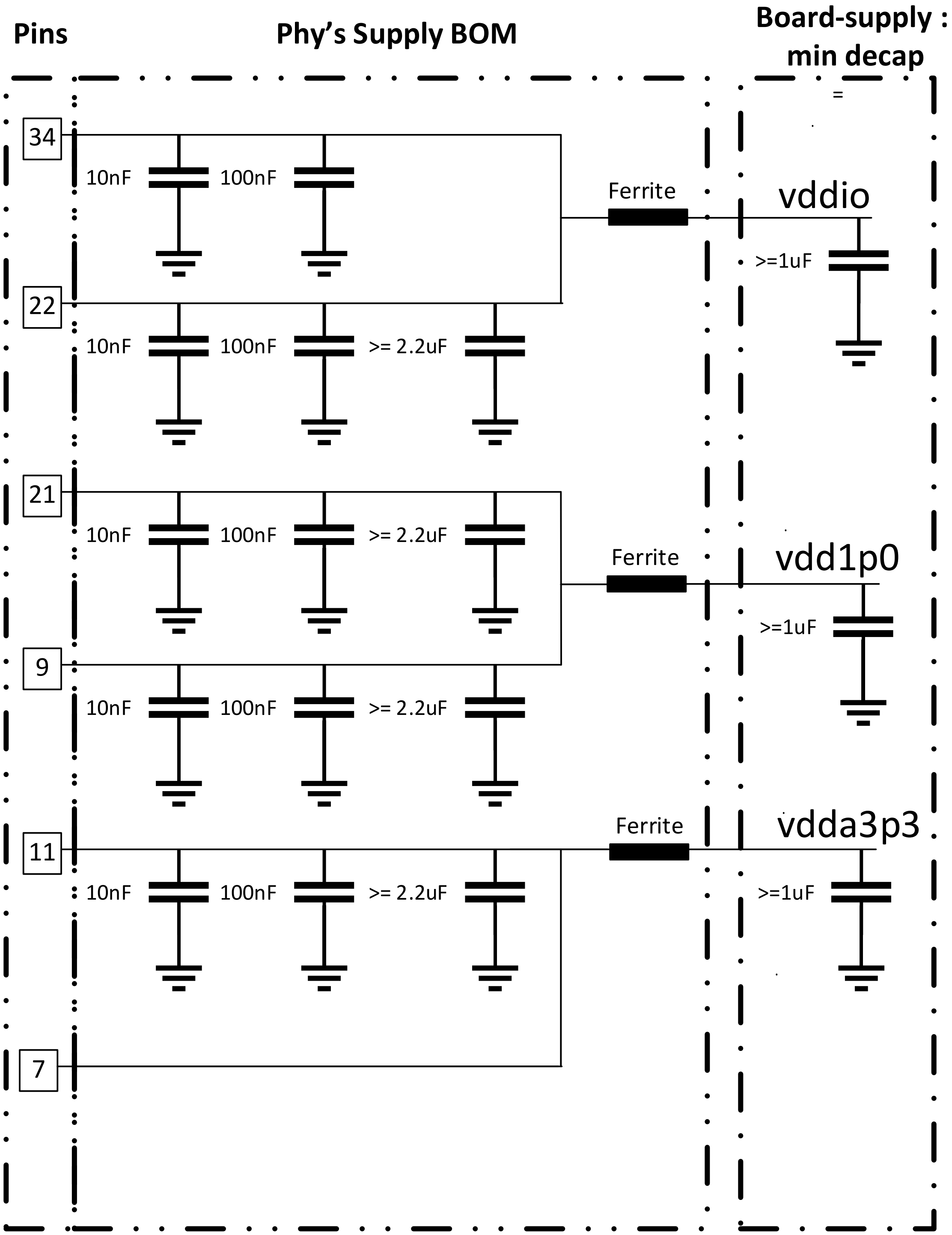


図 7-3. 推奨電源デカップリング ネットワーク (アプリケーションでスリープ モードを使用しない場合)

表 7-2. 電源ネットワークの推奨部品

設計パラメータ	値
V_{DDIO}	1.8V、2.5V、または 3.3V
デカップリング コンデンサ V_{DDIO} (ピン 34)	10nF、100nF
デカップリング コンデンサ V_{DDIO} (ピン 22)	10nF、100nF、2.2uF
VDDIO 用の一体型フェライト ビーズ	BLM18HE102SN1

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

表 7-2. 電源ネットワークの推奨部品 (続き)

設計パラメータ	値
V_{DDA}	3.3V
デカップリング コンデンサ V_{DDA} (ピン 11)	10nF、100nF、2.2uF
V_{DDA} 用フェライト ビーズ	BLM18KG601SH1
V_{DD1p0}	1V
デカップリング コンデンサ V_{DD1P0} (ピン 9)	10nF、100nF、2.2uF
デカップリング コンデンサ V_{DDA} (ピン 21)	10nF、100nF、2.2uF
V_{DD1P0} 用の一体型フェライト ビーズ	BLM18KG601SH1
V_{sleep}	3.3V

注

VDD1P0 および VSLEEP 用 LDO の推奨事項については、『DP83TC811、DP83TG730 ロールオーバ ドキュメント』アプリケーション レポートを参照してください。

7.4 テキサス・インスツルメンツの 100BT1 PHY との互換性

次の表に、DP83TC811 と DP83TG720 のピン比較を示します。太字で強調されたピンは、100BT1 と 1000BT1 の両方の PHY に対応する共通ボードを設計する際に注意を必要とします。100BT1 と 1000BT1 の PHY の異なる BOM 要件も、共通ボードでは注意を必要とします。

共通ボード設計の詳細と推奨事項については、『*DP83TC811*、DP83TG720 ロールオーバ・ドキュメント』アプリケーション・レポートを参照してください。

表 7-3. ピン比較表

ピン番号	DP83TC811	DP83TG720
1	MDC	MDC
2	INT_N	INT_N
3	RESET_N	RESET_N
4	XO	XO
5	XI	XI
6	LED_1	LED_1
7	**EN**	**VSLEEP**
8	**WAKE**	**WAKE**
9	**DNC**	**VDD1P0**
10	**INH**	**INH**
11	VDDA	VDDA
12	TRD_P	TRD_P
13	TRD_M	TRD_M
14	RX_ER	STRP1
15	RX_DV	RX_CTRL
16	CLKOUT	CLKOUT
17	**TCK**	**DNC**
18	**TDO**	**DNC**
19	**TMS**	**DNC**
20	**TCK**	**DNC**
21	**DNC**	**VDD1P0**
22	VDDIO	VDDIO
23	RX_D3	RX_D3

表 7-3. ピン比較表 (続き)

ピン番号	DP83TC811	DP83TG720
24	RX_D2	RX_D2
25	RX_D1	RX_D1
26	RX_D0	RX_D0
27	RX_CLK	RX_CLK
28	TXCLK	TXCLK
29	TX_EN	TX_CTRL
30	TX_D3	TX_D3
31	TX_D2	TX_D2
32	TX_D1	TX_D1
33	TX_D0	TX_D0
34	**TX_ER**	**VDDIO**
35	LED_0	LED_0
36	MDIO	MDIO

7.5 レイアウト

7.5.1 レイアウトのガイドライン

7.5.1.1 信号トレース

PCB トレースは損失が大きいため、長いトレースが信号品質を低下させる可能性があります。トレースはできるだけ短くする必要があります。特に記述のない限り、すべての信号トレースは 50Ω のシングルエンド インピーダンスでなくてはなりません。差動トレースは、50Ω シングルエンドおよび 100Ω 差動でなくてはなりません。インピーダンスの不連続性は反射を引き起こし、放射とシグナル インテグリティの問題につながります。スタブは、すべての信号トレース (特に差動信号ペア) で回避しなければなりません。

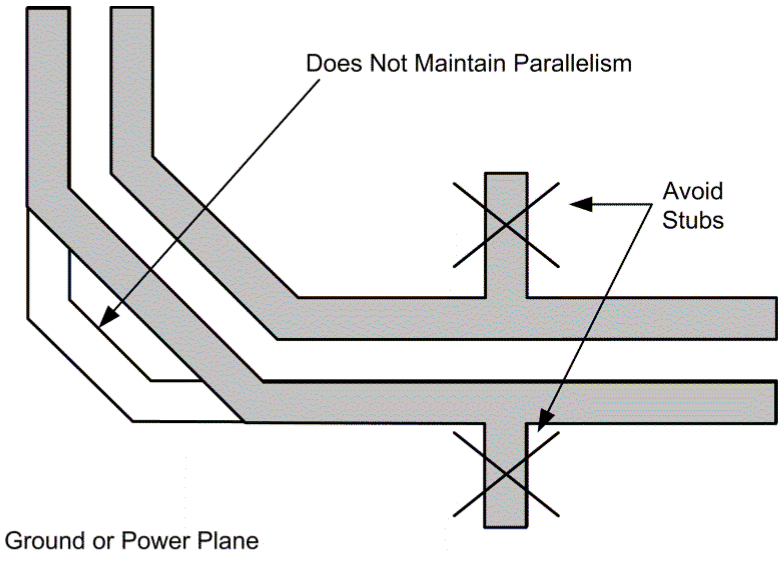


図 7-4. 差動信号トレースの配線

差動ペア内では、トレースを互いに並行させ、長さを一致させる必要があります。長さを一致させることで遅延の差が最小化され、同相ノイズと放射の増加を防止できます。MAC インターフェイス接続でも、長さを一致させることは重要です。すべての送信信号トレースは互いに同じ長さ、すべての受信信号トレースは互いに同じ長さでなくてはなりません。

信号パスのトレースでは交差やビアは避けてください。ビアにはインピーダンスの不連続性を生じさせるため、できるだけ少なくします。トレース ペアは同じ層に配線します。異なる層の信号は、それらの間に少なくとも 1 つの復帰パス プレーン

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

がない限り、互いに交差させてはなりません。差動ペアは、それらの間の結合距離を常に一定に保つ必要があります。利便性と効率性を高めるため、重要な信号 (例:MDI 差動ペア、基準クロック、MAC IF トレース) を最初に配線することを推奨します。

7.5.1.2 復帰パス

一般に最も良い方法は、すべての信号トレースの下にベタの復帰パスを設けることです。この復帰パスは、連続的なグランドまたは DC 電源プレーンであってもかまいません。復帰パスの幅を狭くすると、信号トレースのインピーダンスに影響を及ぼす可能性があります。この影響は、復帰パスの幅が信号トレースの幅と同等である場合、より顕著になります。信号トレースの間の復帰パスの断線は、避ける必要があります。分割されたプレーンをまたぐ信号は、予測不可能な復帰パス電流を引き起こし、信号の品質に影響を及ぼし、放射の問題を引き起こします。

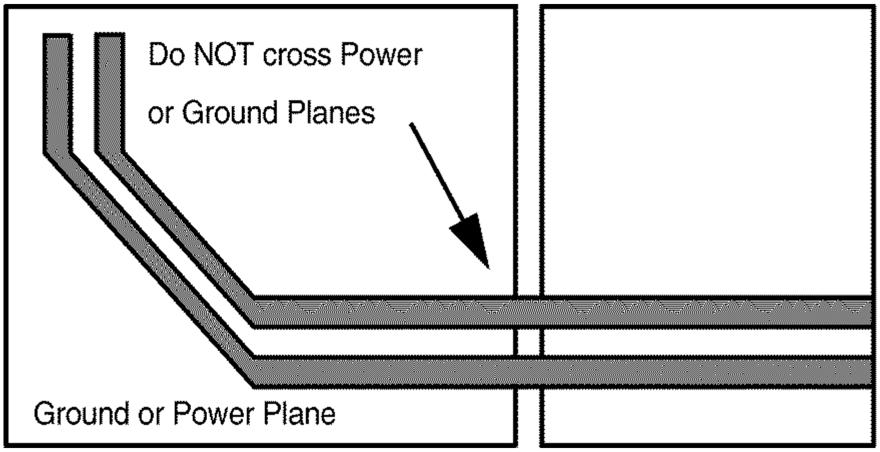


図 7-5. 電源およびグランド プレーンの割れ目

7.5.1.3 物理メディアの接続

コモン モード チョークの下には金属を配置できません。CMC はその下にある金属にノイズを注入する可能性があり、システムの放射と耐性の性能に影響を及ぼす可能性があります。DP83TG720S-Q1 は電圧モード ライン ドライバであるため、外部終端抵抗は不要です。グランドに対して ESD シャントと MDI カップリング コンデンサを接続する必要があります。差動カップリングを改善するため、許容誤差が 1% 以下の同相モード終端抵抗を選択してください。

7.5.1.4 金属注入

信号でも電源でもないすべての金属注入領域は、グランドに接続する必要があります。システム内に浮動の金属が存在していないことと、差動パターン間に金属が存在していないことが必要です。

7.5.1.5 PCB 層スタッキング

シグナル・インテグリティと性能の要件を満たすには、4 層以上の PCB を推奨します。しかし、可能であれば 6 層以上の PCB を使うべきです。

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

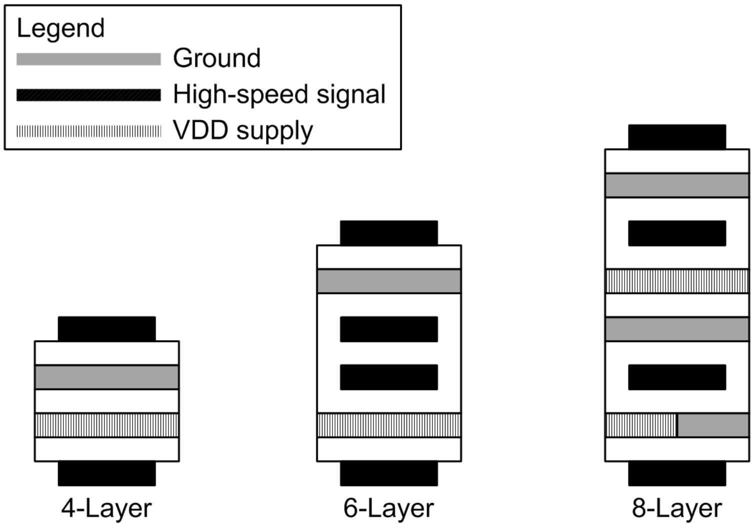


図 7-6. 推奨される PCB 層構成

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

8 デバイスおよびドキュメントのサポート

注

テキサス・インスツルメンツでは、より包括的な用語を使用するように移行を進めています。一部の言語については、特定のテクノロジー分野で期待される言語とは異なる場合があります。

8.1 ドキュメントの更新通知を受け取る方法

ドキュメントの更新についての通知を受け取るには、www.tij.co.jp のデバイス製品フォルダを開いてください。[通知] をクリックして登録すると、変更されたすべての製品情報に関するダイジェストを毎週受け取ることができます。 変更の詳細については、改訂されたドキュメントに含まれている改訂履歴をご覧ください。

8.2 サポート・リソース

テキサス・インスツルメンツ E2E™ サポート・フォーラムは、エンジニアが検証済みの回答と設計に関するヒントをエキスパートから迅速かつ直接得ることができる場所です。既存の回答を検索したり、独自の質問をしたりすることで、設計で必要な支援を迅速に得ることができます。

リンクされているコンテンツは、各寄稿者により「現状のまま」提供されるものです。これらはテキサス・インスツルメンツの仕様を構成するものではなく、必ずしもテキサス・インスツルメンツの見解を反映したものではありません。テキサス・インスツルメンツの使用条件を参照してください。

8.3 商標

テキサス・インスツルメンツ E2E™ is a trademark of Texas Instruments.
すべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

8.4 静電気放電に関する注意事項

この IC は、ESD によって破損する可能性があります。テキサス・インスツルメンツは、IC を取り扱う際には常に適切な注意を払うことを推奨します。正しい取り扱いおよび設置手順に従わない場合、デバイスを破損するおそれがあります。

ESD による破損は、わずかな性能低下からデバイスの完全な故障まで多岐にわたります。精密な IC の場合、パラメータがわずかに変化するだけで公表されている仕様から外れる可能性があるため、破損が発生しやすくなっています。

8.5 用語集

テキサス・インスツルメンツ用語集　　この用語集には、用語や略語の一覧および定義が記載されています。

9 改訂履歴

資料番号末尾の英字は改訂を表しています。その改訂履歴は英語版に準じています。

Changes from Revision E (February 2022) to Revision F (April 2025) **Page**

- レジスタ 0x619 および 0x624 の書き込み順序を変更 32
- パラメータ「slope_temperature_sensor」を変更 36
- DP83TG720-Q1 では自動極性訂正は無効化できないという記述を追加 46
- 読みやすさを向上するシリアル マネージメント インターフェイスの説明を簡略化 52
- 表 7-18 の LED_0 ピンの番号を 1 から 35 に変更 56
- レジスタマップから未使用のレジスタ フィールドを削除 60

Changes from Revision D (March 2021) to Revision E (February 2022) **Page**

- ドキュメントのタイトルを更新 0
- 「ピン機能」の表の Strap_1 ピンの状態を入力のみに更新。「ピンの状態」の表と「ピン電源ドメイン表」を分離。 4
- ピンの状態の表で、パワー / リセットの INH ピンを PMOS、OD、O に更新。略語を更新。 6

- 「ピン電源ドメイン表」を追加...9
- 計算方法を更新することで SQI レベル数を増やしたことを示すために SQI セクションを更新。............................... 26
- TDR のアプリケーション ノートのリンクを更新...26
- アナログ ループバック、デジタル ループバック、PCS ループバックのために、0x0016 レジスタ値を 0x0108、0x0104、0x0101 に変更。..32
- ローカルとリモートによるスリープへの移行のステップを更新...43
- CM 抵抗の推奨パッケージ (0805) を更新.. 172

Changes from Revision C (February 2021) to Revision D (March 2021) — Page

- 顧客アプリケーションのマージンを増やすため、IOZ、2 レベル ブート ストラップのモード 2 スレッショルド、Rpull-down の最小 / 最大のデータシート制限値を更新。.. 10
- RGMII DLL_TX_DELAY の最小値 / 最大値、スリープ モードのタイミング パラメータ、レイテンシ パラメータ、リセット モード電力、スタンバイ モード電力、スリープ モード電力を追加。.. 10
- 内蔵プルダウン抵抗値を 4.5kΩ から 4.725kΩ に変更。.. 10
- スリープ モードへの移行を可能にするために使用するレジスタの訂正。...43
- リモート スリープ終了手順に詳細を追加。.. 43
- 1.8V 2 レベル ストラップのマージン拡大の注を追加。... 56

Changes from Revision B (February 2021) to Revision C (February 2021) — Page

- 「ピンの状態」の表の rx_cntrl ピンと strp_1 ピンのプルダウン抵抗値を更新。「仕様」セクションの正確な値に合わせて 6K から 6.3K に変更。...4
- OA 要件を満たすように SQI セクションを更新。..26
- ストラップ回路図を更新 (外付けプルダウンを削除)。...56

Changes from Revision A (December 2020) to Revision B (December 2020) — Page

- 「電源に関する推奨事項」の注を更新..172

Changes from Revision * (September 2020) to Revision A (December 2020) — Page

- マーケティング ステータスを事前情報から初回リリースに変更。.. 1

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

10 メカニカル、パッケージ、および注文情報

以降のページには、メカニカル、パッケージ、および注文に関する情報が記載されています。この情報は、指定のデバイスに対して提供されている最新のデータです。このデータは予告なく変更されることがあり、ドキュメントが改訂される場合もあります。本データシートのブラウザ版を使用されている場合は、画面左側の説明をご覧ください。

10.1 付録 : パッケージ・オプション

10.1.1 パッケージ情報

発注可能なデバイス	ステータス (1)	パッケージタイプ	パッケージ図	ピン	パッケージの数量	エコ プラン (2)	リード / ボール仕上げ(4)	MSL ピーク温度 (3)	動作温度 (℃)	デバイス マーキング(5) (6)
PDP83TG720SWCSTQ1	初期サンプル	VQFN	RHA	36	250	RoHS	NiPdAu	MSL3-260C	-40～125	
DP83TG720SWRHATQ1	アクティブ	VQFN	RHA	36	250	RoHS	NiPdAu	MSL3-260C	-40～125	720S
DP83TG720SWRHARQ1	アクティブ	VQFN	RHA	36	2500	RoHS	NiPdAu	MSL3-260C	-40～125	720S

(1) マーケティング ステータスの値は次のように定義されています。
供給中 : 新しい設計への使用が推奨される量産デバイス。
最終受注中 : テキサス・インスツルメンツによりデバイスの生産中止予定が発表され、ライフタイム購入期間が有効です。
非推奨品 : 新規設計には推奨しません。デバイスは既存の顧客をサポートするために生産されていますが、テキサス・インスツルメンツでは新規設計にこの部品を使用することを推奨していません。
量産開始前 : 量産されていない、市販されていない、またはウェブで発表されていない未発表デバイスで、サンプルは提供されていません。
プレビュー : デバイスは発表済みですが、まだ生産は開始されていません。サンプルが提供される場合と提供されない場合があります。
生産中止品 : テキサス・インスツルメンツはデバイスの生産を終了しました。

(2) エコ プラン - 環境に配慮した計画的な分類 : 鉛フリー (RoHS)、鉛フリー (RoHS 適用除外)、またはグリーン (RoHS 準拠、Sb/Br 非含有) があります。最新情報および製品内容の詳細については、http://www.ti.com/productcontent でご確認ください。
未定 : 鉛フリー / グリーン転換プランが策定されていません。
鉛フリー (RoHS) : テキサス・インスツルメンツにおける「Lead-Free」または「Pb-Free」(鉛フリー) は、6 つの物質すべてに対して現在の RoHS 要件を満たしている半導体製品を意味します。これには、同種の材質内で鉛の重量が 0.1% を超えないという要件も含まれます。高温はんだに対応した テキサス・インスツルメンツ鉛フリー製品は、鉛フリー仕様プロセスでの使用に適しています。
鉛フリー (RoHS 適用除外) : この部品は、1) ダイとパッケージとの間に鉛ベース フリップ チップのはんだバンプ使用、または 2) ダイとリードフレームとの間に鉛ベースの接着剤を使用、のいずれかについて、RoHS が免除されています。この部品はそれ以外の点では、上記の定義の鉛フリー (RoHS 準拠) の条件を満たしています。
グリーン (RoHS 準拠、Sb/Br 非含有) : テキサス・インスツルメンツにおけるグリーンは、鉛フリー (RoHS 互換) に加えて、臭素 (Br) およびアンチモン (Sb) をベースとした難燃材を含まない (均質な材質中の Br または Sb 重量が 0.1% を超えない) ことを意味しています。

(3) MSL、ピーク温度-- JEDEC 業界標準分類に従った耐湿性レベル、およびピークはんだ温度です。

(4) リード / ボール仕上げ - 発注可能なデバイスには、複数の材料仕上げオプションが用意されていることがあります。複数の仕上げオプションは、縦罫線で区切られています。リード / ボール仕上げの値が最大列幅に収まらない場合は、2 行にまたがります。

(5) ロゴ、ロット トレース コード情報、または環境カテゴリに関する追加マークがデバイスに表示されることがあります

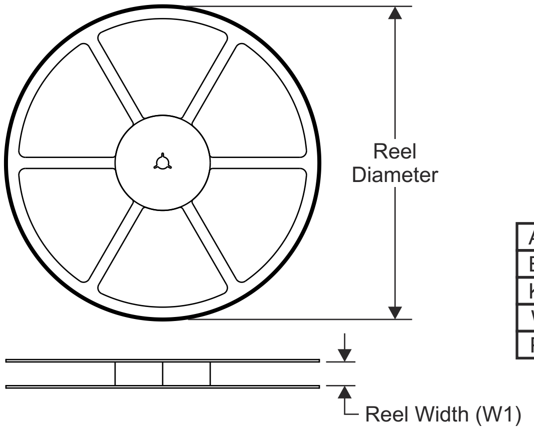
(6) 複数のデバイス マーキンクが、括弧書きされています。カッコ内に複数のデバイス マーキングがあり、「～」で区切られている場合、その中の 1 つだけがデバイスに表示されます。行がインデントされている場合は、前行の続きということです。2 行合わせたものが、そのデバイスのデバイス マーキング全体となります。

重要なお知らせと免責事項 : このページに掲載されている情報は、発行日現在のテキサス・インスツルメンツの知識および見解を示すものです。テキサス・インスツルメンツの知識および見解は、第三者によって提供された情報に基づいており、そのような情報の正確性について何らの表明および保証も行うものではありません。第三者からの情報をより良く統合するための努力は続けております。テキサス・インスツルメンツでは、事実を適切に表す正確な情報を提供すべく妥当な手順を踏み、引き続きそれを継続してゆきますが、受け入れる部材および化学物質に対して破壊試験や化学分析は実行していない場合があります。テキサス・インスツルメンツおよび テキサス・インスツルメンツのサプライヤは、特定の情報を機密情報として扱っているため、CAS 番号やその他の制限された情報が公開されない場合があります。

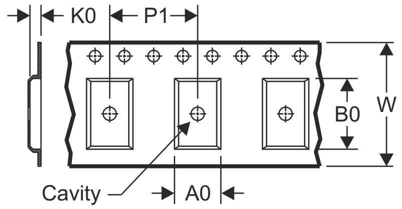
いかなる場合においても、そのような情報から生じたテキサス・インスツルメンツの責任は、このドキュメント発行時点でのテキサス・インスツルメンツ製品の価格に基づくテキサス・インスツルメンツからお客様への合計購入価格 (年次ベース) を超えることはありません。

10.1.2 テープおよびリール情報

REEL DIMENSIONS

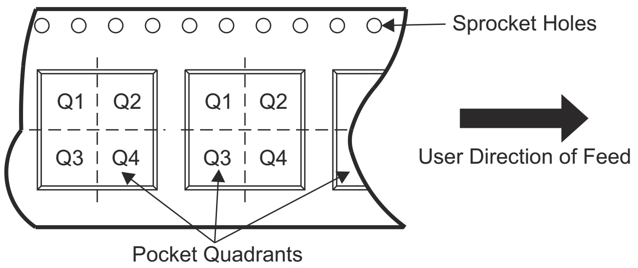


TAPE DIMENSIONS



A0	Dimension designed to accommodate the component width
B0	Dimension designed to accommodate the component length
K0	Dimension designed to accommodate the component thickness
W	Overall width of the carrier tape
P1	Pitch between successive cavity centers

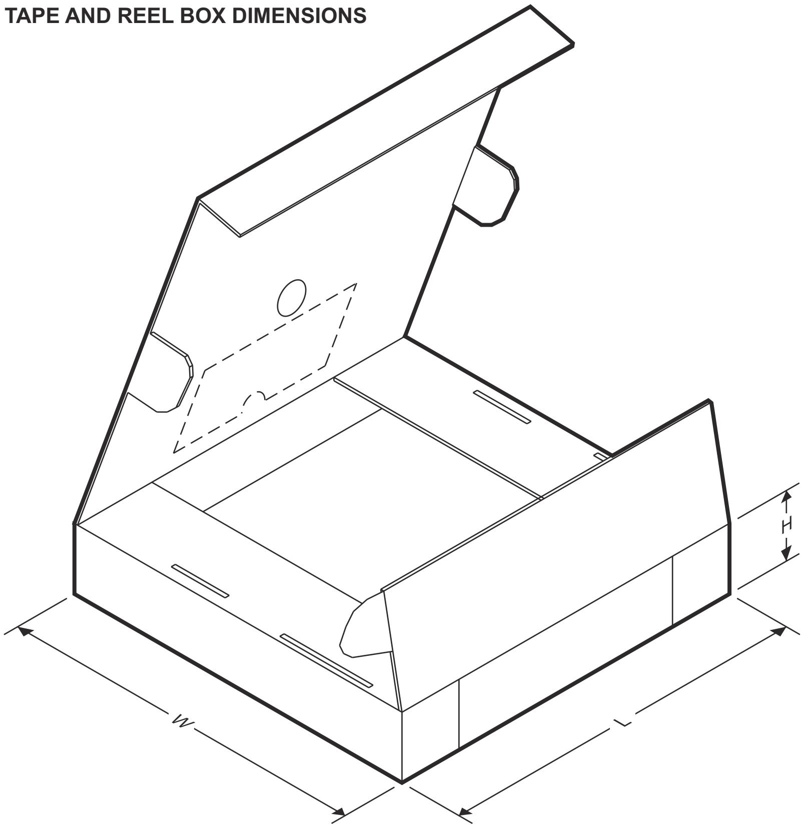
QUADRANT ASSIGNMENTS FOR PIN 1 ORIENTATION IN TAPE



デバイス	パッケージタイプ	パッケージ図	ピン数	SPQ	リール直径 (mm)	リール幅 W1 (mm)	A0 (mm)	B0 (mm)	K0 (mm)	P1 (mm)	W (mm)	ピン 1 の象限
PDP83TG720SWCSTQ1	VQFN	RHA	36	250	テキサス・インスツルメンツのサポートにお電話ください	テキサス・インスツルメンツのサポートにお電話ください	テキサス・インスツルメンツのサポートにお電話ください	テキサス・インスツルメンツのサポートにお電話ください	テキサス・インスツルメンツのサポートにお電話ください	テキサス・インスツルメンツのサポートにお電話ください	テキサス・インスツルメンツのサポートにお電話ください	テキサス・インスツルメンツのサポートにお電話ください
DP83TG720SWRHATQ1	VQFN	RHA	36	250	180	16.4	6.3	6.3	1.1	12	16	Q2
DP83TG720SWRHARQ1	VQFN	RHA	36	2500	330	16.4	6.3	6.3	1.1	12	16	Q2

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

TAPE AND REEL BOX DIMENSIONS



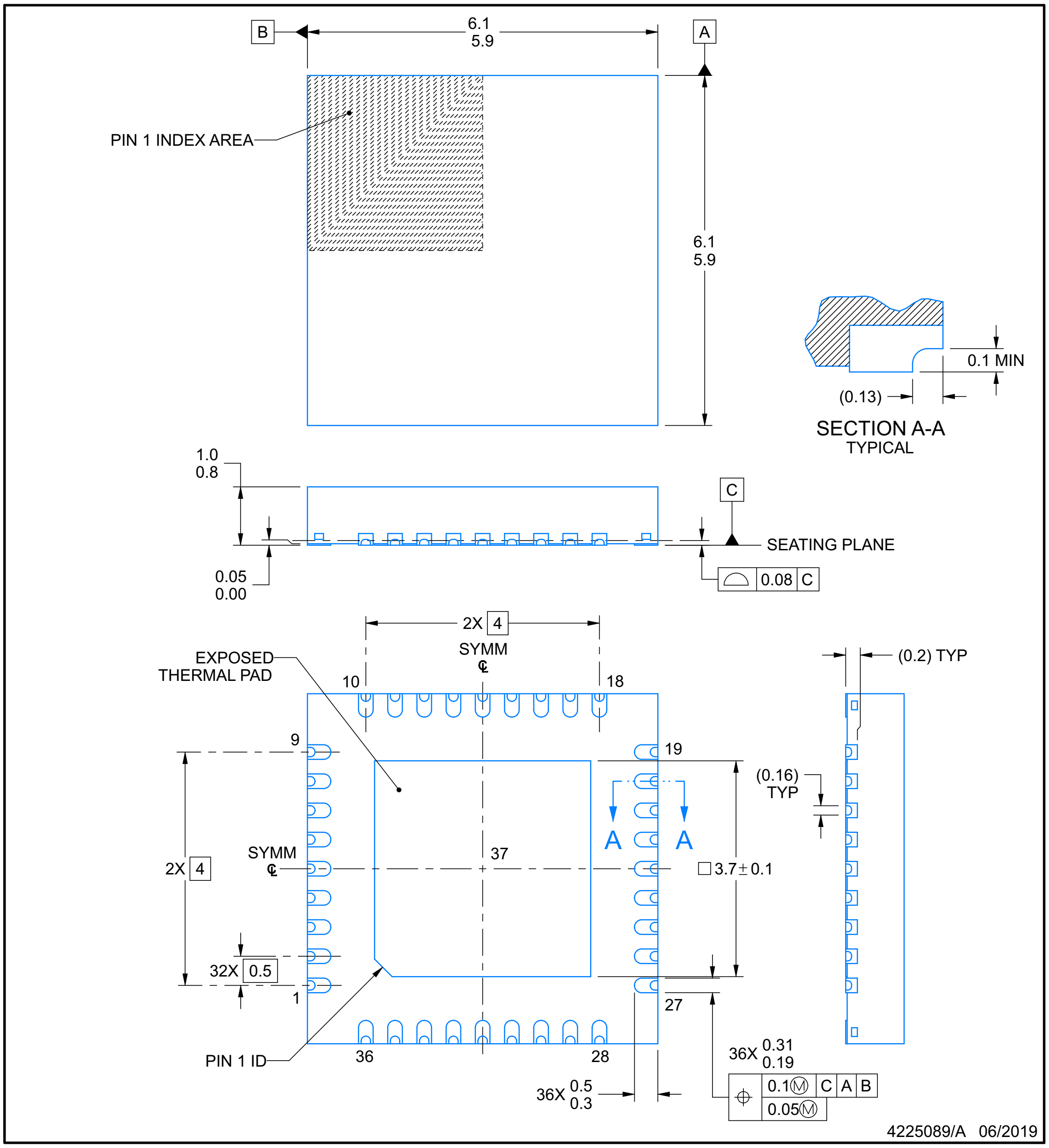
デバイス	パッケージ タイプ	パッケージ図	ピン数	SPQ	長さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)
DP83TG720SWRHATQ1	VQFN	RHA	36	250	210	185	35
DP83TG720SWRHARQ1	VQFN	RHA	36	2500	367	367	35

PACKAGE OUTLINE

RHA0036A

VQFN - 1 mm max height

PLASTIC QUAD FLATPACK - NO LEAD



NOTES:

1. All linear dimensions are in millimeters. Any dimensions in parenthesis are for reference only. Dimensioning and tolerancing per ASME Y14.5M.
2. This drawing is subject to change without notice.
3. The package thermal pad must be soldered to the printed circuit board for thermal and mechanical performance.

TEXAS INSTRUMENTS
www.ti.com

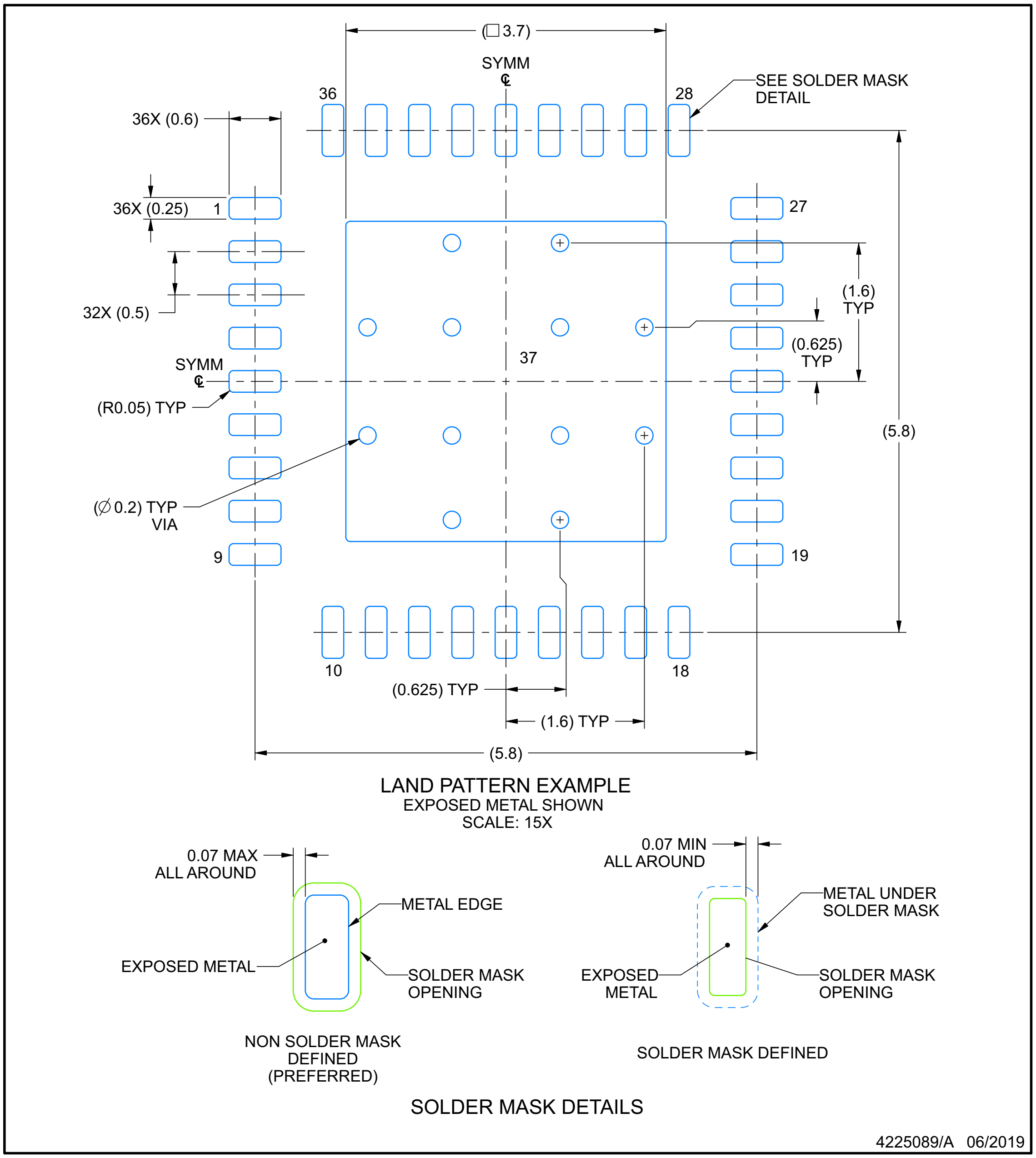
Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

EXAMPLE BOARD LAYOUT

RHA0036A

VQFN - 1 mm max height

PLASTIC QUAD FLATPACK - NO LEAD



NOTES: (continued)

4. This package is designed to be soldered to a thermal pad on the board. For more information, see Texas Instruments literature number SLUA271 (www.ti.com/lit/slua271).
5. Vias are optional depending on application, refer to device data sheet. If any vias are implemented, refer to their locations shown on this view. It is recommended that vias under paste be filled, plugged or tented.

TEXAS INSTRUMENTS
www.ti.com

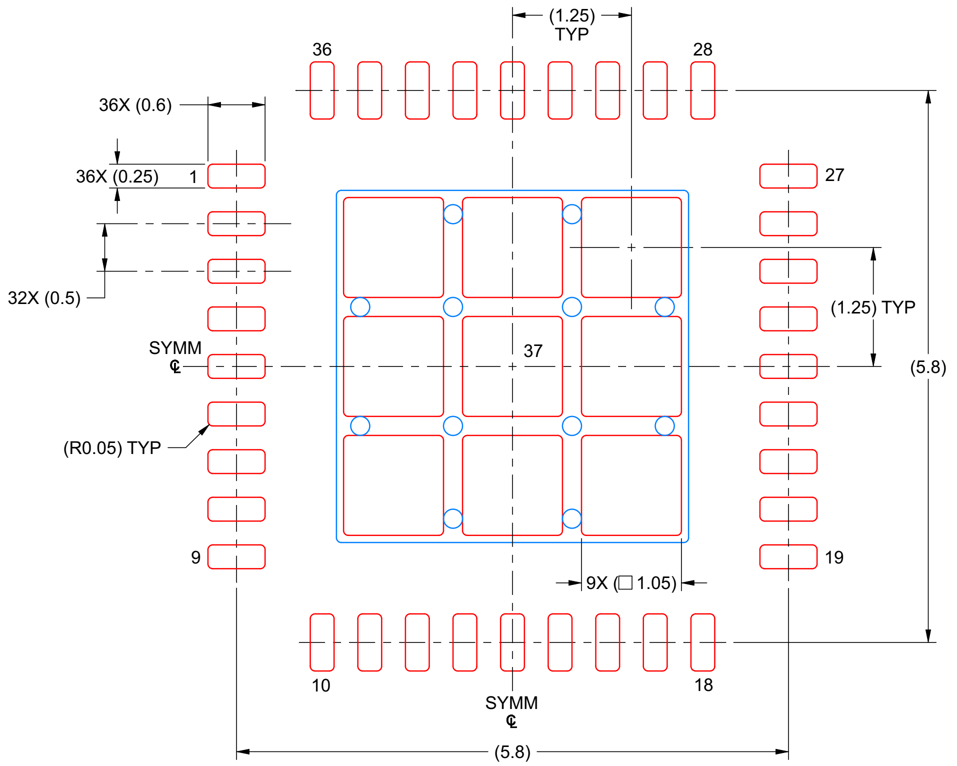
Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

EXAMPLE STENCIL DESIGN

RHA0036A

VQFN - 1 mm max height

PLASTIC QUAD FLATPACK - NO LEAD



SOLDER PASTE EXAMPLE
BASED ON 0.125 MM THICK STENCIL
SCALE: 15X

EXPOSED PAD 37
72% PRINTED SOLDER COVERAGE BY AREA UNDER PACKAGE

4225089/A 06/2019

NOTES: (continued)

6. Laser cutting apertures with trapezoidal walls and rounded corners may offer better paste release. IPC-7525 may have alternate design recommendations.

TEXAS INSTRUMENTS
www.ti.com

Copyright © 2025 Texas Instruments Incorporated

重要なお知らせと免責事項

テキサス・インスツルメンツは、技術データと信頼性データ (データシートを含みます)、設計リソース (リファレンス デザインを含みます)、アプリケーションや設計に関する各種アドバイス、Web ツール、安全性情報、その他のリソースを、欠陥が存在する可能性のある「現状のまま」提供しており、商品性および特定目的に対する適合性の黙示保証、第三者の知的財産権の非侵害保証を含むいかなる保証も、明示的または黙示的にかかわらず拒否します。

これらのリソースは、テキサス・インスツルメンツ製品を使用する設計の経験を積んだ開発者への提供を意図したものです。(1) お客様のアプリケーションに適した テキサス・インスツルメンツ製品の選定、(2) お客様のアプリケーションの設計、検証、試験、(3) お客様のアプリケーションに該当する各種規格や、その他のあらゆる安全性、セキュリティ、規制、または他の要件への確実な適合に関する責任を、お客様のみが単独で負うものとします。

上記の各種リソースは、予告なく変更される可能性があります。これらのリソースは、リソースで説明されている テキサス・インスツルメンツ製品を使用するアプリケーションの開発の目的でのみ、テキサス・インスツルメンツはその使用をお客様に許諾します。これらのリソースに関して、他の目的で複製することや掲載することは禁止されています。テキサス・インスツルメンツや第三者の知的財産権のライセンスが付与されている訳ではありません。お客様は、これらのリソースを自身で使用した結果発生するあらゆる申し立て、損害、費用、損失、責任について、テキサス・インスツルメンツおよびその代理人を完全に補償するものとし、テキサス・インスツルメンツは一切の責任を拒否します。

テキサス・インスツルメンツの製品は、テキサス・インスツルメンツの販売条件、または ti.com やかかる テキサス・インスツルメンツ製品の関連資料などのいずれかを通じて提供する適用可能な条項の下で提供されています。テキサス・インスツルメンツがこれらのリソースを提供することは、適用されるテキサス・インスツルメンツの保証または他の保証の放棄の拡大や変更を意味するものではありません。

お客様がいかなる追加条項または代替条項を提案した場合でも、テキサス・インスツルメンツはそれらに異議を唱え、拒否します。

郵送先住所：Texas Instruments, Post Office Box 655303, Dallas, Texas 75265
Copyright © 2025, Texas Instruments Incorporated

PACKAGING INFORMATION

Orderable part number	Status (1)	Material type (2)	Package | Pins	Package qty | Carrier	RoHS (3)	Lead finish/ Ball material (4)	MSL rating/ Peak reflow (5)	Op temp (°C)	Part marking (6)
DP83TG720SWRHARQ1	Active	Production	VQFN (RHA) | 36	2500 | LARGE T&R	Yes	NIPDAU	Level-3-260C-168 HR	-40 to 125	720S
DP83TG720SWRHARQ1.A	Active	Production	VQFN (RHA) | 36	2500 | LARGE T&R	Yes	NIPDAU	Level-3-260C-168 HR	-40 to 125	720S
DP83TG720SWRHATQ1	Active	Production	VQFN (RHA) | 36	250 | SMALL T&R	Yes	NIPDAU	Level-3-260C-168 HR	-40 to 125	720S
DP83TG720SWRHATQ1.A	Active	Production	VQFN (RHA) | 36	250 | SMALL T&R	Yes	NIPDAU	Level-3-260C-168 HR	-40 to 125	720S

(1) **Status:** For more details on status, see our product life cycle.

(2) **Material type:** When designated, preproduction parts are prototypes/experimental devices, and are not yet approved or released for full production. Testing and final process, including without limitation quality assurance, reliability performance testing, and/or process qualification, may not yet be complete, and this item is subject to further changes or possible discontinuation. If available for ordering, purchases will be subject to an additional waiver at checkout, and are intended for early internal evaluation purposes only. These items are sold without warranties of any kind.

(3) **RoHS values:** Yes, No, RoHS Exempt. See the TI RoHS Statement for additional information and value definition.

(4) **Lead finish/Ball material:** Parts may have multiple material finish options. Finish options are separated by a vertical ruled line. Lead finish/Ball material values may wrap to two lines if the finish value exceeds the maximum column width.

(5) **MSL rating/Peak reflow:** The moisture sensitivity level ratings and peak solder (reflow) temperatures. In the event that a part has multiple moisture sensitivity ratings, only the lowest level per JEDEC standards is shown. Refer to the shipping label for the actual reflow temperature that will be used to mount the part to the printed circuit board.

(6) **Part marking:** There may be an additional marking, which relates to the logo, the lot trace code information, or the environmental category of the part.

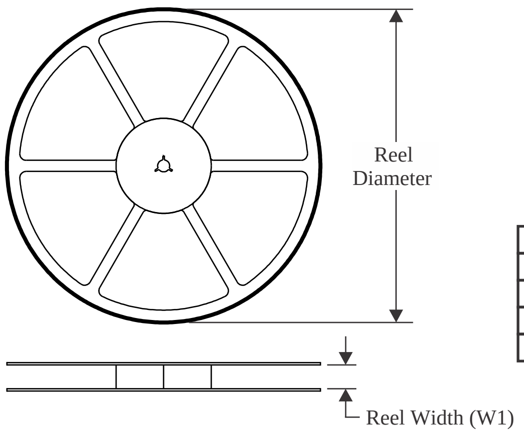
Multiple part markings will be inside parentheses. Only one part marking contained in parentheses and separated by a "~" will appear on a part. If a line is indented then it is a continuation of the previous line and the two combined represent the entire part marking for that device.

Important Information and Disclaimer: The information provided on this page represents TI's knowledge and belief as of the date that it is provided. TI bases its knowledge and belief on information provided by third parties, and makes no representation or warranty as to the accuracy of such information. Efforts are underway to better integrate information from third parties. TI has taken and continues to take reasonable steps to provide representative and accurate information but may not have conducted destructive testing or chemical analysis on incoming materials and chemicals. TI and TI suppliers consider certain information to be proprietary, and thus CAS numbers and other limited information may not be available for release.

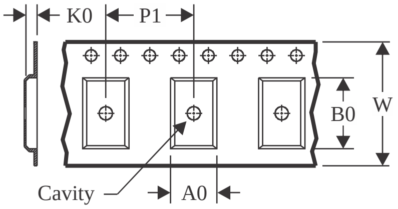
In no event shall TI's liability arising out of such information exceed the total purchase price of the TI part(s) at issue in this document sold by TI to Customer on an annual basis.

TAPE AND REEL INFORMATION

REEL DIMENSIONS

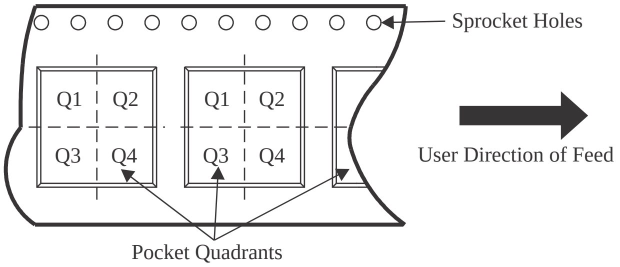


TAPE DIMENSIONS



A0	Dimension designed to accommodate the component width
B0	Dimension designed to accommodate the component length
K0	Dimension designed to accommodate the component thickness
W	Overall width of the carrier tape
P1	Pitch between successive cavity centers

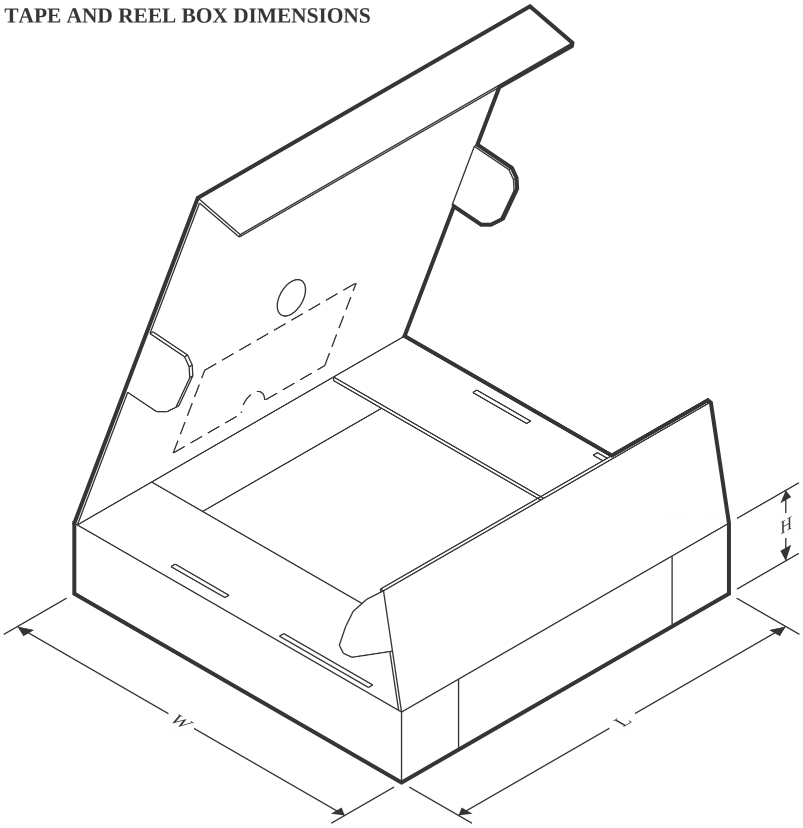
QUADRANT ASSIGNMENTS FOR PIN 1 ORIENTATION IN TAPE



*All dimensions are nominal

Device	Package Type	Package Drawing	Pins	SPQ	Reel Diameter (mm)	Reel Width W1 (mm)	A0 (mm)	B0 (mm)	K0 (mm)	P1 (mm)	W (mm)	Pin1 Quadrant
DP83TG720SWRHARQ1	VQFN	RHA	36	2500	330.0	16.4	6.3	6.3	1.1	12.0	16.0	Q2
DP83TG720SWRHATQ1	VQFN	RHA	36	250	180.0	16.4	6.3	6.3	1.1	12.0	16.0	Q2

TAPE AND REEL BOX DIMENSIONS



*All dimensions are nominal

Device	Package Type	Package Drawing	Pins	SPQ	Length (mm)	Width (mm)	Height (mm)
DP83TG720SWRHARQ1	VQFN	RHA	36	2500	367.0	367.0	35.0
DP83TG720SWRHATQ1	VQFN	RHA	36	250	210.0	185.0	35.0

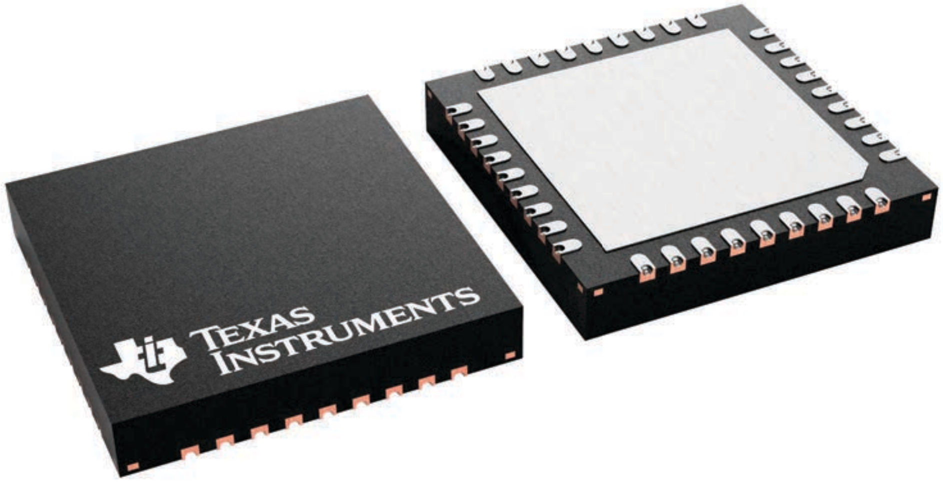
RHA 36

VQFN - 1 mm max height

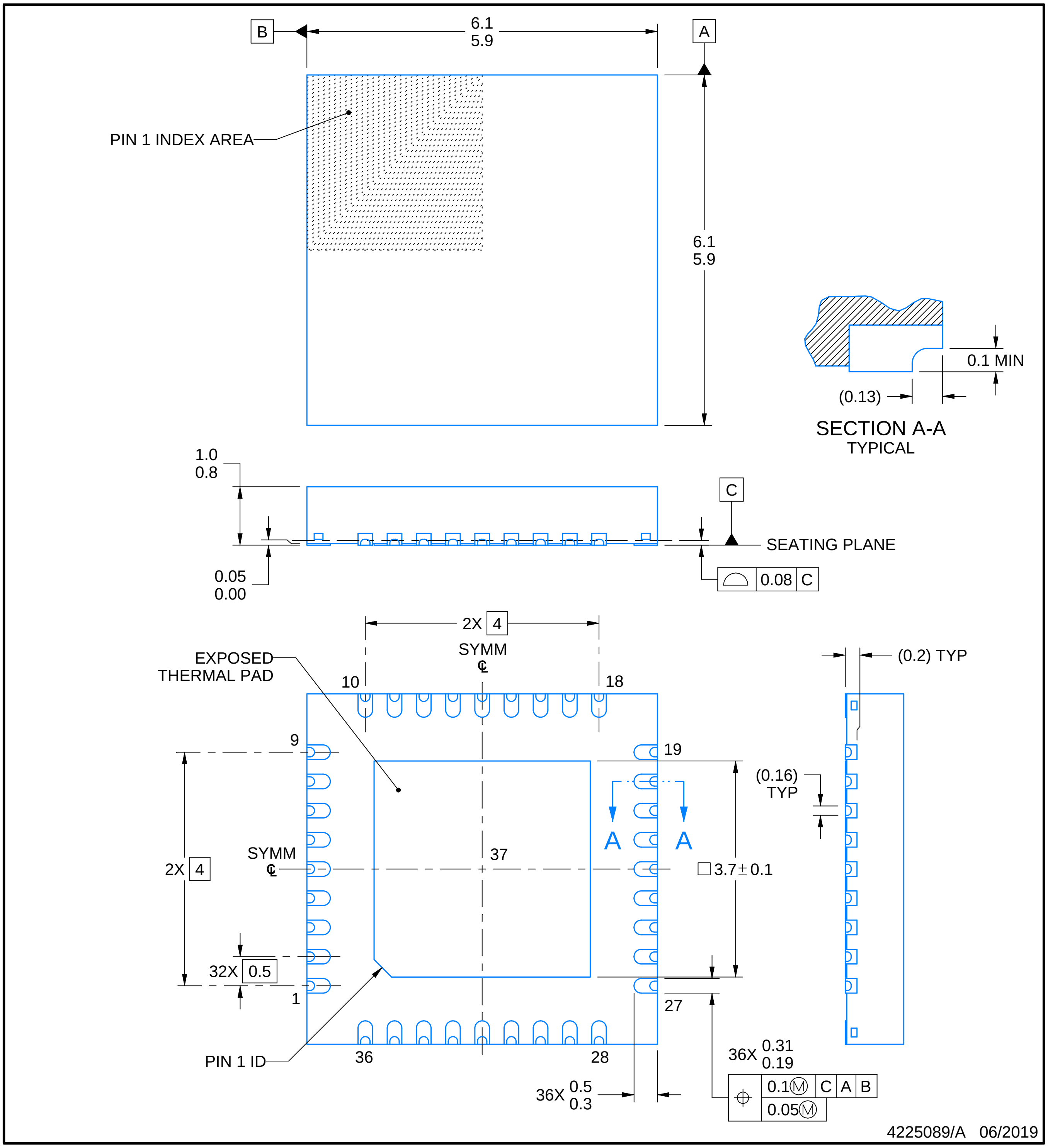
6 x 6, 0.5 mm pitch

PLASTIC QUAD FLATPACK - NO LEAD

This image is a representation of the package family, actual package may vary.
Refer to the product data sheet for package details.

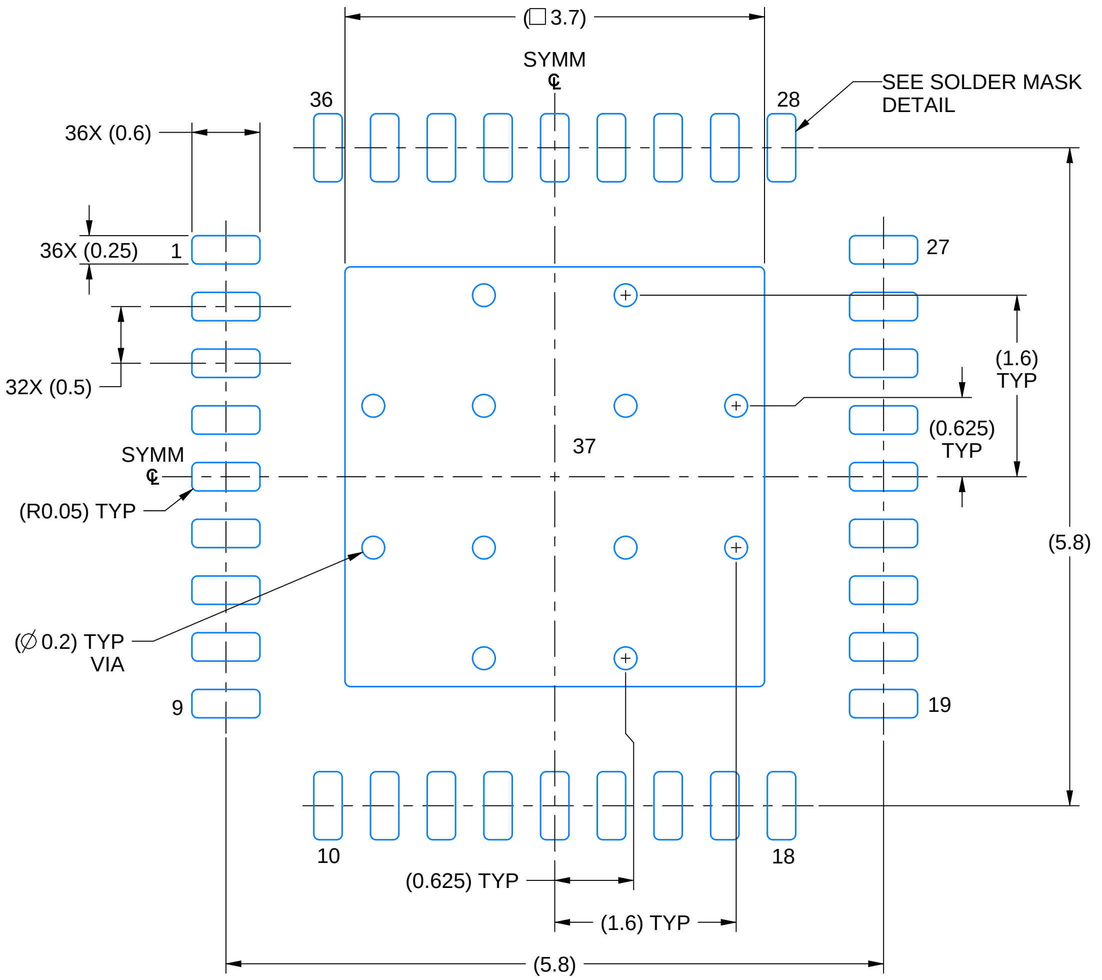


4228438/A

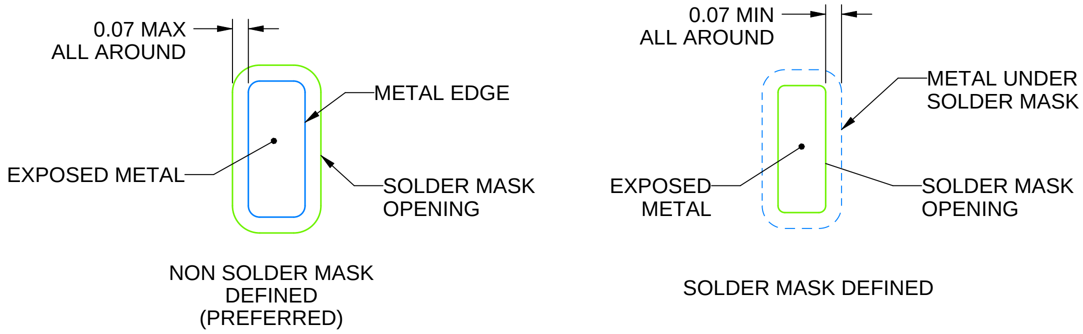


NOTES:

1. All linear dimensions are in millimeters. Any dimensions in parenthesis are for reference only. Dimensioning and tolerancing per ASME Y14.5M.
2. This drawing is subject to change without notice.
3. The package thermal pad must be soldered to the printed circuit board for thermal and mechanical performance.



LAND PATTERN EXAMPLE
EXPOSED METAL SHOWN
SCALE: 15X

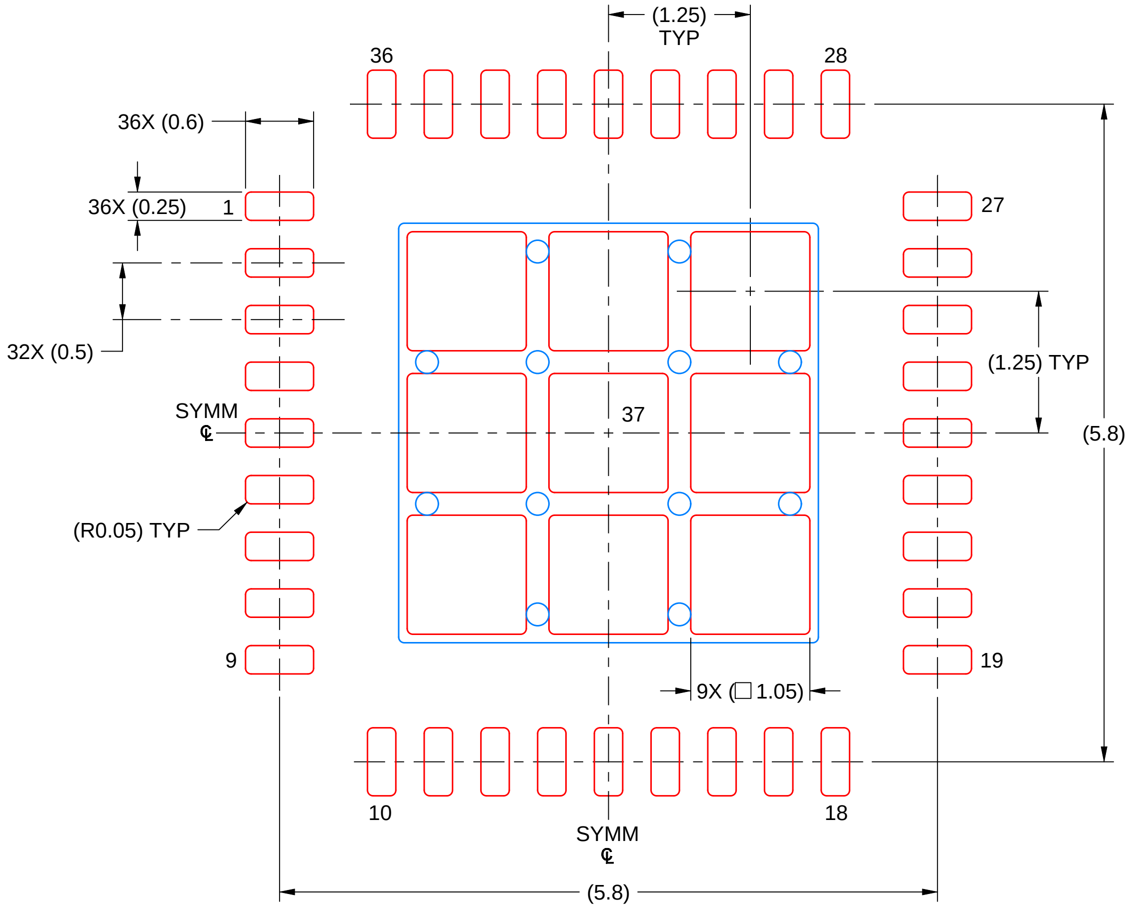


SOLDER MASK DETAILS

4225089/A 06/2019

NOTES: (continued)

4. This package is designed to be soldered to a thermal pad on the board. For more information, see Texas Instruments literature number SLUA271 (www.ti.com/lit/slua271).
5. Vias are optional depending on application, refer to device data sheet. If any vias are implemented, refer to their locations shown on this view. It is recommended that vias under paste be filled, plugged or tented.



SOLDER PASTE EXAMPLE
BASED ON 0.125 MM THICK STENCIL
SCALE: 15X

EXPOSED PAD 37
72% PRINTED SOLDER COVERAGE BY AREA UNDER PACKAGE

4225089/A 06/2019

NOTES: (continued)

6. Laser cutting apertures with trapezoidal walls and rounded corners may offer better paste release. IPC-7525 may have alternate design recommendations.

重要なお知らせと免責事項

TI は、技術データと信頼性データ (データシートを含みます)、設計リソース (リファレンス デザインを含みます)、アプリケーションや設計に関する各種アドバイス、Web ツール、安全性情報、その他のリソースを、欠陥が存在する可能性のある「現状のまま」提供しており、商品性および特定目的に対する適合性の黙示保証、第三者の知的財産権の非侵害保証を含むいかなる保証も、明示的または黙示的にかかわらず拒否します。

これらのリソースは、TI 製品を使用する設計の経験を積んだ開発者への提供を意図したものです。(1) お客様のアプリケーションに適した TI 製品の選定、(2) お客様のアプリケーションの設計、検証、試験、(3) お客様のアプリケーションに該当する各種規格や、その他のあらゆる安全性、セキュリティ、規制、または他の要件への確実な適合に関する責任を、お客様のみが単独で負うものとします。

上記の各種リソースは、予告なく変更される可能性があります。これらのリソースは、リソースで説明されている TI 製品を使用するアプリケーションの開発の目的でのみ、TI はその使用をお客様に許諾します。これらのリソースに関して、他の目的で複製することや掲載することは禁止されています。TI や第三者の知的財産権のライセンスが付与されている訳ではありません。お客様は、これらのリソースを自身で使用した結果発生するあらゆる申し立て、損害、費用、損失、責任について、TI およびその代理人を完全に補償するものとし、TI は一切の責任を拒否します。

TI の製品は、 TI の販売条件 、 TI の総合的な品質ガイドライン 、 ti.com または TI 製品などに関連して提供される他の適用条件に従い提供されます。TI がこれらのリソースを提供することは、適用される TI の保証または他の保証の放棄の拡大や変更を意味するものではありません。 TI がカスタム、またはカスタマー仕様として明示的に指定していない限り、TI の製品は標準的なカタログに掲載される汎用機器です。

お客様がいかなる追加条項または代替条項を提案する場合も、TI はそれらに異議を唱え、拒否します。

Copyright © 2025, Texas Instruments Incorporated

最終更新日：2025 年 10 月